The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得
Author(s)	Duangkaew, Paosathaporn
Citation	大阪大学, 2016, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/55708
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

博士論文

題目　タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得

提出年月　2015 年 12 月

言語文化研究科　日本語・日本文化専攻

氏名　ドゥアンケーオ　パオサタポーン

論文の要旨

論文題目　　タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得

氏名　　ドゥアンケーオ　パオサタポーン

外国人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得に関しては、これまで多数の研究がなされてきた。多くの先行研究では、「結果状態」の「テイル」は日本語学習者にとって習得が困難であり、その日本語学習者の「結果状態」の使用状況や習得が困難な原因が報告されている。しかし、多くの研究において得られた結果は、調査対象者の母語の影響を詳細に考慮せず、母語と関係なく学習者に共通する中間言語の現象として捉える立場に立つものが多い。また、多くの研究において得られた「結果状態」の「テイル」の習得状況は、文法テストなどの質問紙による調査の分析であり、フォローアップ・インタビューなどをして直接日本語学習者から聞いたものではないため、日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況を説明するには不十分であると考えられる。

そこで、本研究は、(調査協力者の母語であるタイ語の影響も含め) 日本語の「結果状態」の「テイル」を対応するタイ語の文法形式である「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」という 2 つのグループに分けて、各グループの習得状況と習得に影響を与える要因を、中・上級日本語学習者を対象に、主に文法テストとフォローアップ・インタビューを実施し把握しようと試みた。

本稿の意義を 2 つ挙げる。一つ目は、日本語の「結果状態」の「テイル」をそれに対応するタイ語の文法形式に分けて分析を行うことにより、これまでの先行研究よりタイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える要因を詳細に把握することができたことである。二つ目は、タイ語を用いてフォローアップ・インタビューを実施することにより、調査協力者が答えを選択する際に考えていることや選択理由を詳細に把握できたことである。調査の結果、以下の 1）～4）の結果が得られた。

1)「結果状態」の「テイル」を「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループに分類して調査を実施した結果、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの得点率が 13.71％であるのに対し、「動詞(＋yùu)」のグループの得点率が 75.28％であった。このことから、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難であることが分かった。t 検

定の結果、両グループの正答率の差は有意であることがわかった（t (99)=-22.87, p＜.05）。つまり、「動詞＋lɛ́ɛw」の方が「動詞（＋yùu)」より習得が困難であることが統計的にも指示されたことになる。

2)「動詞＋lɛ́ɛw」のグループは習得が困難である。その要因として、①「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう)、②「lɛ́ɛw＝過去」という間違った知識、③「進行」との混同、が見られた。

①「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう）

フォローアップ・インタビューを実施した結果、正答の「テイル」ではなく「タ」を選択している。その理由として、多くの調査協力者が「その出来事が過去に起きたから「タ」が正しい」と回答している。また、「出来事が過去に起き、その結果が現在まで続いている」と日本語の「結果状態」の「テイル」について説明したところ、ほとんどの調査協力者は「なぜ「状態」と捉えられるのかが分からない」と述べている。つまり、日本語においては「状態」として捉えるにもかかわらず、タイ語では本調査の文法テストで扱った場面を「状態」として捉えないため、タイ語を母語とする本調査の調査協力者にとってはこれらの場面を「状態」として捉えるのが非常に難しく、「状態」ではなく「ただの過去」と捉えて「タ」を選択してしまったことが考えられる。

②「lɛ́ɛw＝過去」という間違った知識

このグループの「結果状態」の「テイル」にタイ語の「lɛ́ɛw」が対応する。「lɛ́ɛw」はタイ語教育では「完了」を表すと言われているが、タイ語母語話者の多くが「完了」ではなく「過去」と認識していると考えられる。このように、タイ語母語話者の中に「lɛ́ɛw」に関して間違った認識をしている人が多いことを実証するために、本調査においては「タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査」を実施した。その結果、100 人中 78 人のタイ語母語話者が「lɛ́ɛw」を「過去」と間違えて捉えており、タイ語の「lɛ́ɛw」に関して間違った知識を持っているタイ語母語話者が少なくないことが分かった。そのため、タイ語では「lɛ́ɛw」が使用される場面に遭遇した際、タイ人日本語学習者が「lɛ́ɛw＝過去」という間違った知識を使用し「タ」を選んでしまうことが考えられる。

③「進行」との混同

「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく圧倒的に誤答の「タ」に偏っている。「タ」を選択した理由を探るため、フォローアップ・

インタビューの際に調査協力者に「「テイル」だとどういう意味になるのか」と質問した。その結果、多くの調査協力者がこのグループのすべての動詞において「「テイル」は「その出来事の最中」と答えている。このことから、本調査の調査協力者にとってこのグループの動詞の「テイル形」は「結果状態」より「進行」との結びつきの方が強いことが分かった。

3)「動詞（＋yùu)」のグループの習得は容易である。その要因として、①「状態」として捉えやすい、②「yùu」の「正の転移」、③「タ」に関する間違った知識、が見られた。

①「状態」として捉えやすい

「動詞（＋yùu)」のグループにおいては、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと違い、ほとんどの調査協力者が正答である「テイル」を正しく選択している。フォローアップ・インタビューにおける「なぜ「テイル」を選択したのか」という質問に対する回答として、最も多かったのは「「状態」だから」である。この選択理由は「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては見られなかった。このことから、「動詞（＋yùu)」のグループの動詞の「テイル形」は「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの動詞に比べて、調査協力者にとっては「状態」として捉えやすいことが考えられる。つまり、タイ語においても日本語においても「状態」として捉えられることが、タイ人日本語学習者が「動詞（＋yùu)」のグループの動詞を学習する際、習得が容易である理由の一つとなっていると考えられる。

②「yùu」の「正の転移」

フォローアップ・インタビューの際、「「状態」であるから」という理由を述べる時に、「存在」を表す時に使うタイ語の「yùu」（日本語の「いる」と同じ意味）を使う調査協力者が多かったことから、調査協力者がタイ語の知識を活かして答えている、「正の転移」が見られた。

③「タ」に関する間違った知識

「テイル」と「タ」を区別できているかどうかを見るために、「「タ」はどういう意味で、どのような時に使うか」と質問したところ、「その出来事が過去に起きて、今はその状態ではなくなったか、今のことは言及していない」という誤答が最も多かった。つまり、この質問に対して正しく答えられた調査協力者がほとんどいなかった。このことから、一部の調査協力者にとっては、現在と切り離して過去のことを述べる時に「タ」を使用すると理解されているため、「今の状態」を表すのに不適切であると考え、「タ」を選択せず、正答

である「テイル」を選択していると考えられる。

以上のことから、タイでの日本語教育現場において、学習者のより深い理解を期待するためには、タイ人日本語教師が「結果状態」の「テイル」を導入する際、①「lɛ́ɛw」と「yùu」に触れ、②「結果状態」の場面に対する日本語母語話者とタイ語母語話者の認識の違いを説明することが望ましいと提言したい。

บทคัดย่อวิทยานิพนธ์

การเรียนรู้ไวยากรณ์ “TEIRU” สำหรับ “การแสดงสภาพ” ของผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทย

นายเผ่าสถาพร ดวงแก้ว

ในปัจจุบันมีงานวิจัยเกี่ยวกับการเรียนรู้ไวยากรณ์ “TEIRU” สำหรับ “การแสดงสภาพ” อยู่เป็นจำนวนมากซึ่งในงานวิจัยส่วนใหญ่ได้ผลสรุปว่าไวยากรณ์ “TEIRU” สำหรับ “การแสดงสภาพ” นั้นยากสำหรับผู้เรียนภาษาญี่ปุ่น แต่ทว่าในงานวิจัยเหล่านี้ไม่ได้วิเคราะห์ถึงอิทธิพลของภาษาแม่ของผู้เรียนต่อการเรียนรู้เท่าใดนัก อีกทั้งผลการวิจัยหลายชิ้นเกี่ยวกับการเรียนรู้ไวยากรณ์ “TEIRU” ส่วนใหญ่มาจากการวิเคราะห์ผลการทำข้อสอบไวยากรณ์เพียงอย่างเดียวโดยไม่มีการสัมภาษณ์ผู้วิจัยเพื่อให้รู้ว่าผู้ทำข้อสอบใช้เหตุผลอะไรในการเลือกคำตอบนั้นๆ จึงสามารถพูดได้ว่างานวิจัยที่ผ่านมานั้นยังไม่สามารถอธิบายการเรียนรู้ไวยากรณ์ “TEIRU” สำหรับ “การแสดงสภาพ” ได้อย่างเพียงพอ

ดังนั้น ในงานวิจัยฉบับนี้ผู้ทำวิจัยจึงได้แบ่งไวยากรณ์ “TEIRU” สำหรับ “การแสดงสภาพ” ตามภาษาไทยที่รองรับไวยากรณ์นี้ออกเป็น 2 กลุ่มคือ กลุ่ม “กริยา+แล้ว” กับกลุ่ม “กริยา+อยู่” แล้วใช้ข้อสอบไวยากรณ์กับการสัมภาษณ์หลังทำข้อสอบเพื่อวิเคราะห์การเรียนรู้ในแต่ละกลุ่มและปัจจัยที่ส่งผลต่อการเรียนรู้เหล่านั้น โดยสามารถสรุปผลการวิจัยได้ดังนี้

1. สำหรับผู้เรียนชาวไทยกลุ่ม “กริยา+แล้ว” ยากกว่ากลุ่ม “กริยา+อยู่”
2. จากงานวิจัยนี้ สาเหตุที่ทำให้กลุ่ม “กริยา+แล้ว” ยากสำหรับผู้เรียนชาวไทยมี 3 ข้อ คือ

(1) กริยากลุ่มนี้ในสถานการณ์ที่คนญี่ปุ่นมองว่าเป็น “สภาพในปัจจุบัน” คนไทยจะมองว่าเป็น “เหตุการณ์ในอดีต”

(2) ความเข้าใจผิดของคนไทยที่ว่า “แล้ว” หมายถึง “อดีต”

(3) ความสับสนกับกลุ่ม “การกระทำต่อเนื่อง”

3. จากงานวิจัยนี้ ปัจจัยที่ทำให้กลุ่ม “กริยา+อยู่” ง่ายสำหรับผู้เรียนชาวไทยมี 3 ข้อ คือ

(1) กริยากลุ่มนี้ทั้งคนไทยและคนญี่ปุ่นมองว่าเป็น “สภาพ” เหมือนกัน

(2) คำว่า “อยู่” ในภาษาไทยส่งผลทางบวกในการเรียนรู้

(3) ความรู้ที่ผิดเกี่ยวกับกริยารูป “TA”

จากผลการวิจัย ผู้วิจัยขอเสนอว่าในการสอนไวยากรณ์ “TEIRU” สำหรับ “การแสดงสภาพ” ถ้าผู้สอนเปรียบเทียบให้ผู้เรียนได้มองเห็นความแตกต่างระหว่างภาษาญี่ปุ่นกับภาษาไทยและความแตกต่างในการมองสถานการณ์ของคนไทยกับคนญี่ปุ่นจำช่วยให้ผู้เรียนเข้าใจไวยากรณ์นี้ได้ดียิ่งขึ้น

目次

	項
第 1 章　はじめに	1
1.1　第二言語習得研究の発達と各領域	1
1.2　本研究の背景と目的	4
第 2 章　先行研究と本研究の位置づけ	6
2.1　先行研究のまとめ	6
2.1.1　「テイル」の正用順序について記述したもの	6
2.1.2　「テイル」の習得要因について記述したもの	8
2.1.3　「テイル」の習得を他の観点から考察したもの	11
2.1.4　タイ人日本語学習者を対象にして記述したもの	14
2.1.5　ドゥアンケーオ（2013）の研究	18
（1）進行	21
（2）結果状態	21
2.2　本研究の位置づけ	23
第 3 章　日本語の「結果状態」の「テイル」とそれに対応するタイ語の文法形式	27
3.1　日本語のアスペクト「テイル」の用法の分類	27
3.2　日本語の「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式	29
3.2.1　「lɛ́ɛw」の意味と用法の特徴	31
3.2.2　「yùu」の意味と用法の特徴	33
第 4 章　予備調査	36
4.1　調査目的	36
4.2　調査収集方法	36
4.2.1　文法テストの構造及び設問	36
4.2.2　実施期間	37
4.2.3　調査協力者	38

4.2.4　文法テストとフォローアップ・インタビューの実施状況　38
4.3　文法テストの結果　39
4.4　考察　49
第 5 章　本調査　53
5.1　予備調査の仮説　53
5.2　調査目的　53
5.3　調査方法　53
5.3.1　調査期間　54
5.3.2　文法テスト　54
（1）予備調査の問題点及び改善点　54
（2）文法テストの構造及び設問　56
5.3.2.1　調査協力者　57
5.3.2.2　文法テストとフォローアップ・インタビューの実施状況　60
5.3.3　教材分析　60
5.3.4　タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査　61
5.3.4.1　調査目的　61
5.3.4.2　調査協力者と調査方法　61

第 6 章　調査結果　64
6.1　文法テストの結果　64
6.1.1　全体的な結果　64
6.1.2　各グループの「テイル」の選択率　66
6.1.3　各動詞の「テイル」の選択率　67
6.1.4　「ル」「タ」「テイル」「テイタ」の選択率　68
6.2　調査協力者から得られたフォローアップ・インタビューの結果　70
6.2.1　「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに属する動詞　71
6.2.2　「動詞＋yùu」のグループに属する動詞　74
6.3　タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査の結果　76

第 7 章　結果考察　78

7.1　各グループの考察　81
7.1.1　「動詞＋lɛ́ɛw」のグループ　81
7.1.2　「動詞＋yùu」のグループ　86
7.2　各動詞の考察　89
7.2.1　「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに属する動詞　89
7.2.1.1「過ぎる」　89
7.2.1.2「届く」　91
7.2.1.3「終わる」　92
7.2.1.4「治る」　94
7.2.1.5「なる」　95
7.2.1.6「始まる」　97
7.2.1.7「腐る」　98
7.2.2　「動詞＋yùu」のグループに属する動詞　101
7.2.2.1「落ちる」　101
7.2.2.2「壊れる」　103
7.2.2.3「汚れる」　104
7.2.2.4「疲れる」　106
7.2.2.5「消える」　107
7.2.2.6「濡れる」　109
7.2.2.7「混む」　110
7.3　教材分析　115
7.3.1　「テイル」の文型の導入・説明　115
7.3.2　「結果状態」の「テイル」の導入において扱われる動詞　119
7.3.3　「結果状態」の「テイル」における練習問題　121

第８章　まとめと今後の課題　125
8.1　まとめ　125
8.2　本研究の不足点及び今後の課題　129
8.3　日本語教育現場への提言　130

参考文献 137
謝辞 145

稿末資料 146
資料 1 146
資料 2 151
資料 3 166
資料 4 175
資料 5 179
資料 6 204

第１章　はじめに

国際交流基金による 2012 年の調査によれば、タイにおける日本語学習者数は、129,616 人となり、2009 年の調査結果に比較して 50,814 人（64.5%）の増加となっている。また、タイ教育省が 2012 年 5 月に公表した調査によると、中等教育機関で第二外国語として日本語を学んでいる学生数は、中国語、フランス語に次いで 3 番目とされている。このことから、タイにおける日本語教育がいかに盛んであるかがお分かりいただけるであろう。日本語学習者の増加とともに日本語教育の習得研究も様々な側面において多くなされてきているが、まだ明らかになっていないところが多く残っているのは事実である。

筆者は日本語学習者として日本語を学習していた時、初級の段階で習ったはずなのに中・上級に入ってもなかなか習得できない文法項目はたくさんあった。その中で長年困難に感じていた文法項目の一つが「結果状態」の「テイル」である。その後、母国であるタイで日本語を教えていた際も、自分が習っていた時と同様の「結果状態」の「テイル」の誤用が自分の学生からもしばしば見られることに気が付いた。その文法を説明しても理解できない学生がほとんどであった。それを受け、筆者は第二言語習得に興味を持ち始め、タイ人日本語学習者が「結果状態」の「テイル」を学習する際の理解の一助になることを目的とし、第二言語習得研究をすることに決めた。

本章では第二言語習得研究の発達と各領域に関して簡単にまとめて紹介した後、本研究の背景と目的について述べる。

1.1　第二言語習得研究の発達と各領域

本研究の本題である「結果状態」の「テイル」に関する話に入る前に、まず、第二言語習得研究について紹介する。迫田（2002）は、第二言語習得研究の流れを①対照分析研究、②誤用分析研究、③中間言語研究、に分類している。以下の表 1 は、迫田（2002）から引用したものである。

表 1　第二言語習得研究の発達（迫田 2002）

対照分析研究	誤用分析研究	中間言語研究
発展の時期と背景		
1940～1950 年代、行動主義心理学や構造言語学を背景に発展	1960 年代後半から 70 年代初めにかけてコーダーの考えを背景に発展	1970 年代初めから 80 年代、セリンカーの考えを背景に発展
内容		
外国語学習の困難点は、母語と外国語の違いが影響していると考え、効果的な指導を検討するために、両言語を比較対照し、類似点や相違点を明らかにする研究が盛んになった。	誤用分析によって学習者の誤用の要因や指導法の改善を検討する。誤用は回避すべきもの、という考え方から、誤用は必然的なものであり、誤用を犯すことで習得は進んでいくという考え方への転換が特徴である。	中間言語研究では、第二言語学習者の特有の可変的な言語体系を中間言語と規定して研究が進められ、それまでの記述研究から学習者の習得過程の解明を目的とした理論研究へと発展していった。
問題点		
1. 予測した仮説が外れた 2. 母語の違う学習者から同種の誤用が出現した。 3. 言語の相違の度合いが主観的である。	1. 誤用の判定が困難である。 2. 誤用だけの分析には限界があった。 3. 回避した項目は分析できない。	1. 中間言語の定義について、研究者間で共通理解が得られなかった。 2. 実体が明確でないため、中間言語と呼ぶ必然性がない。

以上の表 1 から分かるように、第二言語習得研究の発達は①対照分析研究、②誤用分析研究、③中間言語研究、の順になっていると言われている（迫田 2002）。対照分析研究は 1940～1950 年代に行動主義心理学や構造言語学を背景に発展し、「母語と外国語の相違が外国語の習得を困難にする」と「誤用は排除すべきである」という考えがあった。しかし、母語が異なる学習者から同様の誤用が見られ、誤用は母語の干渉である対照分析の理論では説明できなくなり、誤用分析研究へ移っていった。誤用分析研究は、1960 年代後半から 70 年代初めにかけてコーダーの考えを背景に発展し、「誤用は排除すべきものである」という考えから「誤用は必然的なものであり、誤用を犯すことによって習得が進む」という考え方に変わった。しかし、誤用分析では「回避」を扱えないことが分かり、誤用だけで

はなく正用も含めて学習者の言語体系を探るという中間言語研究が盛んになっていった。中間言語研究は、1970 年代初めから 1980 年代にセリンカーの考えを背景に発展し、「学習者は学習者特有の言語体系「中間言語」を持っており、習得の段階に応じてその体系は変化する」と考え、誤用だけではなく正用も併せて観察し学習者の言語全体を研究の対象として扱う。

筆者は中間言語研究の考えに賛同し、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の「中間言語」つまり言語体系を明らかにすることにより、タイ人日本語学習者に「結果状態」の「テイル」を指導する際に効果的な教授法の開発につながると考える。

次に、第二言語習得研究の各領域も紹介したい。同じ第二言語習得研究でも対象とされるものが様々あり、迫田（2002）は、第二言語習得の各領域を以下のように 6 つに分類している。

①文法の習得
②語彙・意味の習得
③文字・表記の習得
④社会言語学・語用論の分野の習得
⑤四技能における習得
⑥習得理論の研究

本研究の研究テーマは「タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得」であり、「①文法の習得」の領域に入る。なぜ文法の習得研究をする必要があるかというと、第二言語学習は、母語習得と異なり、文法のルールなどを理解できていなければ文法的に正しい文を作ることができない。つまり、母語習得においては文法に関する知識がなくても母語話者であれば文法的な問題なしで産出することができるが、第二言語学習の場合は正しい文法の知識が必要不可欠だと言えよう。筆者はこのような文法の知識の大切さを強く感じ、文法の習得研究をするきっかけとなった。

1.2　本研究の背景と目的

「結果状態」の「テイル」は初級の段階において導入される文法形式であるが、タイ人日本語学習者にとって難しく、習得するのに困難な文法項目だと言われている。コミュニケーションを図る際、メールや手紙などによる考える時間の余裕のある「書き」の場合においても、日常会話や会議での議論などによる考える時間の余裕が少ない「話し」の場合においても、タイ人日本語学習者が初級で学習した「結果状態」の「テイル」の使い方を間違えて、不自然な文を作ることはよく見られることである。日本語学習期間が長い中・上級日本語学習者も例外ではない。筆者もタイで日本語を教えていた時、以下のような誤用をしばしば耳にしていた。

①　（目の前にお金が落ちているのを見て）床にお金が落ちた。
②　（目の前に木が倒れているのを見て）あそこに木が倒れた。

以上の①と②を聞いた聞き手は、文脈によって話し手の言いたいことをなんとなく理解できるかもしれないが、不自然な文であると思うのは間違いないであろう。「テイル」の「結果状態」の用法は「進行」に比べて使用頻度が低く習得できなくても特に問題がないと思われるかもしれない。日常会話の場合においては多少誤用をしても問題が生じないかもしれないが、通訳や翻訳など文法知識の正確さが追求される場合においては違い、小さな誤りが大きな損害につながることも考えられる。そのため、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得の必要性を主張したい。

今までのアスペクト研究においては、「テイル」の習得に関する研究は多くなされてきたが（黒野 1995、許 1997、菅谷 2004 など）、タイ人日本語学習者の「テイル」の習得状況に関する研究はまだ少ない。ピャマーワディー（1981a）では、タイ語と日本語のアスペクトの比較対照をしているが、タイ人日本語学習者の「テイル」の習得状況を扱った研究は、タサニー他（2000）とドゥアンケーオ（2013）しか見当たらない。しかも、どの研究も「テイル」の全体的な習得状況を研究するものであり、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に着目して調査する研究は管見の限りまだ見当たらない。

そこで、本研究では、「テイル」の中心的な用法の一つでよく誤用される「結果状態」に着目し、主に言語理解能力を測る文法テストとフォローアップ・インタビューを用いて以下の目的を設定し、明らかにしたい。

1）中・上級タイ人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得の要因を探る。また、それらの要因がどのように「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えているかを探る。

2）「結果状態」の「テイル」における各動詞の正答率が異なる場合、その要因を探る。

以上の 2 つの研究目的を明らかにすることによって、今後、タイにいる日本語学習者のために、効果的な教え方及び教材開発に少しでも役に立てれば嬉しく思う。

第 2 章　先行研究と本研究の位置づけ

第 1 章では、①第二言語習得研究の発達と各領域、②本研究の背景と目的について述べた。本章では、「テイル」の習得研究がどこまで進んでいるかを見るために、「テイル」の習得に関する先行研究を概観する。先行研究の内容のまとめとその問題点を分けて表示する。

2.1　先行研究のまとめ

「テイル」の習得については、これまで多くの研究が行われてきた。それによると「テイル」の中心的な用法である「進行」と「結果状態」の習得順序について、発話資料と文法テストを用いた調査の結果、「進行」の方が「結果状態」より習得が早いと報告された研究が多い（黒野 1,995;　許 1997,2000;　菅谷 2004;　松井 2008;　孫他 2010）。また、「テイル」の習得を難しくさせる要因に重点を置く研究もなされている（簡他;2010）。以下、①「テイル」の正用順序について記述したもの、②「テイル」の習得要因について記述したもの、③「テイル」の習得を他の観点から考察したもの、④タイ人日本語学習者を対象にして記述したもの、に分けて検討する。

2.1.1　「テイル」の正用順序について記述したもの

2.1.1.1　黒野敦子（1995）

「初級日本語学習者における「ーテイル」の習得について」

名古屋大学言語文化部春季特別日本語講座の初級クラスを受講していた、様々な言語を母語とする留学生 17 名を対象に、文法性判断テストを用いて調査を行った。調査は、同一の留学生に対して 3 回実施した。第 1 回目の調査は留学生が来日してから約 3 か月後に、第 2 回目は約 6 か月後に、第 3 回目は 9 か月後に行われた。その調査では「テイル」の習得過程を以下のように報告している。

1)「結果状態[1]」の用法は、「進行[2]」の用法より習得が困難である。

2)「進行」の習得過程に、次の 3 つの段階が見られた。(1) 学習者が「ール」が「進行」を表わすと判断する。(2) 学習者が「ール」と「ーテイル」の両方が「進行」を表わすと

[1] 黒野（1995）では「結果状態」と表示されている。
[2]黒野（1995）では「動作の持続」と表示されている。

判断する。(3) 学習者が「ーテイル」が「進行」を表わすと判断する。

3)「結果状態」の習得過程に、次の 3 つの段階が見られた。(1) 学習者が「ール」が「結果状態」を表わすと判断する。(2) 学習者が「ータ」が「結果状態」を表わすと判断する。(3) 学習者が「ーテイル」が「結果状態」を表わすと判断する。

黒野（1995）は、「結果状態」の「テイル」の習得過程を説明しているが、様々な言語を母語とする学習者を対象としているため、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得が明らかになったとは言い難い。また、黒野は文法性判断テストの結果だけを考察しているため、習得過程は見られたが、その習得過程に影響を与えている要因はまだ明らかにされていない。

2.1.1.2　許夏珮（1997）

「中・上級台湾人日本語学習者による「テイル」の習得に関する横断研究」

日本と台湾にいる中・上級台湾人日本語学習者各 30 名を対象者とし、言語産出能力を測るオーラルプロダクションと言語理解能力を測る文法テストを用いて実験を行った。文法テストにおいては、今までの習得研究で指摘されていなかった「進行[3]」と「結果状態[4]」以外の用法を含め、合わせて 8 種類のテイル用法の習得状況を調べた。オーラルプロダクションにおいては、絵を用いた。絵を調査協力者に見せ、「この絵を見てできるだけたくさんの文を作ってください」という指示を出し、内容を自由に口述してもらう。その結果、以下の点が明らかになった。

1）中・上級台湾人日本語学習者にとって「結果状態」の用法は「進行」の用法より習得が困難である。

2）台湾と日本で学ぶ学習者にとってテイルの 8 種類の用法の習得難易度は難しい順に、「経歴・経験」、「反実仮想」、「結果状態」、「進行」、「習慣・繰り返し」、「形容詞的な働き」、「慣用法」、「所属・職業」である。

3）台湾と日本という学習環境の違いがテイルの習得に影響を与えている。

---

[3] 許（1997）では「進行」と表示されている。

[4] 許（1997）では「結果状態」と表示されている。

許（1997）は、台湾と日本で学ぶ日本語学習者の「テイル」の各用法の習得難易度を説明しているが、各用法の問題数が 3 問しかないため、各用法の難易度を測るには不十分であると考えられる。また、許はフォローアップ・インタビューを実施していないため、習得状況はある程度見られたが、習得に影響を与えていう要因はまだ明らかにされていない。

2.1.2　「テイル」の習得要因について記述したもの

2.1.2.1　許夏珮（2000）

「自然発話における日本語学習者による「テイル」の習得研究—OPI データの分析結果から—」

「今まで行われてきた「テイル」の習得研究の多くは文法性判断テストや作文などを通して行われたものが多く、自然に近い言語使用場面での学習者の使用状況を考察したものは少ない」ことを理由として、OPI の発話資料に基づいて、学習者の自然な発話における「テイル」の習得状況を探ったものである。その結果は以下の通りである。

1)「テイル」の習得は、中国語、韓国語、英語を母語とする学習者の間に普遍的な傾向が見られ、初級から超級までの日本語レベルに沿って習得順序がほぼ一致している。

2)「テイル」の習得は「現在性」「持続性」「運動性」という三つの典型的な要素をどのくらい表わしているかというプロトタイプ性と関連している。「テイル」の意味がこの三つの要素を欠けば欠くほど、またこの三つ以外の要素を加えれば加えるほど、「テイル」の意味の習得が遅くなる。

許（2000）は、中国語、韓国語、英語を母語とする学習者の間に見られる普遍的な習得の傾向を示しているが、調査協力者の母語の影響を考慮していない。第二言語習得に影響を与える要因の一つである「母語の影響」を考慮に入れて考察する必要があると考えられる。また、発話データの場合は、学習者に自信がないために使用しない「回避」の可能性があり、「テイル」の習得状況を見るには不十分であると考えられる。

2.1.2.2　菅谷奈津恵（2003）

「日本語学習者のアスペクト習得に関する縦断研究—「動作の持続[5]」と「結果の状態[6]」のテイルを中心に—」

テルグ語母語話者（Ｌ１進行形あり、教室習得中心）、ロシア語母語話者（Ｌ１進行形なし、自然習得中心）の 2 名を対象とし、「テイル」の中心用法である「進行[7]」と「結果状態[8]」の使用状況を縦断的に調査し、その習得過程を観察した。インタビューを分析した結果、以下のような傾向が観察された。

1）テルグ語話者の使用した「テイル」は、9 割以上が「ています」だったが、ロシア語母語話者は「てる」が 8 割以上を占めた。

2）テルグ語話者は、全体に「テイル」の使用が少なかったが、「進行」の方が動詞の異なり数、正用率（TLU 値）とも高く、出現も早かった。

3）自然習得をしてきたロシア語話者は、調査当初から「結果状態」と「進行」の両方を様々な動詞で用いており、正用率も高かった。

4）両方とも、「テイル」の形でかたまりとして使用していると思われる動詞が観察された。

菅谷（2003）は、縦断的に調査することによって「進行」と「結果状態」の「テイル」習得過程と、教室習得中心と自然習得中心の学習者において見られた習得傾向を説明しているが、調査協力者が 2 名しかいないため、一般化するのは難しいと考えられる。

2.1.2.3　菅谷奈津恵（2004）

「文法テストによる日本語学習者のアスペクト習得研究—L1 の役割の検討—」

母語に進行形のない中・上級学習者（L1 ロシア語、ブルガリア語、ドイツ語）と進行形のある中・上級学習者（L1 英語）合計 61 名を対象にし、文法テストを行い、「テイル」の習得における L1 の役割を探った。文法テストを分析した結果、菅谷は次のように結論付けている。

1）L1 以外の要因が強く働いている。具体的には、意味と形のマッピングの複雑さ、イ

---

[5]本研究の「進行」と同じである。
[6] 本研究の「結果状態」と同じである。
[7] 菅谷（2003）では「動作の持続」と表示されている。
[8] 菅谷（2003）では「結果の状態」と表示されている。

ンストラクションの影響などが強く影響している。

2)「結果状態[9]」では、学習者たちは「テイル」と「タ」の使い分けで混乱している。

菅谷（2004）は、母語に進行形のない学習者と母語に進行形のある学習者を対象とし文法テストを実施したが、フォローアップ・インタビューなどの他の手法を用いず、「進行」と「結果状態」というそれぞれのグループの「テイル」の得点の差が見られないだけで母語の影響が少ないと結論付けており、妥当性に欠けていると考えられる。

2.1.2.4　松井一美（2008）

「ロシア人日本語学習者のテイルの習得研究―「動作の持続[10]」と「結果の状態[11]」を中心に―」

ロシア語の完了体・不完了体と「テイル」の関係は次のようになる。「進行[12]」のテイルは、ロシア語で表現すると不完了体動詞一語で表わされるが、「結果状態[13]」のテイルは、大きく次の 3 つに分けられる。1）不完了体動詞で表わすもの（「座っている」など）、2）被動形動詞短語尾いわゆる受身のかたちで表わすもの（「折れている」など）、3）完了体動詞などを使って説明的にしか表わせないもの（「落ちている」など）。ここから、「日本語学上の分類「進行」「結果状態」にかかわらず、ロシア語で表現したとき、不完全体動詞一語で表わすことができるテイルは習得しやすく、不完全体動詞一語で表わすことができないテイルは習得が難しい」という仮説を立て、口頭産出テストおよび文法テストにより仮説の検証を行った上で、その要因について考察し、以下のようにまとめる。

1)「進行」はロシア語では、不完全体動詞一語で表わすことができ、ロシア語母語話者にとって習得が容易である。

2)「結果状態」には習得しやすいものと、習得しにくいものがある。不完了体動詞一語で表すことができる「結果状態」は習得が容易であり、不完了体動詞一語で表わすことができない「結果状態」は習得が困難である。

---

9 菅谷（2004）では「結果の状態」と表示されている。
10 本研究の「進行」と同じである。
11 本調査の「結果状態」と同じである。
12 松井（2008）では「動作の持続」と表示されている。
13 松井（2008）では「結果状態」と表示されている。

3）ロシア語母語話者にとって、「進行」と「結果状態」全体を比べると、「結果状態」の方が習得が困難である。ただし、テイルの習得がある程度進んだ集団においては、「結果状態」と「進行」の使用比率は日本語母語話者と同程度となる。

4）不完了体動詞一語で表わすことができないテイルには「タ」「テシマウ」との混同が見られる。

松井（2008）は、今までの先行研究と異なり、「結果状態」の「テイル」を対応するロシア語の文法形式に分類し考察を行っている。筆者は母語の影響を見るためには、日本語と学習者の母語の違いを考慮して考察する必要があると考えるため、松井の研究の調査結果は信頼性が高いと言える。

2.1.3　「テイル」の習得を他の観点から考察したもの

2.1.3.1　塩川絵里子（2007）

「日本語学習者によるアスペクト形式「テイル」の習得—文末と連体修飾節との関係を中心に—」

九州大学留学生センターで日本語クラスを受講する学習者 63 名を初中級 21 名・中級 21 名・上級 21 名の 3 レベルに分けて調査を行った。また、統制群として日本語母語話者 54 名にも協力を依頼し、学習者との比較に用いた。調査には 4 択の文法性判断テストを用い、各問に動詞＋ル、テイル、タ、テイタの 4 つの選択肢をあらかじめ与え、選択して回答するよう求めた。その結果、以下のことが明らかになった。

1）文末と連体修飾節の両環境において「活動動詞＋テイル」、「到達・達成動詞＋タ」との結びつきが見られる。

2）文末と連体修飾節では中級までは「テイル」と「タ」の選択の傾向が似通っており、学習者の選択の傾向が母語話者の傾向に近づくのは上級者になってからである。

塩川（2007）の調査結果から、「テイル」を導入する際に、「文末なのか連体修飾節なのか」や「動詞の種類」などの要因が「テイル」の習得に影響を与えていることが分かる。本研究でも「動詞の種類」を考慮して考察を行う。

2.1.3.2　阿拉塔（2009）

「日本語学習者によるアスペクト形式「テイル」の習得—動詞形習得との関係を中心に—」

サコダコーパス[14]の教室習得学習者 6 名と自然習得学習者 1 名を対象に、約 3 年間の日本語母語話者との自然会話におけるテイル形に焦点をあて、その習得過程の一端を明らかにすることを目的とした。コーパスの分析においては、まず、日本語学習者全体のテイル形の習得過程を観察し、その後、各動詞に焦点をあて、分析を加えた。その結果から以下の 5 点のことが明らかになったと述べている。

1）日本語学習者のテイル形の習得には偏りがあり、テイル形とともに用いられやすい動詞とそうではない動詞が観察された。

2）日本語学習者はテイル形を習得していく上で、テ形で覚えた動詞がテイル形の習得に何らかの影響を与えている。

3）日本語学習者のテイル形の中にテイル形をかたまりとして覚えているもの（自然習得学習者の「寝ている」「似ている」「住んでいる」）が観察され、そのかたまりが次第に他の語形へ広がっていくことが観察された。

4）日本語学習者のテイル形の習得には岩立の「くっつき仮説[15]」を支持するものとしないものがあった。

5）動詞ごとの習得には学習環境や動詞の影響よりも日本語学習者の個人差が影響しているように思われる。

2.1.3.3　阿拉塔（2010）

「日本語学習者のアスペクト形式「テイル」の習得—副詞との関係を中心に—」

サコダコーパスの教室習得学習者 6 名と自然習得学習者 1 名を対象に、日本語母語話者との自然会話を 3 年間にわたって収録し、その中のテイル形に焦点をあて、その習得過程の一端を明らかにすることを目的とした。コーパスの分析においては、日本学習者全体のテイル形の習得過程を観察し、その後、各動詞に焦点をあて、分析を加える。その結果として、阿は以下のように述べている。

---

[14] サコダコーパスとは、自然習得環境で学ぶ日本語学習者 1 名（マレー語母語話者）と日本国内の教室環境で学ぶ日本語学習者 6 名（中国語母語話者 3 名、韓国語母語話者 3 名）と日本語母語話者 NS との 1 対 1 による対話を録音した約 3 年間分の文字化資料である。（阿拉塔より）

[15] L1 の動詞習得において、幼児は始めから文法概念を持っているわけではなく、動詞ごとに個別の発達を見せ、次第に複数の動詞に共通のルールを獲得していくという岩立志津夫の仮説である。

1）学習環境を問わず、動詞のバリエーションの中で、多く使われた動詞は「知っている」「住んでいる」「似ている」「持っている」であった。

2）教室習得学習者は自然習得学習者より、時間を表わすマーカーの「今」「よく」「いつも」のあとに、様々なバリエーションの動詞をつけて使用する。

阿（2009,2010）は、許（2000）と同様に発話データであるコーパスを用いて分析しており、この用法でも、学習者に自信がないから使用しない「回避」の可能性があるため、「テイル」の習得状況を見るには不十分であると考えられる。

2.1.3.4　陳建瑋（2014）

「日本語のアスペクト形式「テイル」の習得に関する横断研究：動詞の語彙的アスペクトによる影響について」

動詞の語彙的意味特徴の違いが日本語学習者の「テイル」の習得にいかなる影響を与えるかを明らかにするために「台湾人日本語学習者コーパス（CTLJ[16]）」を利用し、台湾人日本語学習者の「社会問題」というテーマの作文を収集して検討をした。調査対象者は、日本語能力試験 1 級、2 級、3 級合格者をそれぞれ 40 名ずつ選択し、合計 120 名の台湾の大学で日本語を専攻する大学生を対象とした。その調査結果は以下の通りである。

1）動詞のタイプの違いは学習者の「テイル」の使用に最も強く影響しており、学習者の「テイル」の習得に影響を与える主要な要因である。

2）学習者の日本語のレベルの違いは二次的な影響であり、「動詞のタイプの違い」ほど影響を与えていない。

2.1.3.5　簡卉雯（2012）

「動詞の意味特徴からみる「ている」の「結果の状態[17]」用法の習得—縦断的事例研究—」

「テイル」の「結果状態[18]」用法の習得に着目し、中国語母語話者による縦断的な作文データを用いて、結びつく変化動詞の種類（状態変化動詞／位置変化動詞）から学習者の中

---

16 CTLJ は「The Corpus of Taiwanese Learner of Japanese」の省略で、台湾成功大学外国語文学系の黄淑妙副教授が作成したコーパス（http://corpora.flld.ncku.edu.tw）である。CTLJ には台湾における 13 の大学で日本語を学ぶ学習者の作文が、電子化されタグ付けされた上で収録されている（陳建瑋 2014）。

17 本研究の「結果状態」の「テイル」と同じである。

18 簡（2012）では「結果の状態」と表示されている。

間言語とその変化を分析している。分析の結果から、次のことが明らかになった。

1)「位置変化動詞＋テイル」は「状態変化動詞＋テイル」より習得しにくい可能性がある。

2）学習者の中間言語は変化動詞の意味特徴の違いに影響を受けると考えられる。「誤用のタ」は主に状態変化動詞とともに出現することが明らかになった。

陳（2014）と簡（2012）は、作文データを用いて「テイル」の習得の説明を試みているが、作文データも会話データと同様に学習者に産出されるものであり、学習者に自信がないから使用しない「回避」の可能性があるため、「テイル」の習得状況を見るには不十分であると考えられる。

2.1.4　タイ人日本語学習者を対象にして記述したもの

2.1.4.1　タサニー・メーターピスィット、坂田睦深、アルニー・チュンシリウィロート（2000）

「タイ人日本語学習者のアスペクト表現」

タイ人日本語学習者 101 人による日本語作文と、執筆者本人によるそのタイ語訳を取り出して、タイ人日本語学習者の（テイルを含む）アスペクト表現の使用状況と誤用の要因を分析している。タサニーは、誤用の要因の一つとして「タイ語と日本語のアスペクトの認識の違い」があると結論付けている。その結論の中から「テイル」に関係すると考えられるものを以下のようにまとめる。

1）日本語では、「テイル」は継続性、パーフェクト性、反復性の意味を表わしているのに対し、タイ語では、「kamlang[19]」は継続性の進行を、「yuu」は継続性と反復性を、そして、「lEEw[20]」はパーフェクト性を表わす。つまり、日本語では、「継続性」「パーフェクト性」「反復性」の継続を共通項として捉えているが、タイ語ではそれぞれの概念を別のものとして捉える。タイ人話者のアスペクト表現の誤用は少なくとも両言語間の継続性とパーフェクト性で表現される領域にずれがあることに起因すると考えられる。

2）タイ語は動詞が基本形のままで用いられることが多いのは、形態的要素よりも時間副詞や動詞の語彙的要素に依存することに特徴があるからだと考えられる。

---

19 本研究では、「kamlaŋ」と書くが、意味は同じである。

20 本研究では、「lεεw」と書くが、意味は同じである。

3）個々の動詞を見た場合、動詞の語彙的意味とアスペクト形式との相関性にも違いが見られる。特に、変化動詞では「ル」形は未実現の意味しか持たない。実現した変化状態を表わすには「テイル」を伴っている必要がある。タイ語の変化動詞は実現した変化状態を表わしているので、基本形のままで用いられる。また、「テイル」形は恒常的な状態や性質を表わす形式としても用いられ（例えば、山がそびえている、あの人は変わっているなど）、習得の段階で記憶されなければならない。

タサニー他（2000）は、作文データを用いてタイ人日本語学習者の（「テイル」を含めた）アスペクト表現の習得の説明を試みている。しかし、前述の通り、産出データの場合は「回避」が見られるため、「テイル」の習得状況を調べるには不十分であると考えられる。また、タサニー他では、作文データの分析しかされず、学習者がなぜこのような文を作ったのかが聞けるフォローアップ・インタビューは実施されなかったため、タイ人日本語学習者の「テイル」の習得を説明するには不十分であると考えられる。

先行研究をまとめると以下の通りになる。

表 2　日本語学習者の「テイル」の習得に関する先行研究

内容	研究者	調査対象者	調査方法	調査結果
「テイル」の正用順序について記述したもの	黒野（1995）	多国籍の学習者（17 名）	文法性判断テスト	1. 「結果状態」は「進行」より習得が困難。
	許（1997）	日本と台湾にいる中・上級学習者（30 名）	1. オーラルプロダクション 2. 文法テスト	1. 「結果状態」は「進行」より習得が困難。 2. 学習環境の違いが「テイル」の習得に影響を与えている。
「テイル」の習得要因について記述したもの	許（2000）	中国語母語話者（30 名）、 韓国語母語話者（30 名）、 英語母語話者	発話データの分析	1. 各言語母語話者の間に普遍的な傾向が見られ、初級から超級までの日本語レベルに沿って習得順序がほぼ一致している。

		（30 名）		2. 「テイル」の習得は「現在性」「持続性」「運動性」という三つの典型的な要素をどのくらい表しているかというプロトタイプ性と関連している。
	菅谷（2003）	テルグ語母語話者（1 名）、ロシア語母語話者（1 名）	1. 使用状況を縦断的に分析 2. インタビュー	1. テルグ語話者は「進行」の使用と正用率の方が「結果状態」の用法より高く、出現も早かった。 2. ロシア語話者は「結果状態」と「進行」両方の正用率が高かった。
	菅谷（2004）	多国籍の上級学習者（61 名）	文法テスト	1. L1 以外の要因が強く働いている。 2. 「結果状態」では「テイル」と「タ」の使い分けで混乱している。
	松井（2008）	ロシア語母語話者（16 名）、日本人大学生（16 名）	1. 口頭産出テスト 2. 文法テスト	1. 「進行」の用法はロシア語母語話者にとって習得が容易である。 2. 「結果状態」には習得しやすいものと、習得しにくいものがある。 3. 「進行」より「結果状態」の方が習得が困難である。
「テイル」の習得を他の観点から考察したもの	塩川（2007）	多国籍の学習者（63 名）、日本語母語話者（54 名）	文法性判断テスト	1. 文末と連体修飾節の両環境において「活動動詞＋テイル」、「到達・達成動詞＋タ」との結びつきが見られる。

			2. 学習者の選択傾向が母語話者の傾向に近づくのは上級者になってからである。
阿拉塔（2009）	教室習得学習者（6名）、自然習得学習者（1名）	発話データの分析	1. テイル形で表れやすい動詞が観察された。 2. 日本語学習者のテイル形の中にテイル形をかたまりとして覚えているものが観察され、そのかたまりが次第に他の語形へ広がっていく。 3. 動詞ごとの習得には学習環境や動詞の影響よりも日本語学習者の個人差が影響している。
阿拉塔（2010）	教室習得学習者（6名）、自然習得学習者（1名）	発話データの分析	1. 学習環境を問わず、動詞のバリエーションの中で多く使われた動詞は「知っている」「住んでいる」「似ている」「待っている」である。 2. 教室習得学習者は自然習得学習者より、時間を表すマーカーの後に様々なバリエーションの動詞をつけて使用する。
陳建瑋（2014）	台湾に住む中国語を母語とする学習者（40名）	作文データ	1. 動詞タイプの違いは学習者の「テイル」の使用にもっとも強く影響している。 2. 学習者の日本語レベルの違いは二次的な影響しか及ぼさ

				ない。
	簡卉雯（2012）	台湾に住む中国語を母語とする学習者（6 名）	作文データ	1. 「位置変化動詞＋テイル」は「状態変化動詞＋テイル」より習得しにくい可能性がある。 2. 「誤用のタ」は主に状態変化動詞とともに出現する。
タイ人日本語学習者を対象にして記述したもの	タサニー・坂田・アルニー（2000）	タイ人日本語学習者（101 名）	作文データ	1. タイ人話者のアスペクト表現の誤用は少なくとも両言語間の継続性とパーフェクト性で表現される領域にずれがあることに起因する。 2. 個々の動詞を見た場合、動詞の語彙的意味とアスペクト形式との相関性にも違いが見られる。

上述の通り、これまで報告されてきた「テイル」の習得に関する研究は、①「テイル」の正用順序について記述したもの、②「テイル」の習得要因について記述したもの、③「テイル」の習得を他の観点から考察したもの、④タイ人日本語学習者を対象にして記述したものの 4 つに分類できる。次は、筆者の修士論文であるドゥアンケーオ（2013）を紹介し、先行研究の残された問題点を挙げる。

2.1.5　ドゥアンケーオ（2013）の研究

ドゥアンケーオ（2013）は、タイの大学で日本語を専攻している大学生 51 名を対象とし、「テイル」の中心的な用法である「進行[21]」と「結果状態[22]」のどちらの習得がタイ人日本語学習者にとってより困難であるかを文法テストを用いて調べたものである。また、各用法における「習得を促す要因」と「誤用の要因」をフォローアップ・インタビューを用い

[21] ドゥアンケーオ（2013）では「動作の持続」と表示されている。
[22] ドゥアンケーオ（2013）では「結果の状態」と表示されている。

て調べている。ドゥアンケーオ（2013）は日本語の「テイル」を（A）～（E）に分けて分析している。以下の表 3 はドゥアンケーオ（2013）において扱われた「テイル」に対応するタイ語の文法形式を表すものである。

表 3　「テイル」に対応するタイ語の文法形式

日本語における用法	対応するタイ語の文法形式	所属するタイ語の動詞	例文
進行	(A) 「kamlaŋ＋動詞」[23] 「動詞＋yùu」 「kamlaŋ＋動詞＋yùu」	見る(duu)、食べる(kin)、降る(tòk)、思う(khít)、歩く(dəən)、勉強する(riian)、歌う(rɔ́ɔŋ)、書く(khĭian)、飲む(dɯ̀ɯm)	chán　kamlaŋ　thaan　khâaw　yùu 私　(進行)　食べる　ご飯　いる 私はご飯を食べている
	(B) 基本形	愛する(rák)、反対する(khátkháan)、がっかりする(phìtwăŋ)、働く(thamŋaan)、住む(yùu)、育てる(líiaŋ)、飼う(líiaŋ)	chán　rák　khun 私　愛する　あなた 私はあなたを愛している
結果状態	(C) 「動詞＋lɛ́ɛw」[24]	結婚する(tɛ̀ŋŋaan)、婚約する(mân)、慣れる(chin)、始まる(rə̂əm)、届く(thŭŋ)、遅刻する(săay)	chán　tɛ̀ŋŋaan　lɛ́ɛw 私　結婚する　(完了) 私は結婚している
	(D) 「動詞＋yùu」	（ドアが）開く(pə̀ət)、（テレビが）点く(pə̀ət)、壊れる(sĭia)、落ちる(lòn)、行く(pai)、倒れる(lóm)、ほどける(lùt)	thiiwii　sĭia　yùu テレビ　壊れる　いる テレビは壊れている
	(E) 基本形	知る(rúu)、切れる(mòt)、持つ(mii)、着る(sài)、役に立つ(mii prayòot)、分かる(khâucai)、間に合う(than)	chán　mii　rót　săam　khan 私　持つ　車　三　台 私は車を三台持っている

また、文法テストとフォローアップ・インタビュー実施時の質問の例を以下の図 1 と図 2 に挙げる。

[23]「kamlaŋ」は「進行」を表わす助動詞で、「yùu」は、そもそも「存在」を表わす動詞であるが、助動詞的に使用されることもある。
[24]「lɛ́ɛw」は「完了」を表す助動詞である。

図１　ドゥアンケーオ（2013）の文法テストの例

文法テストの例

・「進行」の用法

1.　A：木村さん見ましたか？

　B：木村さんなら今食堂で昼ごはんを_____よ。

　　【1. 食べる　2. 食べた　3. 食べている　4. 食べていた】

2.　A：なんかつまらないなー。どこかに出かけようよー。

　B：それは無理だよ。外を見て。雨が_____よ。

　　【1. 降る　2. 降った　3. 降っている　4. 降っていた】

・「結果状態」の用法

1.　A：今何時？

　B：今 9 時 15 分だけど。朝の授業は 9 時からだよね？

　A：あー！もう授業が_____！急ごう！

　　【1. 始まる　2.始まった　3. 始まっている　4. 始まっていた】

2.　（2 人がアルバムを見ている。）

　友達１：君のお姉さんはすごい美人だね。まだ独身かな？

　友達２：ううん、お姉さんはもう_____よ。

　友達１：えー、残念だなー。

　　【1. 結婚する　2. 結婚した　3. 結婚している　4. 結婚していた】

図２　ドゥアンケーオ（2013）のフォローアップ・インタビューの質問

フォローアップ・インタビュー実施時の質問

・調査協力者が「テイル」が正しいと選択できた場合

　質問：なぜ「テイル」を選択したのか。

・調査協力者が「テイル」以外のものを選択した場合

　質問：①なぜその回答を選択したのか。

　　②なぜ「テイル」を選択しなかったのか。

上記の 2 つの調査方法を実施した結果、以下のことが明らかになったと述べている。

①先行研究と同様にタイ人日本語学習者にとって「結果状態」の用法は「進行」の用法より習得が困難である。

②中・上級タイ人日本語学習者における習得を促す要因と誤用の要因

中・上級タイ人日本語学習者における習得を促す要因と誤用の要因を「進行」と「結果状態」に分けてまとめる。

(1)　進行

(1.1)　習得を促す要因

当該研究で見られた習得を促す要因は、「母語の影響」、「言語処理のストラテジー」、「授業外での日本語との接触」であるが、用法によって見られる要因が異なった。タイ語にも対応する文法形式がある（A）[25]の用法においては、「言語処理のストラテジー」が最も顕著に見られた。つまり、調査協力者が「今＋テイル」という独自のルールを作って習得を促進させていることが見られた。タイ語では異なる文法形式が対応する（B）[26]の用法においては、「言語処理のストラテジー」と「授業外での日本語との接触」が最も顕著に見られた。この用法においても（A）と同じように「今＋テイル」という調査協力者が独自で作ったルールが習得を促進させていることが見られた。また、友達などとのコミュニケーションの中でよく耳にするため、習得が促進されていることも考えられる。

(1.2)　誤用の要因

当該研究で見られた誤用の要因は、「母語の影響」のみであった。（A）の用法においては誤用の要因が挙げられなかったのに対して、（B）の用法においては「母語の影響」が最も顕著に見られた。調査協力者がタイ語と日本語の文法形式の違いに気が付かず、タイ語の文法形式に頼って誤用を起こしてしまうことが考えられる。

(2) 結果状態

(2.1)　習得を促す要因

当該研究で見られた習得を促す要因は、「母語の影響」、「授業外での日本語との接触」、「イ

---

25 「kamlaŋ＋動詞」、「動詞＋yùu」、「kamlaŋ＋動詞＋yùu」で表すもの。

26 助動詞を付加せず基本形で表すもの。

ンストラクションの影響」であるが、用法によって見られる要因が異なった。(C)[27]の用法においては、「授業外での日本語との接触」と「インストラクションの影響」が最も顕著に見られた。つまり、日本語の授業で先生に教わっていたり、日本人の友達とのコミュニケーションの中で聞いていたりすることによって習得が促進されると考えられる。(D)[28]の用法においては、「母語の影響」と「インストラクションの影響」が最も顕著に見られた。調査協力者が「動詞＋yùu」というタイ語の知識を適用していると考えられる。つまり、タイ語からの「正の転移[29]」が見られた。また、日本語の授業で先生に教わっていたり、日本語の教科書に例文が載っていたりすることにより習得が促進されると考えられる。(E)[30]の用法において最も顕著に見られたのは「授業外での日本語との接触」と「インストラクションの影響」である。調査協力者が授業で先生に教わっていたり、友達とのコミュニケーションの中で聞いていたりすることによって習得が促進されていると考えられる。

(2.2) 誤用の要因

当該研究で見られた誤用の要因は、「母語の影響」、「言語処理のストラテジー」、「言語内エラー」であるが、用法によって見られる要因が異なった。(C) の用法においては、「母語の影響」、「言語処理のストラテジー」、「言語内エラー」が最も顕著に見られた。つまり、調査協力者が「動詞＋lɛ́ɛw」というタイ語の言語形式を日本語にも適用したり、「結果状態」の用法を「進行」の用法と混同したり、「もう＋タ」という独自のルールを作ったりしていることが窺える。(D) の用法においては、「言語内エラー」が最も顕著に見られた。調査協力者が「出来事の発生時」に注目したり、「結果状態」の用法を「進行」の用法と混同したりしていることが見られた。(E) の用法においては、「母語の影響」と「言語内エラー」が最も顕著に見られた。調査協力者がタイ語の知識を適用したり、「結果状態」を「事実」、「習慣」と混同したりしていることが見られた。

本研究では、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の誤用に注目するため、「結果状態」の「テイル」の誤用の要因について以下にまとめる。

---

27 「動詞＋lɛ́ɛw」で表すもの。

28 「動詞＋yùu」で表すもの。

29 学習者の母語（または既習の言語）が第二言語（または次に学習する言語）を習得する場合に何らかの影響を与えることを言語転移（Language Transfer）という。言語転移にはプラスに働く場合は「正の転移」、マイナスに働く場合は「負の転移」と呼ぶ（迫田 2002）

30 助動詞を付加せず基本形で表すもの。

・母語の影響

例：(「結果状態」の意味で）*お姉さんはもう結婚したよ。

選択した理由：タイ語では過去を表わす「lέεw」[31]を使用するから。

・言語処理のストラテジー

例：(「結果状態」の意味で）*授業がもう始まった。

選択した理由：「もう」があって「タ形」を使うのが適切であるから。

・言語内エラー

例：（「結果状態」の意味で）*お姉さんはもう結婚したよ。

選択した理由：「結婚している」は「進行」、つまり「結婚式の最中」になる気がするから。

2.2　本研究の位置づけ

2.1 の先行研究のまとめから見られるように、「テイル」の習得に関する研究は数多く存在し様々な角度から調査が実施されており、日本語学習者の「テイル」の習得についてある程度把握できたと思われるが、十分とは言い難い。そのため、以下にドゥアンケーオ(2013)を含めた先行研究で解明されていない課題や問題点をまとめる。

1）上記の表 2 から分かるように、多くの研究ではただ誤用を示す調査の結果を報告したにすぎず、なぜ日本語学習者がそのような誤用をするのかを解明する習得研究は少ない。また、その誤用の原因の解明する試みがあったとしても、原因を特定する根拠がなく、調査者自身の推測に基づくものが多く見受けられた。例えば、黒野（1995）では文法テストを実施して得られた結果から日本語学習者の「テイル」の習得過程を報告しているが、なぜ誤用が起こったのかについては触れられていない。これに対して、許（1997）は、「テイル」の用法を 8 種類に分け、日本語学習者の習得順序を明らかにし、その中の中心的な用法である「動作の持続」と「結果の状態」の用法の習得状況を説明しているが、それは学習者に直接聞いて分析したものではなく、日本語と中国語の違いから見てまとめたものである[32]。許（2000）は、OPI の発話資料に基づい

[31] 「lέεw」は、本来「過去」ではなく「完了」を表わす助動詞であるが、「完了」ではなく「過去」と間違えて認識しているタイ語母語話者は少なくない。

[32] 許（1997）では、「結果の状態」の用法において中国語学習者が「テイル」の代わりに「タ」を選択する傾向があると述べている。その理由として、日本語の「結果の状態」の用法の「テイル」は、中国語では「著」と「了」が対応し、中国語では「完了」を「了」を使用する場合は「タ」を選択してしまうからであるとされている。

て、学習者の自然な発話における「テイル」の習得状況を報告し、「テイル」の習得は「現在性」「持続性」「運動性」という三つの典型的な要素をどの程度表わしているかというプロトタイプ性と関連していると結論付けているが、その結論は調査者によって調査結果から分析されたものである。菅谷（2004）も L1 の役割を探るために文法テストを実施したが、分析に用いたのは文法テストの結果しかなく、日本語学習者の「テイル」の習得と誤用の原因を調べるには、文法テストなどの調査結果からの分析の他に、直接インタビューを行う必要があると考える。つまり、「テイル」の使用の際に、何を考えて選択しているのかを参考にして分析することが不可欠である。しかし、頭の中のプロセスなどを言葉にするのは、第二言語である日本語で表現するには限界があり、学習者の最も得意とする母語で実施するのが望ましい。そこで、本研究では、タイ人日本語学習者の「テイル」の習得を明らかにするために、文法テストに加えてフォローアップ・インタビューも実施し、両方の結果を照らし合わせて分析をすることにする。

2）これまでの「テイル」の習得研究の調査対象者はほとんど日本で日本語を学習している人々、つまり JSL 環境下にある人々であり、日常的に日本語または日本語母語話者と接触する機会が多いと考えられる。日本語との接触が少ない海外で日本語を学習している JFL 環境下の学習者を対象にする研究は許（1997）、簡他（2010）、猛他（2010）、陳（2014）、タサニー（2000）しか見当たらない。迫田（2002）は、目標言語圏で学習しているのか、自国で学習しているのかという学習環境が習得の順序や速度に影響を与える可能性があると述べている。筆者は将来自国であるタイに帰り、JFL 環境下で日本語を学習している学習者に日本語を教えることを目的としている。そこで、タイで日本語を学習しているタイ人日本語学習者を対象にし「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにする必要があると考える。

3）これまでの「テイル」の習得研究は、中国語母語話者を調査対象者にしたものが多く（許 1997; 簡他 2010; 孫他 2010 など）、中国語母語話者が中心ではなくても中国母語話者が調査対象者の一部に入っている「テイル」の習得研究も少なくない（黒野 1995; 許 2000; 阿拉塔 2009,2010 など）。他言語の母語話者を対象にする「テイル」の習得研究もある（菅谷 2003,2004; 松井 2008）。菅谷はテルグ語母語話者、ロシア語母語話者、ブルガリア語母語話者、ドイツ語母語話者、英語母語話者を対象にしており、松井はロシア語母語話者を対象としている。タイ人日本語学習者を対象にする研究はタサニ

一他（2000）とドゥアンケーオ（2013）しか見当たらないが、タサニーが扱ったのはアスペクト表現全体であり、「テイル」の習得には一部しか触れられておらず、しかも用法別の分析は行われなかった。許（2000）は、日本語学習者の「テイル」における習得状況に普遍的な傾向が見られると結論付けているが、その研究にはタイ人日本語学習者が対象者に含まれていないため、タイ人日本語学習者の「テイル」の習得状況も同じであるとは断言できない。そこで、タイ人日本語学習者の「テイル」の習得状況を明らかにするためには、タイ人日本語学習者のみを対象とし調査を行う必要があると考えた。そのことが、先行研究の結果を検証することにもなる。

4）今までの「テイル」の先行研究のほとんどは、「テイル」の全体的な習得状況を明らかにする試みであり、日本語学習者の「結果状態」の「テイル」に着目した研究は非常に少なく、管見の限り簡（2012）しか見当たらない。簡（2012）は、「テイル」の「結果状態」の用法に着目し、中国語母語話者による縦断的な作文データを用いて、結びつく変化動詞の種類から学習者の中間言語とその変化を分析している。学習者の書いた作文は学習者が実際に産出した文章なので、学習者の言語使用状況を見るにはいい方法かもしれないが、学習者が決められた文法項目を正しく理解・使用できているかどうかを見るには不十分であると考えられる。つまり、学習者が自信のない文法項目を使用しない「回避」なども起こりうるからである。迫田（2002）は、作文による研究法に関して「学習者によって書かれた文の量が違ったり、特定の項目が使用されるかどうかが不明であったりする」と述べている。そこで、学習者が決められた文法項目（本研究では「結果状態」の「テイル」）を正しく使用できているかどうかを見るには、文法テストを使用した方が適切であると考えられる。

5）ドゥアンケーオ（2013）は、タイの大学で日本語を専攻しているタイ人日本語学習者を対象に、文法テストとフォローアップ・インタビューを用いて「テイル」の「進行」と「結果状態」の習得状況を分析しているが、まだ明らかになっていない点が多く残されている。以下にドゥアンケーオ（2013）の残された問題点をまとめる。

・「結果状態」における文法テストの問題数が少なく、タイ人日本語学習者の習得状況を分析するのに不十分である。また、「結果状態」の「テイル」の問題で扱われた動詞の中に「結婚している」や「知っている」など菅谷（2003）と阿（2009）で述べられている「学習者がかたまりとして覚えている動詞」が多く含まれている。つまり、ルールを理解せずにそのまま動詞を使用していることが考えられる。

「結果状態」の「テイル」の用法を正しく理解できているかどうかを調べるためには異なる動詞を扱う必要があると考えられる。

・母語であるタイ語の影響、つまり「正の転移」と「負の転移」に関しては表面的にしか触れられていない。タイ語の助動詞の「lɛ́ɛw」と「yùu」の知識がどのように「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えているかに関しては説明されていない。

以上の現状と問題点から、タイで日本語を学習しているタイ人日本語学習者を対象に、文法テストに加えフォローアップ・インタビューを用いることで、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにすることに意義があると考える。本研究の結果が今後の日本語教育に携わる人に少しでも役に立つことができれば幸いである。第3章では「テイル」の用法の分類と日本語の「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式を記述する。

第 3 章　日本語の「結果状態」の「テイル」とそれに対応するタイ語の文法形式

3.1　日本語のアスペクト「テイル」の用法の分類

「テイル」の用法の分類に関しては、研究者によって様々な分類がなされているが、共通の部分として、「進行」と「結果状態」が中心的な用法であり、「繰り返し」、「経歴・経験」、「単なる状態」が派生的な用法であるとされている（仁田、工藤 1995）。以下は仁田（2009）の分類に従って各用法の説明を行う。

（1）進行

「進行」とは、動きが始まって終わるまでの動きの最中の状態に今現に（焦点の当たっている基準時に）主体（主格名詞）があることを表わす。（中略）「動作の持続」を作る動詞は、「動き動詞[33]」で、動きが持続過程を有していて、動きの始まりと動きの終わりが分離可能で、かつ、動き前と動き後で主体が変化したとは捉えられない動詞である。例えば、「走る、温める、書く」などである。

・みんな外で遊んでいる。

・雪がしんしんと降っています。

・その下には相変わらず湧水があり、小川が流れている。

（2）結果状態[34]

結果状態とは、動きが終わりその結果生じた新しい状態が主体に今現に（焦点の当たっている基準時に）存在・持続していることを表わす。（中略）「結果状態」を作る動詞は、「動き動詞」で、動きが持続過程を有しているか否かに拘らず、動き前と動き後で主体の状態に変化が生じたと捉えられている「主体変化動詞」である。

・雨はやんでいるが、空は曇っている。

・ドアが開いている。

・僕は疲れている。

---

33 「動作動詞」と呼ばれることもある。

34 仁田（2009）では「結果残存」と表示されている。

（3）繰り返し[35]

「繰り返し」とは、同じ動きが適当なインターバルを置いて何度か繰り返されるその過程を持続状態として捉えたものである。「繰り返し」は、何らかの構文的条件によって、アスペクトを持つ動詞のテイル形が、そのテイル形が担っている基本的意味に関わりなく派生させた派生的な意味である。

・あいつは、しばしば万年筆をなくしている。

・彼は何度も小説を書いている。

・アフリカでは、飢えで今この瞬間も大勢の人が死んでいる。

（4）経歴・経験[36]

「経歴・経験」とは、動きが終わったことを現在（基準時）から眺めて捉えたものである。動きが丸ごと・全体として捉えられていることによって、動きそのものが広げられず、テイル形の根幹的意味の一要素である「持続性」が後方にさがり、「動きの後」つまり、完了性が前面に出たものである。「シタ」に近く、動きの完了を表わすもの「完了」と、近似的に「したことがある」に置き換えられるところの、ある動きを以前に行ったことがある。あるいは、以前に動きを行ったことが現在（基準時）に何らかの影響を与えている、といったニュアンスを帯びているもの「経験・経歴」とがある。ただし、「完了」と「経験・経歴」は、連続的である。

・我々家族は一度オーストラリアに行っている。

・コロンブスはアメリカを発見している。

・先週それについては僕が調べている。

（5）単なる状態[37]

「単なる状態」とは、動きの契機を持たず単に状態を表わすものである。動きが考えられなかったり、問題にならなかったりすることで、テイル形の根幹的意味の一要素である「動きの結果」といった意味が押さえられ、「持続状態」だけが問題になったものである。

---

35 仁田（2009）では「繰り返し的持続」と呼んでいるが、本研究では多くのテイルの習得研究の先行研究に従って「繰り返し」と呼ぶことにする。

36 仁田（2009）では「経験・完了」と呼んでいるが、本研究では多くのテイルの習得研究の先行研究に従って「経歴・経験」と呼ぶことにする。

37 仁田（2009）では「単純状態」と呼んでいるが、本研究では多くのテイルの習得研究の先行研究に従って「単なる状態」と呼ぶことにする。

・この道は曲がっている。

・彼の服はいつも洒落ている。

・彼はとてもにやけている。

前述したように、「進行」と「結果状態」はテイルの中心的な用法とされ、「繰り返し」、「経歴・経験」、「単なる状態」は派生的な用法とされている。本研究では、初級の日本語教材でとりあげられているにもかかわらず、中・上級学習者においても習得が困難である「結果状態」の用法のみを対象にする。もう一つの中心的な用法である「進行」の習得を対象にしないのは、「進行」の習得状況が、ドゥアンケーオ（2013）を含めた、諸先行研究の中で明らかにされているからである。また、本研究では「結果状態」の「テイル」の習得に着目することにし、「繰り返し」、「経歴、経験」、「単なる状態」の習得に関しては今後の研究において明らかにしたい。

3.2　日本語の「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式

アスペクト「テイル」における「結果状態」の用法の分類の基準は、文法学者によって様々であるが、本研究ではタイ人日本語学習者の習得状況とその要因を明らかにすることを目的にしているため、「結果状態」の用法を「対応するタイ語の文法形式」という観点から分類することにした。ピャマーワディー（1981a）は、日・タイ語におけるテンスとアスペクトの比較研究を行っており「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語に関しては以下のように述べている。各例文の下のタイ語訳は筆者が加えたものである。

1）「動詞＋lɛ́ɛw」が対応するもの

例：「今日、私にも彼が来るよ。婚約しているの。」

＝　wanníi　kháw　kɔ̂ɔ　cà　maahǎa　chán　dûay　chán　mân　lɛ́ɛw　ná

今日　彼　も（意思を表す助動詞）　会いに来る　私　も　私　婚約する　（完了を表す助動詞）　終助詞

：「貧乏なら慣れている。」

＝　thâa　khwaamcon　làkɔ̂ɔ　chin　lɛ́ɛw

（条件表現）　貧しさ　なら　慣れる　（完了を表す助動詞）

2)「動詞＋yùu」が対応するもの

例：「電気が消えている。」

＝　fai　dàp　yùu

　　電気　消える　いる

3)「動詞」が対応するもの

例：「先輩は、この人を知ってますか？」

＝　phîi　rúucàk　khon　níi　mái　khráp

　　先輩　知る　人　この　疑問詞　丁寧語

：「油が切れてるんです。」

＝　phrɔ́　náamman　mòt　ná

　　（因果関係）　油　切れる　終助詞

以上の通り、ピャマーワディー（1981a）は、日本語の「結果状態」に対応する「テイル」を 3 つに分類している。タイ人日本語学習者の「進行」と「結果状態」の「テイル」の習得状況を扱ったドゥアンケーオ（2013）は、ピャマーワディー（1981a）の分類に基づいて以下の通りに分類している。

表 4　ドゥアンケーオ（2013）における「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式

対応するタイ語の文法形式	所属するタイ語の動詞	例文
(A)　「動詞＋lɛ́ɛw」[38]	結婚する(tɛ̀ŋŋaan)、婚約する(mân)、 慣れる(chin)、始まる(rə̂əm)、 届く(thŭŋ)、遅刻する(sǎay)	chán　tɛ̀ŋŋaan　lɛ́ɛw 私　結婚する　(完了) 私は結婚している
(B)　「動詞＋yùu」	（ドアが）開く(pə̀ət)、（テレビが）点く (tìt)、壊れる(sǐia)、落ちる(tòk)、 行く(pai)、倒れる(lóm)、ほどける(lùt)	thiiwii　sǐia　yùu テレビ　壊れる　いる テレビは壊れている
(C) 基本形	知る(rúu)、切れる(mòt)、持つ(mii)、 着る(sài)、役に立つ(mii prayòot)、 分かる(khâucai)、間に合う(than)	chán　mii　rót　sǎam　khan 私　持つ　車　三　台 私は車を三台持っている

[38] 「lɛ́ɛw」は「完了」を表す助動詞

しかし、(B)「動詞＋yùu」のグループと（C）基本形のグループは、実際のところ明確に分類できるわけではない。つまり、「yùu」を言う人と言わない人がいるため、助動詞として「yùu」を用いる場合は、「yùu」をつけてもつけなくてもいいということになる。そのため、本研究では、(B)「動詞＋yùu」のグループと（C）基本形のグループをまとめて「(B）動詞（＋yùu)」とした。以下はドゥアンケーオ（2013）に基づいて改善したものである。

表 5　本稿で扱う「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式

対応するタイ語の文法形式	所属するタイ語の動詞	例文
(A) 「動詞＋lɛ́ɛw」[39]	結婚する(tɛ̀ŋŋaan)、婚約する(mân)、 慣れる(chin)、始まる(rə̂əm)、 届く(thŭŋ)、遅刻する(sǎay)	chán　tɛ̀ŋŋaan　lɛ́ɛw 私　結婚する　(完了) 私は結婚している
(B) 「動詞（＋yùu)」	（ドアが）開く(pə̀ət)、(テレビが）点く(tìt)、壊れる(sǐia)、落ちる(tòk)、 行く(pai)、倒れる(lóm)、ほどける(lùt)	thiiwii　sǐia　yùu テレビ　壊れる　いる テレビは壊れている

以上の表 5 から分かるように、日本語における「結果状態」を表わす場合は「テイル」が用いられるのに対し、タイ語においては「動詞＋lɛ́ɛw」、「動詞（＋yùu)」という 2 つの文法形式が用いられる。そこで、この 2 言語間の違いが、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与え、誤用を生じさせてしまう可能性も十分あると考えられる。すなわち、「lɛ́ɛw」と「yùu」の意味と用法の特徴がタイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えることが考えられるため、タイ語の助動詞である「lɛ́ɛw」と「yùu」に関する研究も挙げながら、「lɛ́ɛw」と「yùu」の意味と用法の特徴をまとめておく。

3.2.1　「lɛ́ɛw」の意味と用法の特徴

「lɛ́ɛw」は、「完了[40]」を表すタイ語の助動詞である。「lɛ́ɛw」の意味と用法の特徴について記述した研究は、Thonglor（1952)、Uppakitsinlapasarn（1964)、田中（2004)、ラッタナセリーウォン（2014）などがある。ラッタナセリーウォン（2014）は、

39 「lɛ́ɛw」は「完了」を表す助動詞
40 工藤（1995）やタサニー他（2000）などは「パーフェクト」を呼んでいる。

Uppakitsinlapasarn（1964）が記述した「完了」としての「lɛ́ɛw」をまとめている。本研究では、ラッタナセリーウォン（2014）に基づき以下の分類を用いる。

表 6　Uppakitsinlapasarn（1964）における「完了」としての「lɛ́ɛw」[41]

kaansŏmbuun（完了） kaansăaman（テンス）	「lɛ́ɛw」
paràtyúbankaan （現在）	kháu kamlaŋ kin khâaw lɛ́ɛw 彼 （進行） 食べる ご飯 （完了） 彼は（もう）ご飯を食べている。
adìittakaan （過去）	kháu dâi kin khâaw lɛ́ɛw 彼 （過去） 食べる ご飯 （完了） 彼は（もう）ご飯を食べた。
anaakhótkaan （未来）	kháu càk kin khâaw lɛ́ɛw 彼 （未来） 食べる ご飯 （完了） 彼は（これから）ご飯を食べる。
anúttakaan （超時）	kháu kin khâaw lɛ́ɛw 彼 食べる ご飯 （完了） 彼はご飯を食べた。

筆者の経験上、多くのタイ語母語話者は、タイ語の助動詞「lɛ́ɛw」に関して間違った知識を持っており、「完了」ではなく「過去」と認識している人が多いように思える。しかし、以上の表 3 から分かるように、タイ語の「lɛ́ɛw」は「完了」を表す助動詞で、「現在」「過去」「未来」「超時」つまり、どのテンスでも使用可能であると言える。過去の出来事に関しては、日本語では過去を表す場合、「タ形」の動詞を用いるが、タイ語では日本語のような動詞の活用がない。そのため、「過去の出来事」であることを表すために、タイ語では表 6 にある「過去」を表す助動詞である「dâi」や「昨日」などの時間を表す言葉を用いる必要がある。以下に「過去」を表すタイ語の例文を挙げる。この文では過去を表すために時

[41] ラッタナセリーウォン（2014）では、「Perfective としての「lɛ́ɛw」」とされているが、本稿では Uppakitsinlapasarn（1964）の「kaansŏmbuun」に従って「「完了」としての「lɛ́ɛw」と表示することにした。

間を表す言葉である「昨日」が用いられ、「lɛ́ɛw」は過去として用いられない。

例：昨日 8 時に晩ご飯を食べた。

mûɯawaan　kin　khâawyen　tɔɔn　sɔ̌ɔŋthûm

昨日　食べる　晩ご飯　～の時　8 時

本研究では、筆者の推測通り、タイ語母語話者がタイ語の「lɛ́ɛw」に関して間違った知識を持っているのか、また、その「lɛ́ɛw」に関する知識がどのように日本語の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えるのかを明らかにしたい。

3.2.2　「yùu」の意味と用法の特徴

「yùu」の意味と用法の特徴について記述した研究は、Kanchanawan（1978）、ワライポーン（1998）、田中（2004）、ラッタナセリーウォン（2013）などがある。ワライポーン（1998）は、タイ語の「yùu」を①本動詞の「yùu」と②助動詞の「yùu」[42]に分けて以下の通り説明している。

①本動詞の「yùu」の意味用法

本動詞の「yùu」は基本的に、その場に「とどまる、動かない、しっかりしている」という意味を持つ。この「yùu」は日本語に訳すと「場所＋いる、ある、住む」に当たる。以下に例を挙げる。

・wanníi　kháu　yùu　bâan　tháŋwan

今日　彼　いる　家　一日中

「彼は今日一日中家にいる」

・tɔɔnníi　kháu　yùu　thîinǎi

今　彼　いる　どこ

「彼は今どこにいますか」

[42] ワライポーン（1998）は、助動詞の「yùu」を「後動詞」と「不変動詞」に分類して考察しているが、本研究では便宜上両方を含めて「助動詞の「yùu」」とする。

②助動詞の「yùu」

助動詞の「yùu」は、動詞の後に置き、「yùu」の意味は先行する動詞の種類により異なる。

1）動作・作用動詞の後

・dèk　khon　nán　tham　kaanbâan　yùu

子ども　（類別詞）　あの　する　宿題　（進行）

「あの子どもは宿題をしている」

この文は動作・作用動詞の後に、「yùu」が置かれており、この場合はその動作・作用の進行を表す。「yùu」がないとテンス・アスペクトの特定ができなくなる。

2）状態動詞の後

・thəə　kèp　tàkrâa　wáy　yàaŋŋán　phəə　hěn　thiirai　kɔ̂ɔ　cà　sâu　cai　yùu　mâihǎay

あなた　しまう　篭　～ておく　そのように　すると　見える　すると　いつも（そうなる）　（助動詞）　悲しい　（状態の継続）　失せない

「あなたはそのように篭を（捨てずに）置いておくから、いつまでたっても悲しみが失せないんですよ」

この文は状態動詞の後に、「yùu」が置かれており、この場合はその「状態の継続」を表す。ただし、「状態の継続」を表す際は、「yùu」があってもなくても文の意味は変わらない。

3）結果動詞の後

・naalíkaa　rɯɯan　nán　sǐia　yùu

時計　（類別詞）　その　壊れる　（動作の結果状態の継続）

「その時計は壊れている」

この文は結果動詞の後に、その「動作の結果状態の継続」を表す。「動作の結果状態の継続」は、「yùu」があってもなくても文の意味は変わらない。

本研究においては、日本語の「結果状態」の「テイル」に対応するもののみを対象としている。助動詞としての「yùu」の中に「結果状態」の「テイル」に対応しているのは「結果動詞の後」しかないため、「動作・作用動詞の後」と「状態動詞の後」は対象外とし、「結果動詞の後」のみを対象とする。

第 4 章　予備調査

本調査を実施する前に、本研究で扱う「文法テスト」と「フォローアップ・インタビュー」の「妥当性」を確保するために、予備調査を実施した。詳細は以下の通りである。

4.1　調査目的

1）中・上級タイ人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得の要因を探る。また、それらの要因がどのように「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えているかを探る。

2）タイと日本で日本語を学習したタイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況が異なっているかどうかを探る。

4.2　資料収集方法

資料収集方法は、(1）調査紙による文法テストと（2）フォローアップ・インタビューという 2 つの方法を採用した。文法テストは、「結果状態」の「テイル」を正しい文脈で選択できるかどうかを測るために実施する。しかし、文法テストで正しく選択できたとしても、調査協力者が正しく「テイル」に関して正しい知識を持っているとは限らない。フォローアップ・インタビューは、文法テストだけでは測ることができない「調査協力者が正しく「テイル」を理解できているかどうか」を測るために実施する。それぞれの詳細は以下の通りである。

4.2.1　文法テストの構造及び設問

文法テストは、①文法性判断テスト、②翻訳テスト、③多肢選択テストという 3 つの部分から成り立っている。文法性判断テストの問題数は 5 問(そのうちの 2 問がダミー問題)、翻訳テストは 6 問、多肢選択テストは 11 問（そのうちの 3 問がダミー問題）あり、全部合わせて 22 問（そのうちの 5 問がダミー問題）ある。本予備調査で扱う「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞は、「始まる」「なる」「腐る」「治る」「止む」「届く」「終わる」「過ぎる」で、「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞は「混む」「落ちる」「疲れる」「消える」「帰国する」「壊れる」「汚れる」「濡れる」「入院する」である。

①文法性判断テスト

ドゥアンケーオ（2013）では、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えている要因の一つとして「副詞「もう」への理解の不十分さ」が挙げられている。つまり、学習者は「もう＋タ」という独自のルールを自分の中で形成しており、「もう」という副詞があるとそれにつられて「タ形」を選択してしまうということである。本予備調査ではドゥアンケーオ（2013）で得た結果を再確認するために文法性判断テスト実施した。（実際に使用した調査紙は資料 1 を参照されたい。）

②翻訳テスト

許（1995）やドゥアンケーオ（2013）などでは、日本語学習者の「テイル」の習得に「母語の影響」があると述べられている[43]。迫田（2002）は、「目標言語圏で学習することが習得に影響を与える学習項目とそうでない項目がある」と述べている。本予備調査では、タイで学習しているタイ人学習者と日本で学習している学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況が異なっているかどうかを探るために翻訳テストを用いる。（実際に使用した調査紙は資料 1 を参照されたい。）

③多肢選択テスト

菅谷（2004）や許（1995）やドゥアンケーオ（2013）などでは、日本語学習者が「結果状態」の「テイル」を使用すべきところで「タ」を使用する傾向があることが明らかになっている。本予備調査では、動詞ごとに「結果状態」の「テイル」の習得が異なっているかどうかを探るために、多肢選択テストを用いた。（実際に使用した調査紙は資料 1 を参照されたい。）

4.2.2　実施期間

2014 年 3 月 15 日から 2014 年 4 月 8 日にかけて実施した。

---

43 「著」が対応する「結果状態」の「テイル」は中国人日本語学習者にとって習得が容易であるが、完了相を表すアスペクト助詞「了」が対応する「結果状態」の「テイル」は中国人学習者にとって習得が困難である（許 1995）。
タイ人学習者は、「動詞＋lɛ́ɛw」の「lɛ́ɛw」の影響を受けて「タ」を選択する傾向があり、「動詞（＋yùu）」の「yùu」の影響を受けて「テイル」を選択する傾向がある（ドゥアンケーオ 2013）。

4.2.3　調査協力者

予備調査の調査協力者は、タイ語を母語とする日本語学習者 11 名である。調査協力者の詳細は以下の通りである。

（ⅰ）タイの大学で日本語を専攻していたタイ語を母語とする日本語学習者で、日本に滞在した経験のないグループ（1,2,3 の調査協力者）

（ⅱ）タイの大学で日本語を専攻していたタイ語を母語とする日本語学習者で、日本に滞在した経験のあるグループ（4,5,6,7,8,9 の調査協力者）

（ⅲ）タイの大学で日本語を専攻していないが、日本の大学に在学中のグループ（10,11 の調査協力者）

以下の通り、調査協力者の詳細を表 7 にまとめる。

表 7　予備調査の調査協力者の詳細

調査協力者	日本語学習歴	在日経験	日本語能力試験のレベル	日本語専攻
1	4 年	無	N2	○
2	4 年	無	N2	○
3	5 年	無	N1	○
4	4 年	2 年（仕事）	N1	○
5	8 年	6 年（留学）	N1	○
6	5 年	3 年（留学）	N1	○
7	3 年	3 年半(留学)	N1	○
8	5 年	1 年（留学）	N2	○
9	11 年	4 年（留学）	N1	○
10	2 年	2 年半(留学)	N3	×
11	1 年	3 年（留学）	N1	×

4.2.4　文法テストとフォローアップ・インタビューの実施状況

2014 年 3 月 15 日から調査紙を配布し始めた。直接手渡せる調査協力者には、直接会って文法テストを実施し、その後すぐフォローアップ・インタビューを実施した。直接手渡せない調査協力者には、電子メールに文法テストのファイルを添付し、送信した。また、

いずれの調査協力者に対してもメールを受信してから一週間以内に返却するようにお願いした。直接手渡せない調査協力者へのフォローアップ・インタビューは、問題に答える際に調査協力者が何を考えて回答したのかが記憶に残っているように、調査協力者から文法テストが返ってきて 3 日間以内に実施した。すべてのフォローアップ・インタビューはタイ語で行った。フォローアップ・インタビューをタイ語で実施した理由は、選択理由や頭の中で考えたことなどを説明するのに、調査協力者にとって最も得意な言語であるタイ語を利用するのが適切であると考えたからである。また、ドゥアンケーオ (2013) や許 (1997) などの先行研究において述べられているように、「結果状態」の「テイル」の習得においては「タ形との混同」が見られるため、本研究のフォローアップ・インタビューでは「テイル」と「タ」に関する事柄を中心に質問をすることにした。フォローアップ・インタビューの質問は以下の通りである。

・調査協力者が「テイル」を正しいと判断した場合、①なぜ「テイル」が正しいと判断したのか、②「タ」との違いは何か
・調査協力者が「タ」を正しいと判断した場合、①なぜ「タ」が正しいと判断したのか、②「テイル」との違いは何か
・調査協力者が「テイル」と「タ」以外の選択肢が正しいと判断した場合、①なぜその選択肢が正しいと判断したのか、②その選択肢を「テイル」と「タ」と比較してどのように異なるのか

4.3　文法テストの結果

表 8 は、各調査協力者の文法テストの総合点数を示したものである。文法テストの各部分の各問題を 1 点ずつの配点として計算し、17 点満点とした。表 9、表 10、表 11 は、調査協力者の各文法テストの回答を示したものである。表 10 の下線部は「結果状態」の「テイル」の誤用を表している。

表 8　各調査協力者の総合点数

調査協力者	点数（17点）	点数（%）
1	10	58.82
2	7	41.18
3	9	52.94
4	10	58.82
5	13	76.47
6	15	88.24
7	12	70.59
8	11	64.71
9	7	41.18
10	9	52.94
11	7	41.18

表 9　調査協力者の文法性判断テストの回答

調査協力者	番号	回答	正しいと思った回答
1	1	正	
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた
2	1	誤	始まる
	2	誤	止む
	3	誤	届いた
3	1	正	
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた
4	1	誤	始まった
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた
	1	正	

5	2	正	
	3	誤	届いた
6	1	正	
	2	正	
	3	正	
7	1	正	
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた
8	1	正	
	2	誤	止んだ
	3	正	
9	1	誤	始まった
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた
10	1	誤	始まった
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた
11	1	正	
	2	誤	止んだ
	3	誤	届いた

表 10　調査協力者の翻訳テストの回答

調査協力者	番号	回答
1	1	あら！映画が<u>終わっちゃった</u>ねー。
	2	吉田さんは先月から入院しています。
	3	教室の床でペンが落ちています。
	4	ワンさんは、先週から帰国しています。来月末に日本に帰って来ます。
	5	あ！<u>通り過ぎちゃった</u>。
	6	あれ、パソコンが壊れているんですね。それじゃ、レポートを書けないですね。

2	1	わぁ一つ、映画もう終わった。
	2	吉田さんが先月から入院しています。
	3	教室の床にペンが落ちた。
	4	ワンさんが先週から帰国しました。来月末日本に戻ります。
	5	あー、バス停を通り過ぎた。
	6	あー、パソコンが壊れている。じゃあ、レポートが書けないよね。
3	1	あら、もう終わっちゃった。
	2	吉田さんは先月から入院しています。
	3	教室の床にペンが落ちている。
	4	ワンさんなら先月から帰国していますよ。来月末に日本に戻ります。
	5	あー乗り過ごしてしまったっ！
	6	あ、PC が壊れちゃったみたい。レポート書けないじゃないか。
4	1	ええ！もう終わったか。
	2	吉田さんは先月から入院しています。
	3	教室の中で床にペンが落ちています。
	4	ワンさんは先週から帰国している。来月末に日本に戻ります。
	5	あれ！降りたい場所から通ってしまいました。
	6	パソコンが壊れてるんじゃない！こうなったら、論文を作れないじゃん！
5	1	あ、終わったじゃん。
	2	吉田さんは先月から入院してます。
	3	教室の床にペンが落ちてる。
	4	ワンさんは、先週から帰国しています。来月、日本に戻ります。
	5	あ、過ぎちゃった。
	6	あ、パソコン壊れてんじゃん！このままじゃレポート書けないよ。
6	1	あれ！映画が終わっちゃったんだ。
	2	吉田さんは先月から入院していますよ。
	3	教室の床にペンが落ちてる。
	4	ワンさんは先月から帰国してて、来月末に戻ってきますよ。
	5	あっ、通り過ぎちゃった。

	6	パソコンが壊れてるから、レポートを書けないんじゃん。
7	1	えっもう終わったか。
	2	吉田さんは先月から入院しています。
	3	教室の中で床にペンが落ちているぞ。
	4	ワンさんが先週から帰国しています。先月の下旬に戻ってきます。
	5	あれ。過ぎちゃったじゃないか。
	6	あれ？パソコンが壊れてるじゃないか。それならレポートが書けないよな。
8	1	あれ、もう終わったんじゃん。
	2	吉田さんは先月から入院しているよ。
	3	教室でペンが落ちているよ。
	4	ワンさんは帰国しているんです。来月末ごろ日本に戻るって
	5	あれ、もうバス亭通りました。
	6	パソコン壊れてるんだ。こうだったら、リポート書けないじゃん。
9	1	映画が終わっちゃったね。
	2	吉田さんは先月から入院しましたよ。
	3	ペンが落ちている。
	4	ワンさんは先月帰国しました。来月末に、日本に戻ってきます。
	5	バス停を過ぎちゃった。
	6	パソコンが壊れているなんだね。レポート書けないもん。
10	1	あっ、映画が終わってしまった。
	2	吉田さんが先月から入院しました。
	3	教室の中にフロアにペンがおちされている。
	4	ワンさんは先週からお国に帰っていますよ。来月の後ろくらい日本に戻ります。
	5	あ～～～、乗り越した～～～。
	6	あっ、パソコンが壊れている。これなら、レポートが書けないな～。
11	1	えー、映画が終わったの？
	2	吉田さんは先月に入院しました。
	3	クラスの床ではペンが落ちている。
	4	ワンさんは帰国していて、来月末に日本に戻ります。

	5	もう過ぎちゃった。
	6	パソコンが故障したので、私はレポートを書けない。

表 11　調査協力者の多肢選択テストの回答

調査協力者	動詞	ル	タ	テイル	テイタ
1	治る		○		
	腐る			○	
	疲れる			○	
	汚れる		○		
	濡れる			○	
	消える			○	
	なる		○		
	混む			○	
2	治る		○		
	腐る			○	
	疲れる		○	○	
	汚れる		○	○	
	濡れる		○		
	消える			○	
	なる		○		
	混む	○	○	○	
3	治る		○	○	
	腐る		○		○
	疲れる	○	○	○	
	汚れる		○		
	濡れる		○	○	
	消える		○		
	なる		○	○	

	混む		○	○	
4	治る		○		
	腐る		○		
	疲れる			○	
	汚れる			○	
	濡れる			○	
	消える			○	
	なる			○	
	混む			○	
5	治る			○	
	腐る			○	
	疲れる			○	
	汚れる			○	
	濡れる			○	
	消える			○	
	なる		○		
	混む			○	
6	治る		○	○	
	腐る			○	
	疲れる		○	○	
	汚れる			○	○
	濡れる			○	
	消える			○	
	なる		○	○	
	混む			○	
7	治る		○		
	腐る			○	
	疲れる			○	
	汚れる			○	

	濡れる			○	
	消える			○	
	なる		○	○	
	混む		○	○	○
8	治る		○		
	腐る		○		
	疲れる			○	
	汚れる			○	
	濡れる			○	
	消える			○	
	なる		○		
	混む			○	
9	治る		○		○
	腐る		○		○
	疲れる		○	○	
	汚れる			○	
	濡れる			○	
	消える			○	
	なる		○		
	混む			○	
10	治る				○
	腐る		○	○	
	疲れる			○	
	汚れる			○	
	濡れる			○	
	消える		○	○	
	なる				○
	混む			○	
11	治る		○		

	腐る			○	
	疲れる		○		
	汚れる			○	
	濡れる				○
	消える			○	
	なる		○		○
	混む			○	

日本語学習環境と「結果状態」の「テイル」の習得の関係を見るために、前述のように調査協力者を 3 つのグループに分け、各グループの平均点数を比較する。以下は、調査協力者を 3 つのグループの平均点をそれぞれ示したものである。（グループ分けは上述の通り、（ｉ）タイの大学で日本語を専攻していたタイ語を母語とする日本語学習者で、日本に滞在した経験のないグループ（1,2,3 の調査協力者）、（ii）タイの大学で日本語を専攻していたタイ語を母語とする日本語学習者で、日本に滞在した経験のあるグループ（4,5,6,7,8,9 の調査協力者）、（iii）タイの大学で日本語を専攻していないが、日本の大学に在学中のグループ（10,11 の調査協力者）に分けた。）

図 3　各グループの平均点数（%）

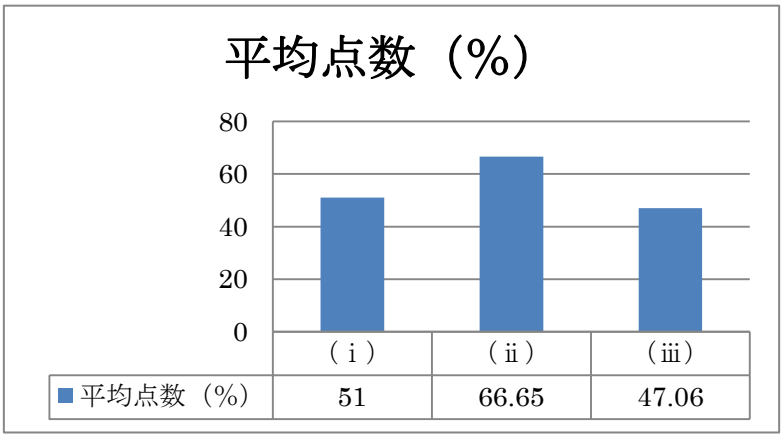
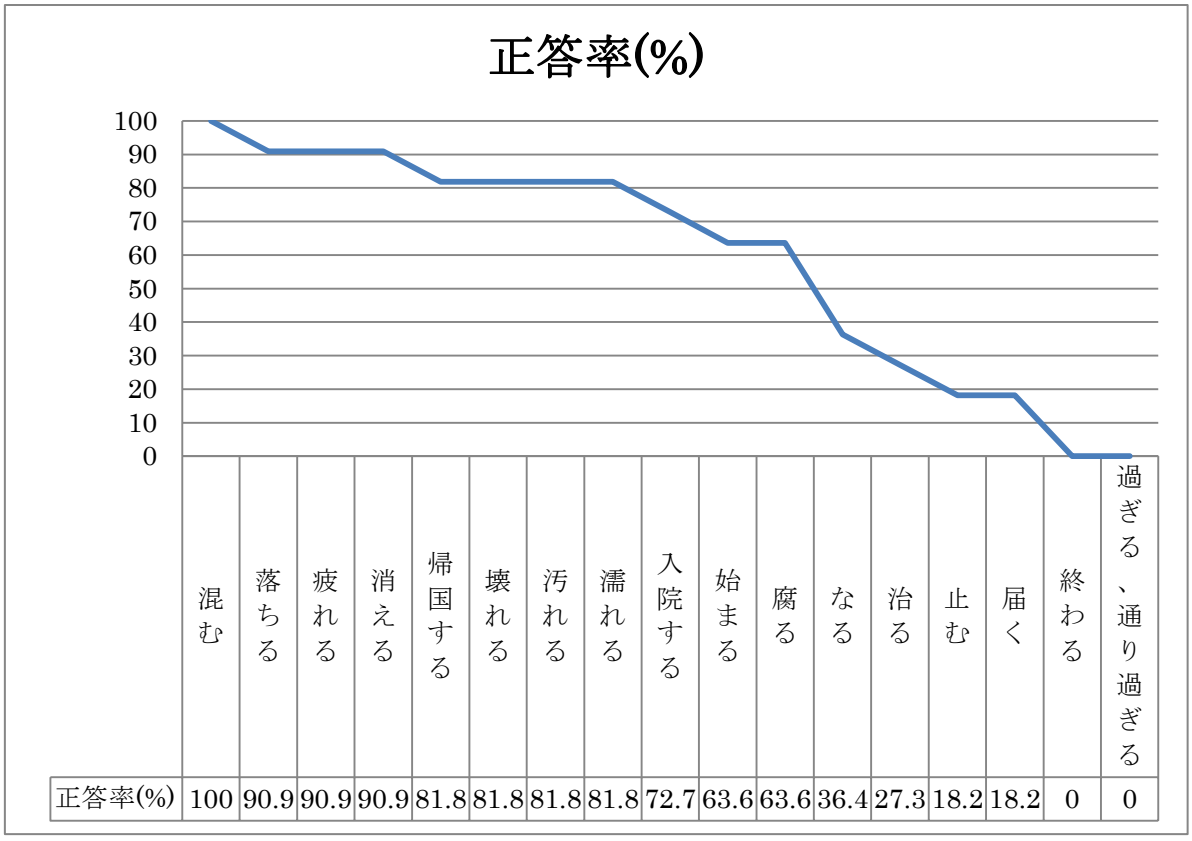


図 3 のデータを参照すると、「結果状態」の「テイル」の習得が最も進んでいるのはグループ ii であることが読み取れる（平均点数 66.65%）。つまり、タイの大学で日本語を専攻し、日本滞在の経験もある学習者が最も習得が進んでいることが窺える。

一方、グループⅰとグループⅲの点数はほとんど差がなく、習得状況が同じくらいであると言える。ここで注目すべき点は、最も習得が進んでいるように見えるグループⅱでも、正答率が 66.65%にとどまっているということである。それに、文法テストで「テイル」を選択できているからといって、「結果状態」の「テイル」を正しく理解できるとは限らない。そのため、本研究においては文法テストに加えてフォローアップ・インタビューを実施した。その結果は資料 2 を参照されたい。

次に、各動詞の正答率を見ることにする。以下の図 4 は、文法テストの問題に採用した各動詞の正答率を示したものである。

図 4　各動詞の正答率（%）



	混む	落ちる	疲れる	消える	帰国する	壊れる	汚れる	濡れる	入院する	始まる	腐る	なる	治る	止む	届く	終わる	過ぎる、通り過ぎる
正答率(%)	100	90.9	90.9	90.9	81.8	81.8	81.8	81.8	72.7	63.6	63.6	36.4	27.3	18.2	18.2	0	0

図 4 から、同じ「結果状態」の「テイル」でも動詞によって正答率が異なっていることが分かった。「混む」のように正答率が 100%の動詞もあれば、「終わる」「過ぎる、通り過ぎる」のように正答率が 0%の動詞もある。

4.4　考察

「結果状態」の「テイル」における習得が異なる要因に関しては、フォローアップ・インタビューの結果と合わせて考察すると、主に次のようなことが言える。

1) 学習者が正しく「テイル」を選択できたからといって、学習者が必ずしも「結果状態」の「テイル」に関して正確に理解できているとは限らない

本予備調査では、文法テストを使用したため、学習者が与えられた文脈に沿って適切な表現を選択できるかどうかについては見ることができる。しかし、学習者が正しく選択できたからといって、その学習者が正しく理解できているとは限らない。ドゥアンケーオ（2013）は、「タイ人日本語学習者は、よく「結果状態」の「テイル」を「進行」の「テイル」と混同する[44]」と述べている。すなわち、正しく選択できた学習者の中には「テイル」に関して正しく理解できていない学習者もいると考えられる。そのため、学習者が文法テストに回答する際、何を考えてどのような理由で選択したのかを探るために、フォローアップ・インタビューを実施した。

フォローアップ・インタビューをした結果、「結果状態」の「テイル」に関して間違った知識を持っている調査協力者が多くいた。仁田（2009）[45]は、「結果状態」の「テイル」について、「動きが終わりその結果生じた新しい状態が主体に今現に（焦点の当たっている基準時に）存在・継続していることを表す」と説明している。つまり、「動詞の動きが「終わり」その状態が発話時に残っている」ということになるが、フォローアップ・インタビューを実施した結果、誤用した調査協力者はもちろんであるが、正しく選択出来た人も全員正しく理解できていないことが分かった。以下の表 12 は、調査協力者の各動詞の回答理由の一部を示したものである。

---

[44] タイ人日本語学習者は、「結果状態」を表す「ペンが落ちている」を「ペンが宙に浮いている」つまり「進行」と混同する学習者は少なくない（ドゥアンケーオ 2013）。

[45] 仁田（2009）は、「結果状態」を「結果残存」と呼んでいる。

表 12　調査協力者の各動詞の回答理由（一部）

動詞	選択理由	回答した人数
始まっている	まだ始まっておらず、始まろうとしている。	4
止んでいる	まだ止んでおらず、止もうとしている。	5
届いている	まだ届いておらず、発送中である。	5
終わっている	まだ終わっておらず、終わる直前である。	3
落ちている	まだ床についておらず、宙に浮いている。	1
帰国している	まだ国に向かっている飛行機の中である。	1
通り過ぎている、過ぎている	バスがバス停と同じ位置で、通り過ぎている最中である。	6
治っている	治りかけで、まだ治っていない。（まだ傷が残っている。）	9
腐っている	一部だけ腐っており、まだ食べられる部分が残っている。	5
なっている	完全に水になっておらず、溶けつつある。	6

表 12 から見ると、多くの調査協力者が「結果状態」の「テイル」に関して正しい知識を持っていないことが分かる。すなわち、「動きが終わって、その状態が現在まで残っている」という意味で捉えるのではなく、「動きがまだ終わっていない」と間違えて捉えてしまった調査協力者が多く見られた。特に、「通り過ぎている、過ぎている」と「なっている」と「治っている」に関しては、半数以上の調査協力者が間違った知識を持っている。このテストでは正しく選択できて問題が起こらなかったとしても、間違った理解のままでは、産出する時にも間違えてコミュニケーションに支障を来たしかねない。

2)「動詞（＋yùu)」のグループの方が「動詞＋lɛ́ɛw」のグループより習得が容易であるという傾向がある

本研究では、日本語の「結果状態」の「テイル」を「動詞+lɛ́ɛw」のグループと「動詞(+yùu)」のグループに分類している。「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに属する動詞は、「始まる」「腐る」「なる」「治る」「届く」「止む」「終わる」「通り過ぎる、過ぎる」であり、「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞は、「混む」「落ちる」「疲れる」「消える」「帰国する」「壊れる」「汚れる」「濡れる」「入院する」であるが、図 4 を見ると、「動詞（＋yùu)」に属する動詞の正答率の方がすべて「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの正答率より高いことが分かった。日本語の動

詞の分類においては、どの動詞も「主体変化動詞」に属するものであるが、この動詞が「結果状態」の「テイル」と一緒に使われた時に対応するタイ語の助動詞が異なるのが誤用の要因の一つであると考えられる。

3）母語であるタイ語の影響が見られた

フォローアップ・インタビューの結果から、母語であるタイ語の影響が 2 パターン見られた。1 つ目は、「タイ語では〇〇と言うから、選択した」というパターンで、2 つ目は、タイ語で考えて選択するというパターン 1 とは違って、タイ語母語話者の持っている概念から影響を受けるパターンである。パターン 1 は、調査協力者がテストの問題に答える際、頭の中でタイ語で考えてそのままそのタイ語の表現を用いて選択するというパターンである。「動詞（＋yùu)」のグループの「yùu」は「いる」という意味で、日本語の「テイル」と関連付けて考えやすいため、調査協力者がそのままタイ語の知識を適用できる、つまり「正の転移」が見られた。一方で、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの「lɛ́ɛw」には日本語の文法形式でいう「タ」と「テイル」が対応する。しかも、タイ語母語話者の中にはタイ語の「lɛ́ɛw」に関する間違った知識を持った者もおり、「lɛ́ɛw」を「完了」ではなく「過去」という意味で認識している人が少なくないため、「タ」を選択してしまうこともあると言える。タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に関する認識については本調査で実施する。

パターン 2 は、テストの問題に答える際、タイ語で考えるのではなく日本語の知識を用いて考えてはいるが、今まで使ってきたタイ語の概念に影響を受けて選択したというパターンである。例えば、多肢選択テストの 9 番の問題においては、11 人中 9 人の調査協力者が「なっている」ではなく、「なった」が正しい答えであると回答した。フォローアップ・インタビューにおいて調査協力者に回答理由を尋ねた際には「「なる」という出来事が過去に起きたから」と調査協力者全員が説明している。つまり、日本語では、過去に動きが終わって現在まで続いている「状態」として捉えるのに対し、タイ語では「現在まで「状態」として続いている」ではなく、「過去に動き（出来事）があった」と捉えるのである。このような捉え方の違いがタイ人の「結果状態」の「テイル」の誤用を生む要因の一つであると考えられる。

4）調査協力者の「結果状態」の「テイル」に副詞「もう」の影響は見られなかった

本予備調査では、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の選択に副詞「もう」が影響を与えるかどうかを探るために、文法テストのひとつとして文法性判断テストを設けた。文法テストの後にフォローアップ・インタビューを実施して「テストの問題に答える際、副詞「もう」が影響したかどうか」を尋ねた。「選択する際に副詞「もう」を見て答えた」という調査協力者は 11 人中 1 人もいなかった。つまり、本予備調査においては、調査協力者の「結果状態」の「テイル」の選択への副詞「もう」による影響が見られなかった。

本章では、日本語学習環境など学習背景が異なる 11 名の調査協力者を対象とし、文法テストとフォローアップ・インタビューを実施した結果、次のことが見られた。

1）学習者が正しく「テイル」を選択できている場合でも、学習者が必ずしも「結果状態」の「テイル」に関して正確に理解できているとは限らない。

2）同じ「結果状態」の「テイル」でも、タイ人日本語学習者にとって習得が容易なグループと困難なグループが見られた。本予備調査では、「動詞（＋yùu)」のグループの方が「動詞＋lɛ́ɛw」のグループより習得が容易であるという傾向があることが見られた。

3）フォローアップ・インタビューの結果から考察すると、やはり母語であるタイ語の影響は見受けられ、それには 2 つのパターンがあった。1 つ目は、「タイ語では〇〇と言うから、選択した」というパターンで、2 つ目は、タイ語母語話者の持っている概念から影響を受けるパターンである。

4）調査協力者の「結果状態」の「テイル」に副詞「もう」の影響は見られなかった。

本予備調査の結果から、タイ人日本語学習者にとって「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難である傾向があり、その習得に影響を与えている主な要因として母語であるタイ語の影響があることが見られた。これらの要因を検証するために本調査を実施し、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える要因を明らかにしたい。

第 5 章　本調査

5.1　予備調査の仮説

第 4 章において述べた通り、予備調査から以下の仮説が立てられた。

1）学習者が正しく「テイル」を選択できたとはいえ、学習者がかならず「結果状態」の「テイル」に関して正確に理解できているとは限らない。

2）同じ「結果状態」でも、タイ人日本語学習者にとって習得が容易な動詞のグループと困難な動詞のグループが見られた。本予備調査では、「動詞（＋yùu）」のグループの方が「動詞＋lɛ́ɛw」のグループより習得が容易であるという傾向があることが窺えた。

3）フォローアップ・インタビューの結果から見ると、母語であるタイ語の影響があると言えるが、それには 2 つのパターンが見られた。1 つ目は、「タイ語では○○と言うから、選択した」というようにタイ語と対応させて考えて答えを選択するパターンであり、２つ目は、タイ語で考えて選択するというパターン 1 とは違って、タイ語母語話者の持っているタイ語の概念から影響を受けて選択するパターンである。特にパターン 1 においては、タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に関する認識が影響していると考えられる。

4）調査協力者の「結果状態」の「テイル」に副詞「もう」の影響は見られなかった。

以上の仮説を受け、本調査の目的を次の通りに定める。

5.2　調査目的

1）中・上級タイ人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得の要因を探る。また、それらの要因がどのように「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えているかを探る。

2）「結果状態」の「テイル」における各動詞の正答率が異なる場合、その要因を探る。

5.3　調査方法

本調査では、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにするために、以下の調査方法を実施した。

（1）文法テスト

（2）フォローアップ・インタビュー

（3）教材分析

（4）タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査

5.3.1　調査期間

2014 年 8 月 18 日から 2014 年 9 月 5 日にかけて実施した。

5.3.2　文法テスト

（1）予備調査の問題点及び改善点

予備調査を実施することによって、以下の問題点が分かった。

①実施上の問題

予備調査においては、文法テストを①文法性判断テスト、②翻訳テスト、③多肢選択テストという 3 つのテストに分けて実施したが、フォローアップ・インタビューの際に多くの調査協力者から「手間がかかりすぎる。特に翻訳テストは一番手間がかかる」などの意見があった。テストの手間がかかりすぎると、集中力が低下し後半の問題に集中できなくなるという問題が発生する可能性がある。特に、「翻訳テスト」については、長い文章を翻訳しなければならないため、最も手間がかかる部分だったと考えられる。また、全文を翻訳するように記載したため、他の文の要素に気を取られるあまり、調査対象の文法項目である「結果状態」の「テイル」に集中できず、その結果正しく回答できない可能性もあると思われる。

②タイ語の影響

翻訳テストでは、タイ語から日本語に訳してもらう形で実施したが、タイ語の問題文が調査協力者にタイ語の知識を使わせてしまう可能性があるため、母語であるタイ語の影響を見るには適切ではないと考えられる[46]。以下に各用法の例を挙げる（資料 1 を参照されたい）。問題の下にある発音記号と日本語訳は筆者が付け加えたものである。

[46] 問題文はタイ語で書かれているため、「lɛ́ɛw」と「yùu」の影響がどうしても出てしまう。つまり、問題文に「lɛ́ɛw」があると「タ」、「yùu」があると「テイル」を選ぶというように、調査協力者に強制的にタイ語の知識を使用させることになる。

「動詞＋lɛ́ɛw」の例

・「อ้าว หนังจบแล้วนี่นา」→ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

âau　nǎŋ　còp　lɛ́ɛw　nîinaa

あら　映画　終わる　（完了）　終助詞

「動詞（＋yùu）」の例

・「ในห้องเรียนที่พื้นมีปากกาตกอยู่」→ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

nai　hôŋriian　mii　pàakkaa　tòk　yùu

中　教室　ある　ペン　落ちる　いる

上記の 2 つの例から分かるように、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては、下線部の「lɛ́ɛw」の文法的意味に影響を受けて「タ」を選択したことが考えられる。「動詞（＋yùu）」のグループにおいても同じように、下線部の「yùu」の文法的意味に影響を受けて「テイル」を選択したことが考えられる。このように、問題のタイ語になるべく影響を受けないように本調査においては「翻訳テスト」を使用しないことにした。

③文法テストの種類の数

予備調査においては、①文法性判断テスト、②翻訳テスト、③多肢選択テストという 3 つのテストから成り立った文法テストを用いて実施した。しかし、各テストにおいてかかる手間や負担が異なっている（翻訳テストでは全文を翻訳しなければならないのに対し、多肢選択テストでは正しいと思った選択肢を選ぶだけであることなど）ため、本調査の目的の一つである「「結果状態」の「テイル」における各動詞の習得状況とその要因」を考察するという見地から考えると、適切ではないと考えられる。そのため、本調査において実施する文法テストは、問題の種類を一つに統一する必要があると考えられる。

以上の予備調査の問題点を踏まえて、本調査においては「文法性判断テスト」と「翻訳テスト」をなくし、「多肢選択テスト」だけでテストを実施することにした。さらに、予備調査の結果から推測した「タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する間違った認識が「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えている」という仮説を検証するために、本調査においてはタイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査も実施し、得られた結果を文法テストとフォ

ローアップ・インタビューの結果と合わせて考察の際に用いる。

（2）文法テストの構造及び設問

第 2 章において挙げた先行研究から分かるように、今までの「結果状態」の「テイル」の習得研究で扱われてきた調査方法は、大きく①文法テスト、②発話データの分析、③作文データの分析、に分けることができる。最も多く使用されている調査方法は文法テストである。発話データの分析は、許（2000）、阿（2009,2010）などで使用されている手法である。作文データの分析は、陳（2014）、簡（2012）、タサニー他（2000）などで使用されている。

まず、白畑他（2010）は、発話データについて「理論に基づいて仮説を立て、それを検証するという形の研究で用いられる場合よりも、研究対象をあまり絞り込まず、まず学習者の発話を記述しようという形で用いられることが多い」と述べており、「テイル」の習得など文法項目を絞ってその習得を見るのに適切な調査方法であるとは言い難いと考えられる。また、発話データと作文データにおいて共通しているのは、「回避（avoidance）」があることである。白畑他（2010）は、発話データや作文データなど産出データについて「産出データを利用する場合、調査したい対象がデータ上に出現しないと調査できない。しかし、実際のところ、自然会話の中ではそのような文が現れることはほとんどないだろう。学習者は、複雑な構造を持つ文や、使用に自信のない構造の使用を回避しようとする傾向がある」と述べている。そこで、対象文法項目である「結果状態」の「テイル」の習得状況を調査するためには、産出データの分析よりも、対象文法項目の知識を測定でき、「回避」も起きない文法テストの方が適切であると考えられる。

以上の理由を踏まえて、本調査においては、「多肢選択テスト」を用いた。文法テストの問題数は全部で 20 問ある（資料 3 を参照されたい）。「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの問題数は 7 問あり（1 番、5 番、8 番、11 番、15 番、17 番、19 番）、「動詞（＋yùu）」のグループの問題数も 7 問ある（2 番、4 番、7 番、9 番、12 番、14 番、18 番）。残りの 6 問は、「結果状態」の「テイル」の習得に関する調査であることを調査協力者に悟られないように入れたダミー問題である（3 番、6 番、10 番、13 番、16 番、20 番）。予備調査と同様に、調査協力者には正しいと思ったものをすべて選択させた。予備調査の文法テストで扱った動詞は 17 語であった。それは、「始まる」「止む」「届く」「終わる」「入院する」「落ちる」「帰国する」「過ぎる」「壊れる」「治る」「腐る」「疲れる」「汚れる」「濡れる」「消える」「なる」

「混む」である。しかし、本調査では、「入院する」「帰国する」「混む」「止む」を削除することにした。まず、「止む」を削除した理由は、多くの学習者がフォローアップ・インタビューの際に「「止む」という動詞を聞いたことがない」と答えていたことを受けて、馴染みのある動詞に絞るためである。そして、「入院する」と「帰国する」を削除した理由は、①「テイル形」にした場合、「結果状態」の性質が弱いことと、②両グループの動詞の数を揃えるためである。

5.3.2.1　調査協力者

本調査の文法テストの調査協力者は、タイのタマサート大学教養学部日本語学科で日本語を専攻している大学生 100 名である。中・上級日本語学習者に絞るために日本語能力試験 N3 を取得した学生に絞った。以下の表 13、表 14、表 15 は、本調査の文法テストの調査協力者の詳細をまとめたものである[47]（各調査協力者の詳細に関しては資料 4 を参照されたい）。

表 13　本調査の文法テストの調査協力者の日本語学習歴の詳細

日本語学習歴（年間）	人数
1～2	17
3～4	44
5～6	29
7 以上	10
合計	100

表 14　本調査の文法テストの調査協力者の在日経験の有無

在日経験	人数
あり	9
なし	91
合計	100

[47] 本調査の調査協力者の中に男性が 1 割位しかおらず、男女差による習得の違いを見るには不適切であると判断したため、本調査では男女差による習得の違いを見ないことにした。

表 15　本調査の文法テストの調査協力者の日本語能力試験のレベル

日本語能力試験のレベル	人数
N1	1
N2	9
N3	90
合計	100

表 13 は、本調査の文法テストの調査協力者の日本語学習歴の詳細を示すものである。表 13 から、調査協力者の日本語学習歴が「3～4 年間（44 名）」と「5～6 年間（29 名）」に集中していることが分かる。本調査の調査協力者は 2 年生から 4 年生であるため、大学で日本語学科に入る前に、高校の時から日本語を学習していることが考えられる。日本語学習歴が「1~2 年間」の調査協力者が 17 名おり、大学に入ってから日本語を学習し始めたと考えられる。日本語学習歴が「7 年間以上」の調査協力者は 10 名おり、中学時代から日本語を学習し始めた調査協力者たちである。

表 14 は、本調査の文法テストの調査協力者の在日経験の有無を示すものである。表 14 から、約 9 割の調査協力者が在日経験がないことが分かる。一方、在日経験がある 1 割の調査協力者のほとんどは、高校時代の日本への 6 ヶ月～1 年間の交換留学であると答えている。

表 15 は、本調査の文法テストの調査協力者の日本語能力試験のレベルを示すものである。表 15 から、9 割の調査協力者は日本語能力試験の N3 を取得していることが分かる。日本語能力試験 N2 を取得している調査協力者は 3 年生に集中している。日本語能力試験 N1 合格者は 1 名しかいなかった。

フォローアップ・インタビューの調査協力者は、文法テストを受けた調査協力者の中から 23 名にお願いして実施した。文法テストを実施した後に、フォローアップ・インタビューに協力してくれる人に連絡先を教えてもらい、1 週間以内に 1 人ずつフォローアップ・インタビューを実施した。1 週間以内にフォローアップ・インタビューを実施する理由は、時間が経てば、調査協力者が文法テストを受けている際の選択理由などを忘れてしまうかもしれないと思ったからである。以下の表 16 は、本調査のフォローアップ・インタビューの

調査協力者の詳細を示したものである。

表 16　本調査のフォローアップ・インタビューの調査協力者の詳細

調査協力者	学年	日本語学習歴	在日経験	日本語能力試験のレベル
1	3	5	なし	N3
2	3	4	なし	N3
3	3	6	なし	N3
4	3	6	なし	N2
5	3	8	なし	N2
6	3	8	なし	N3
7	3	7	1年間	N3
8	3	6	なし	N1
9	3	5	なし	N3
10	3	9	なし	N2
11	3	2	なし	N3
12	4	3	なし	N2
13	3	2	なし	N3
14	3	2.5	なし	N3
15	3	2	なし	N3
16	3	2	なし	N3
17	4	3	なし	N3
18	2	7	なし	N3
19	4	6	なし	N3
20	3	15	なし	N2
21	2	4	なし	N3
22	2	4	なし	N3
23	3	5	なし	N3

5.3.2.2　文法テストとフォローアップ・インタビューの実施状況

文法テストは、タイのバンコクにあるタマサート大学教養学部日本語学科で実施した。1度に 25 人ずつ調査協力者に集まってもらい、テストを 4 回実施した。制限時間を 20 分にした。本調査は、タマサート大学の教員の協力を得て実施されたため、調査協力者が本調査の結果が自分の大学の成績に影響すると考える可能性があった。それで、文法テストを実施する際、調査協力者が安心してテストを受けられるように、すべての調査協力者に「本調査の文法テストは調査協力者の大学の成績に全く影響しない。また、実験結果も個人が特定できないようにする」と伝えた[48]。文法テストを回収した後、フォローアップ・インタビューに協力してくれるかどうかを聞き、協力してくれる人に実施した。フォローアップ・インタビューはすべてタイ語で行った。予備調査の実施時と同様、フォローアップ・インタビューをタイ語で実施した理由は、選択理由や頭の中で考えたことなどを説明するのに調査協力者にとって最も得意な言語であるタイ語を利用するのが最適であると考えたからである。また、ドゥアンケーオ（2013）や許（1997）などの先行研究において述べられているように、「結果状態」の「テイル」の習得においては「タ形との混同」が見られるため、本研究のフォローアップ・インタビューでは「テイル」と「タ」を中心に質問をすることにした。フォローアップ・インタビューの質問は以下の通りである。

- 調査協力者が「テイル」を正しいと判断した場合、①なぜ「テイル」が正しいと判断したのか、②「タ」との違いは何か
- 調査協力者が「タ」を正しいと判断した場合、①なぜ「タ」が正しいと判断したのか、②「テイル」との違いは何か
- 調査協力者が「テイル」と「タ」以外の選択肢が正しいと判断した場合、①なぜその選択肢が正しいと判断したのか、②その選択肢を「テイル」と「タ」と比較してどのように異なるのか

5.3.3　教材分析

タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えているもう一

---

48 実験に参加してもらう被験者に実験の目的や方法について十分な説明を行い、その対象となることを了解してもらうことである「インフォームドコンセント(Informed consent)」の重要さを主張している。実験の説明を聞いた後で、参加を見合わせた場合や、実験の途中で離脱した場合であってさえも、何ら不利益を被らないことも知らせておく必要がある（白畑他 2010）。

つの要因として「教材の影響」が考えられる。そこで、本研究において文法テストの調査協力者が「結果状態」の「テイル」の学習の際に使用したと考えられる教材の分析を行った。本研究で対象とした日本語教材は、『みんなの日本語』と『あきこと友だち』である。この 2 冊の教科書を選択したのは、本調査の調査協力者が初級の段階において「結果状態」の「テイル」を学習する際に使用した可能性のある教科書であるからである[49]。タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える要因を見るための詳細な教材分析は第 7 章で行う。

5.3.4　タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査

前述の通り、5.1 において述べた仮説通り、調査協力者のタイ語の「lɛ́ɛw」の間違った知識が日本語の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える可能性が見られた。つまり、タイ語の「lɛ́ɛw」に関する間違った知識が第二言語である日本語の学習に影響を与えている訳である。しかし、管見の限り、タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する認識を調査した研究は見当たらない。そこで、まずタイ語母語話者がタイ語の「lɛ́ɛw」に対してどのような認識を持っているのかを調査する必要があると考えた。意識調査の結果は、第 7 章の「結果考察」において文法テストとフォローアップ・インタビューの結果を分析する際に用いる。調査の詳細は以下の通りである。

5.3.4.1　調査目的

本意識調査の調査目的は、仮説通り「タイ語母語話者が自分の母語であるにもかかわらず、タイ語の「lɛ́ɛw」を「過去」と理解しているなどという間違った知識を持っているかどうか」を明らかにすることである。

5.3.4.2　調査協力者と調査方法

本意識調査では、20 代のタイ語母語話者 100 名を対象にメールによるアンケート調査を

---

[49] タマサート大学教養学部日本語学科の各学年には、高校などで日本語学習経験を持ち入学試験時に日本語を受験した「既習グループ」と日本語学習経験を持っておらず入学試験時に日本語を受験しなかった「未習グループ」がある。同じ学年でも、既習グループと未習グループの学生が受ける授業が異なる。例えば、未習グループの 1 年生の学生は、普通に 1 年生の授業を受ける。一方、既習グループの 1 年生の学生は、1 年生の授業を受ける必要がなく、2 年生の未習グループの学生と一緒に 2 年生の授業を受ける。「結果状態」の「テイル」の学習については、既習グループは高校や日本語学校などで、未習グループは大学に入って 1 年生の時に学習したと考えられる。

実施した。20 代のタイ語母語話者に絞ったのは、本調査の調査協力者である大学生と同世代だからである。すべての調査協力者はタイ語教師の経験がない、つまり、タイ語について明示的に考える機会が少ないと考えられる。

アンケートの質問は 1 問のみで、助動詞の「lɛ́ɛw」が使われているタイ語の文章を挙げて、「この文章で使われている「lɛ́ɛw」の意味・働きを説明しなさい」と指示を出した。以下の図 5 は本意識調査で実際に使用したタイ語で書かれた調査紙であり、図 6 は実際に使用した調査紙を日本語に翻訳されたものである[50]。

図 5　意識調査の調査紙

กรุณาตอบคำถามนี้โดยใช้ความรู้สึกโดยที่ไม่ต้องคิดอย่างจริงจัง

คำถาม : ภาษาไทยคำว่า "แล้ว" มีความหมาย/หน้าที่อะไรในทางไวยากรณ์

ประโยค : ผมทานข้าวแล้ว

คำตอบ_____

図 6　意識調査の調査紙（日本語訳）

この質問に答えてください。答える際は考え込まずに直感で答えてください。

質問：以下の文の「lɛ́ɛw」は文法的にどのような働きがありますか。

文：phǒm　thaan　khâaw　lɛ́ɛw

僕　　食べる　ご飯　（完了）

回答：_____

一つ注意しなければならないのは、調査協力者が本調査の文法テストを受ける際、タイ

[50] 本意識調査の問題文である「phǒm　thaan　khâaw　lɛ́ɛw」は、「すでにご飯を食べている」という現在の状態を表す。そのため、この文の「lɛ́ɛw」は「完了」しか表さず、「過去」を表すことにはならない。

語の知識を使うことはあるが、通常そのタイ語の知識についてじっくり考えることはないと考えられるということである。すなわち、本調査の文法テストを受けている時、調査協力者は直感でタイ語の知識を使用したと考えられる。そこで、本意識調査の結果が調査協力者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響しているかを正確に把握するためには、本調査のアンケートの指示の中に「考え込まずに直感で答えるように」という注意点を書き加えた。

第 6 章　調査結果

本章では、本調査の①文法テスト、②フォローアップ・インタビュー、③タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査の調査結果を報告する。その結果から導かれる学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況とその要因の分析については第 7 章で述べる。

6.1　文法テストの結果

6.1.1　全体的な結果

第 5 章で述べたように、本調査では、タイのタマサート大学教養学部日本語学科で日本語を専攻している 2～4 年生の日本語学習者 100 人を対象に文法テストを実施した。表 17 は日本語の「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式に基づいて作成された分類を用いて全体的な調査結果を表すものである。文法テストでは、「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」の各グループで動詞を 7 つずつ扱っており、合計 14 点満点のテストとなっている。「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」の欄は、100 名の調査協力者の獲得点数の平均をエクセルによって算出されたものである。「全体」の欄には、各調査協力者の「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」の合計獲得点数の平均を算出した数値を記載している。上の欄の括弧の中は「満点」を表し、下の欄の括弧は「得点率」を表す[51]。本調査の文法テストでは、正しいと思ったものをすべて選ぶように指示したため、「テイル」とともに「ル」、「タ」、「テイタ」を選ぶ調査協力者もいたが、ここでは「テイル」が正しいと判断した人の結果のみを表 17 に反映させることにする。ちなみに、「テイル」が正しいと判断できるだけでは、「結果状態」の「テイル」を習得できていると判断できない。「調査結果」のところでは結果を点数で表しているが、習得できているとはみなさない。調査協力者が「結果状態」の「テイル」を習得できているかどうかに関しては、フォローアップ・インタビューの結果と合わせて第 7 章のところで分析する。

[51] 「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの得点率の算出方法は、（平均点÷満点）×100 である。つまり、(0.96÷7)×100＝13.71%である。「動詞（＋yùu)」のグループの得点率の算出方法も同様に(5.27÷7)×100＝75.28%である。

表 17　文法テストの全体的な結果

グループ	「動詞＋lɛ́ɛw」(7 点)	「動詞(＋yùu)」(7 点)	全体(14 点)
平均点数	0.96(13.71%)	5.27(75.28%)	6.19(44.21%)

表 17 から分かるように、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの平均点数は 0.96 点である一方、「動詞（＋yùu)」のグループの平均点数は 5.23 点であり、大きな差が見られた。両グループの得点率で見ると、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの平均得点率は 13.71%で、「動詞（＋yùu)」のグループの平均得点率は 75.28%であり、はっきり差が分かるであろう。これにより、「結果状態」の「テイル」の「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに関しては、「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難であることが窺える。全体の平均点数は 14 点満点中 6.19 点であり、得点率も半分に満たず、「結果状態」の「テイル」の習得が困難であると言える。

表 18 から、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が「動詞（＋yùu）」のグループより習得が困難である傾向が見られた。この結果が統計的に有意な差があるかどうかを検証するためにエクセルを用いて t 検定を行った。次の表 18 が t 検定の結果を表すものである。

表 18　本調査の文法テストの t 検定による結果

	「動詞＋lɛ́ɛw」	「動詞（＋yùu）」
平均	0.96	5.27
分散	1.695353535	2.542525253
標準偏差	1.30205742398465	1.59452979041636
観測数	100	100
ピアソン相関	0.165806524	
仮説平均との差異	0	
自由度	99	
t	-22.87705775	
P(T<=t) 片側	1.31128E-41	
t 境界値 片側	1.660391156	
P(T<=t) 両側	2.62255E-41	
t 境界値 両側	1.984216952	

t 検定の結果、両グループの正答率の差は有意であることがわかった（$t(99)=-22.87$, $p<.05$）。つまり、「動詞＋lɛ́ɛw」の方が「動詞（＋yùu）」より習得が困難であることが統計的にも支持されたことになる。また、標準偏差が低いことから、点数のばらつきが少なく、本調査の調査協力者のばらつきも少ないことが分かる。

6.1.2　各グループの「テイル」の選択率

本調査では、「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語における分類に従い、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループという 2 つのグループに分けて分析をする。本調査の文法テストの結果をグループごとに分けると以下の通りになる。

図 7　各グループの「テイル」の選択率の比較

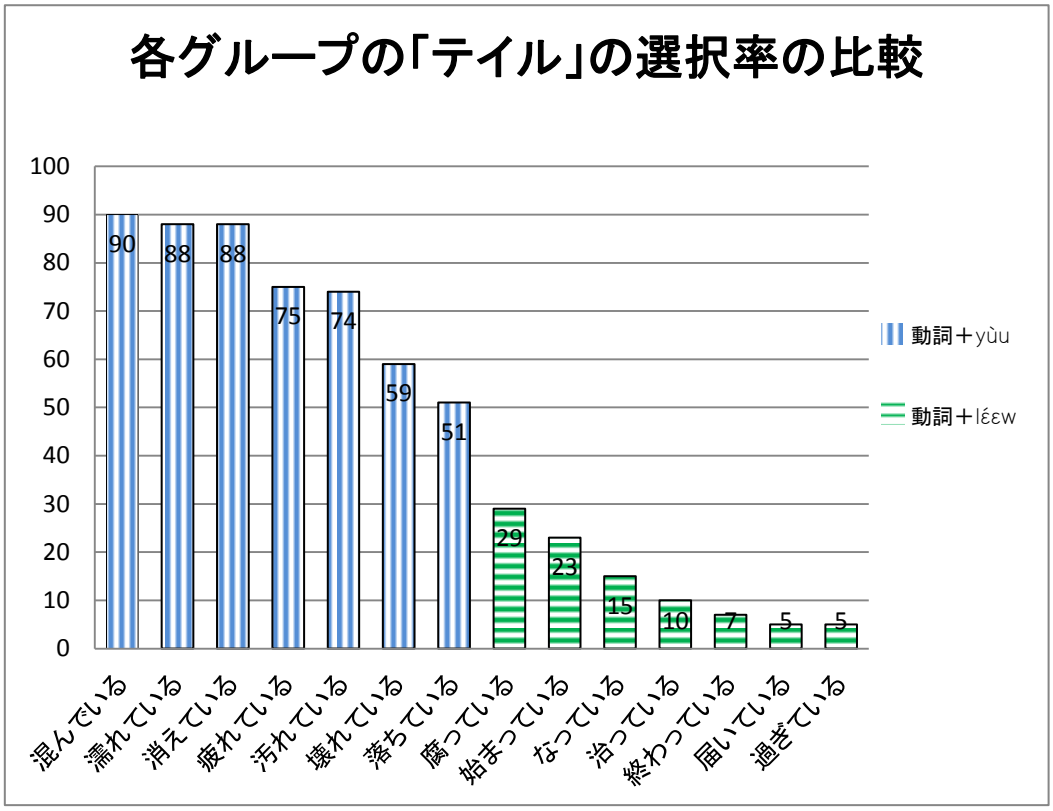


図 7 から、「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」に分けることにより、各グループの「テイル」の選択率が大きく異なっていることが分かる。「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞である「混む」「濡れる」「消える」「疲れる」「汚れる」「壊れる」「落ちる」の「テイル」の選択率はどれも 5 割を超えており、特に「混んでいる」「濡れている」「消えている」は 8

割を超えている。それに対して、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに属する動詞である「腐る」「始まる」「なる」「治る」「終わる」「届く」「過ぎる」の「テイル」の選択率はどれも 3 割に達しておらず、特に「終わっている」「届いている」「過ぎている」は 1 割にも達していない。この結果から、予備調査で得られた結果と同様に、タイ人日本語学習者が「結果状態」の「テイル」を学習する際、「動詞（＋yùu)」のグループより「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が習得が困難であることが分かる。

6.1.3　各動詞の「テイル」の選択率

図 8　各動詞の「テイル」の選択率（%）

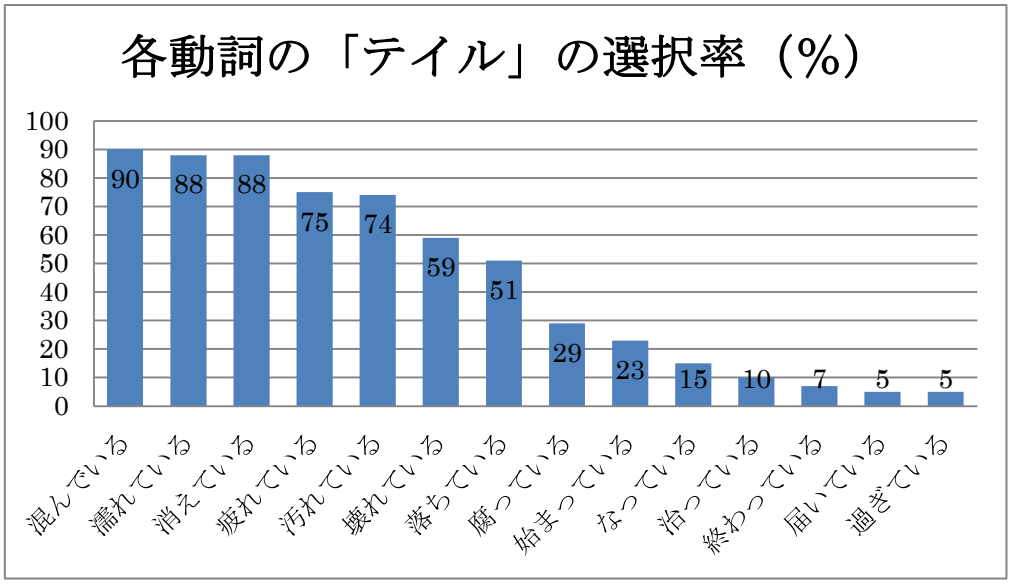


図 8 は、調査協力者 100 人を対象に行った文法テストの結果であり、左から「各動詞の「テイル」の選択率」の高い順を示したものである。図 8 から、日本語では同じ「結果状態」の「テイル」であるにもかかわらず、タイ人日本語学習者による「テイル」の選択率がかなり偏っていることが分かる。「混んでいる」「濡れている」「消えている」のように選択率が 8 割を超えている、つまり、8 割以上の調査協力者が正しく選択できた動詞もあれば、「終わっている」「届いている」「過ぎている」のように選択率が 1 割に満たない、つまり、正しく選択できた調査協力者が 1 割未満の動詞もある。日本語においては同じ「結果状態」の「テイル」で表すのに、なぜ選択率がこんなにも異なっているのだろうか。

6.1.1 では、「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」の 2 グループに分けることによって、タ

イ人日本語学習者にとって「動詞（＋yùu）」のグループより「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が習得が困難であるらしいことが分かった。しかし、大きく 2 グループに分けて見るだけでは、「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにするためには十分とは言えない。

図 8 から分かるように、同じグループの動詞でも各動詞の選択率にばらつきが見られる。例えば、「動詞（＋yùu）」グループに属する「混んでいる」（90%）と「落ちている」（51%）や、「動詞＋lɛ́ɛw」グループに属する「腐っている」（29%）と「過ぎている」（5%）などである。「結果状態」の「テイル」における各動詞の選択率の差に影響を与えている要因に関しては、第 7 章でフォローアップ・インタビューと意識調査の結果を参考にして分析を行う。

6.1.4 「ル」「タ」「テイル」「テイタ」の選択率

本調査の文法テストでは、正しいと思ったものをすべて選ぶよう指示したため、調査協力者が回答をひとつに絞るとは限らず、複数の回答を選ぶこともある。つまり、同じ問題において「タ」と「テイル」両方を選択する調査協力者もいたわけである。調査協力者が「タ」と「テイル」の区別ができているかどうか、「テイル」に関して正しい知識を持っているかどうかは第 7 章で述べる。ここでは、各問題において調査協力者が何を選択しているかについて報告する。以下の表 19 と表 20 は、各グループにおける調査協力者の選択状況を表すものである[52]。

表 19 「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおける調査協力者の選択状況

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
始まる	6	84	23	12	125
届く	0	92	5	11	108
治る	5	81	10	17	113
腐る	9	62	29	18	118
終わる	8	87	7	4	106
なる	7	76	15	21	119
過ぎる	7	89	5	5	106

[52] 前述の通り、本調査の文法テストでは、調査協力者が正しいと思ったものをすべて選んでもらう形式を採用したため、複数の選択をした学習者もいた。その結果、表 18 と表 19 の「合計」の欄に入っている数字が調査協力者数である 100 を超えている。

表 20　「動詞（＋yùu)」のグループにおける調査協力者の選択状況

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
落ちる	4	53	51	21	129
壊れる	2	60	59	8	129
疲れる	9	35	75	4	123
汚れる	6	37	74	15	132
濡れる	3	20	88	11	122
消える	8	16	88	4	116
混む	5	20	90	5	120

表 19 と表 20 から分かるように、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては、6 割以上の調査協力者が正解の「テイル」ではなく「タ」を選択しており、「テイル」を選択した調査協力者が 3 割にも満たないことが分かる。最も多く「テイル」が選択された動詞は順に「腐る（29%)」、「始まる（23%)」、「なる（15%)」であり、最も選択されなかった動詞は順に「届く（5%)」、「過ぎる（5%)」、「終わる（7%)」である。それに対し、「動詞（＋yùu)」のグループにおいては、「落ちる」と「壊れる」を除き、調査協力者の 7 割以上が正答である「テイル」を選択している。また、「タ」を正しいと判断した調査協力者は「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに比べて少ないことが分かった。最も多く「テイル」が選択された動詞は順に「混む（90%)」、「消える（88%)」、「濡れる（88%)」であり、最も選択されなかった動詞は順に「落ちる（51%)」、「壊れる（59%)」、「疲れる（75%)」である。「落ちる」と「壊れる」においては、「ル」と「タ」の選択率がほぼ同じであり、どちらも正しいと判断した調査協力者が多いことが窺える。

以上の本調査の文法テストの結果から、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に関する傾向を以下にまとめる。これはあくまで文法テストの結果に基づいた推測であり、詳細な分析は第 7 章においてフォローアップ・インタビューと意識調査の結果を参考に行う。

①全体的に、タイ人日本語学習者にとって「結果状態」の「テイル」の習得が困難である。

②「結果状態」の「テイル」において、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループは「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難である。

③同じグループの動詞でも「結果状態」の「テイル」における選択率が異なっている。

④「テイル」の選択率と「タ」の選択率が比例している。

6.2　調査協力者から得られたフォローアップ・インタビューの結果

文法テストを実施後、23 人の調査協力者にフォローアップ・インタビューを実施した。ドゥアンケーオ（2013）や許（1995）など先行研究でも述べられているように、学習者が「結果状態」の「テイル」を誤用する際は、「テイル」の代わりに「タ」を選択する傾向が強く見られる。その要因の一つとして「「テイル」と「タ」の使い分けができていない」ことが考えられる。そのため、フォローアップ・インタビューの時には「タ」と「テイル」を中心として質問を行う。フォローアップ・インタビューの質問は以下の通りである。

・調査協力者が「テイル」を正しいと判断した場合、①なぜ「テイル」が正しいと判断したのか、②「タ」との違いは何か

・調査協力者が「タ」を正しいと判断した場合、①なぜ「タ」が正しいと判断したのか。②「テイル」との違いは何か

・調査協力者が「テイル」と「タ」以外の選択肢が正しいと判断した場合、①なぜその選択肢が正しいと判断したのか、②その選択肢を「テイル」と「タ」と比較してどのように異なるのか

本調査の目的は、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにすることである。「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにするために、①文法テスト、②フォローアップ・インタビュー、③意識調査の結果を用いて分析を行う。ここでは、前述の通り、ドゥアンケーオ（2013）に従い「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」という 2 つのグループに分けて記述する。また、「結果状態」の「テイル」の各動詞の習得状況も見るため、さらにグループ内の各動詞に、フォローアップ・インタビューによって得られた調査協力者の「選択理由」を記述する。以下に挙げる「選択理由」は、「多く挙げられた理由」と「その他の理由」に分けて記述する。「多く挙げられた理由」は多くの調査協力に共通して見られ、第 7 章の考察の際に用いるものである。「その他の理由」はフォローア

ップ・インタビューの際に挙げた調査協力者は少ないが、興味深いと筆者が感じたためここに挙げることにしたものである。括弧の中は「フォローアップ・インタビューに協力してもらえた 23 人の調査協力者中、その理由を挙げた者は何名いたか」を示すものである。フォローアップ・インタビューの結果は以下の通りである。

6.2.1 「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞

1)「始まる」

多く挙げられた理由

・「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい（23 人中 13 人）

・「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしており、まだ始まっていない（今から始まる)」という意味である（23 人中 11 人）

その他の理由

・「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「始まる」という出来事が終わっているが、「始まっている」は「状態」であることを強調しており、「始まった」は「「始まる」という出来事が過去に起きた」ということを強調する時に使う（23 人中 3 人）

・「始まっている」は「始まる」という出来事が繰り返して起きる気がする（23 人中 1 人）

・「始まっている」は「始まったばかり」という意味である（23 人中 1 人）

・「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「授業が既に始まっている」という共通点があるが、自分がその場にいる場合は「始まった」が正しく、自分がその場にいない場合は「始まっている」が正しい（23 人中 1 人）

2)「届く」

多く挙げられた理由

・「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから「届いた」が正しい（23 人中 20 人）

・「届いている」は「まだ届いていなく、搬送中」という意味である（23 人中 18 人）

その他の理由

・「届いている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・自分がいない時にカバンが届いたから、「届いている」が正しい。「届いた」は自分がいる時にカバンが届いた場合に使う（23 人中 1 人）

3)「治る」

多く挙げられた理由

・「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である（23 人中 20 人）

・「治る」という出来事が過去に起きたから、「治った」が正しい（23 人中 18 人）

その他の理由

・「治っている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「治る」という動詞自体が「状態」を表すから、「治る」が正しいと思った（23 人中 1 人）

4)「腐る」

多く挙げられた理由

・「腐っている」は「完全に腐っておらず、まだ食べられるところが残っている」という意味である（23 人中 9 人）

・「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい（23 人中 9 人）

・「状態」であるため、「腐っている」が正しい（23 人中 8 人）

その他の理由

・「腐った」は「「腐る」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使い、「腐っている」は「状態」であることを強調したい時に使う（23 人中 2 人）

5)「終わる」

多く挙げられた理由

・「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい（23 人中 23 人）

・「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」という意味である（23 人中 23 人）

その他の理由

・「終わっている」の使い方が分からない（23 人中 5 人）

6)「なる」

多く挙げられた理由

・「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい（23 人中 17 人）

・「なっている」は「まだ氷が残っており溶けている最中」という意味である（23 人中 16 人）

その他の理由

・「なっている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「なる」という動詞は「濡れる」や「汚れる」と異なり「状態」を表さないから「テイル形」にするのはおかしい（23 人中 1 人）

・氷が溶けて水になる過程を目撃していなかったから、「なっている」を使えない（23 人中 1 人）

7)「過ぎる」

多く挙げられた理由

・「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい（23 人中 22 人）

・「過ぎている」は「過ぎている最中（バス停とバスが同じ位置にある）」という意味である（23 人中 19 人）

その他の理由

・「過ぎている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「テイル」は、「状態」を表すため、「過ぎる」は使えない（23 人中 1 人）

以上の「動詞＋lέεw」のグループにおけるフォローアップ・インタビューの結果から、このグループに属するすべての動詞において共通している選択理由は「出来事が過去に起きたから、「タ」が正しい」と「「テイル」だと「進行中」という意味になる」という選択理由である。つまり、本調査の調査協力者が、日本語で「結果状態」と認識される出来事を、「ただの過去の出来事」と認識している傾向があることが窺える。また、このグループの動詞の「テイル形」を「結果状態」ではなく「進行」と認識していることも窺えるだろう。

6.2.2 「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞

1)「落ちる」

多く挙げられた理由

・「落ちている」は「ペンが落ちている最中で、宙に浮いており、まだ床についていない」（23 人中 10 人）

・「状態」であるため、「落ちている」が正しい（23 人中 6 人）

その他の理由

・「落ちた」は「過去にペンが落ちて今どこにあるか分からない」という意味である（23 人中 3 人）

・「落ちた」は「過去にペンが落ちた後に拾って、そのペンは今もう床にない」という意味である（23 人中 2 人）

・「落ちた」は「過去にペンが落ちた」と述べる時に使い、「落ちている」は「状態」を強調したい時に使う（23 人中 2 人）

2)「壊れる」

多く挙げられた理由

・「状態」だから、「壊れている」が正しい（23 人中 12 人）

・「壊れている」の使い方が分からない（23 人中 4 人）

・「壊れた」と「壊れている」の違いが分からない（23 人中 4 人）

・「壊れている」は「壊れかけており、完全に使えないわけではない」という意味である（23 人中 3 人）

その他の理由

・「壊れた」は「過去に壊れて今は修理されている」という意味である（23 人中 2 人）

・「壊れた」は「過去に壊れて今はどうなっているかは言及していない」という意味であある（23 人中 1 人）

3)「疲れる」

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「疲れている」が正しい（23 人中 17 人）

・「疲れた」をよく聞いたり使ったりするから正しいと思った（23 人中 7 人）

その他の理由

・「疲れた」は「過去に疲れていたが、今はもう疲れていないかもしれない」という意味である（23 人中 5 人）

・「疲れた」は自分が主語の時に使う（23 人中 2 人）

・「疲れる」という動詞自体が「状態」を表すため、「テイル形」にするのはおかしい（23 人中 1 人）

4）「汚れる」

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「汚れている」が正しい（23 人中 19 人）

その他の理由

・「汚れた」は「過去に汚れており、今はもうきれいになっている」という意味である（23 人中 6 人）

5）「濡れる」

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「濡れている」が正しい（23 人中 20 人）

その他の理由

・「濡れている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「濡れた」は「過去に濡れていたが今は乾いている」という意味である（23 人中 4 人）

6）「消える」

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「消えている」が正しい（23 人中 18 人）

その他の理由

・「消えている」は「少しずつ消えている」という意味である（23 人中 2 人）

・「消えている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「消えた」は「過去に消えており今は点いているかもしれない」という意味である（23 人中 1 人）

7）「混む」

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「混んでいる」が正しい（23 人中 21 人）

その他の理由

・「混んだ」は「過去にバスが混んでおり、今は混んでいない」という意味である（23 人中 2 人）

・「混んでいる」は「今の状態」を強調しているのに対し、「混んでいた」は「ずっと前から混んでいる」と強調している（23 人中 1 人）

・「混んでいる」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

以上の「動詞（＋yùu)」のグループにおけるフォローアップ・インタビューの結果から、このグループに属するすべての動詞において共通している選択理由は、「「状態」だから「テイル」が正しい」である。このことから、本調査の多くの調査協力者が日本語では「結果状態」と認識すべき場面を正しく「状態」と認識している傾向が見られた。しかし、このグループの動詞の中に「落ちる」と「壊れる」においては、このグループの他の動詞と違い、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループで見られた「「テイル」だと「進行中」という意味になる」という選択理由も見られ、他の動詞と異なる認識の仕方をされていることも窺える。

6.3　タイ語母語話者の「lɛ́ɛw」に対する意識調査の結果

第 5 章で述べた通り、タイ語母語話者が「完了」を表すタイ語の助動詞である「lɛ́ɛw」を「過去」と認識しているかどうかを明らかにするために、20 代のタイ語母語話者 100 名を対象にメールによるアンケート調査を実施した。その結果が以下の通りである。

図 9　タイ語母語話者の「lέεw」に対する意識

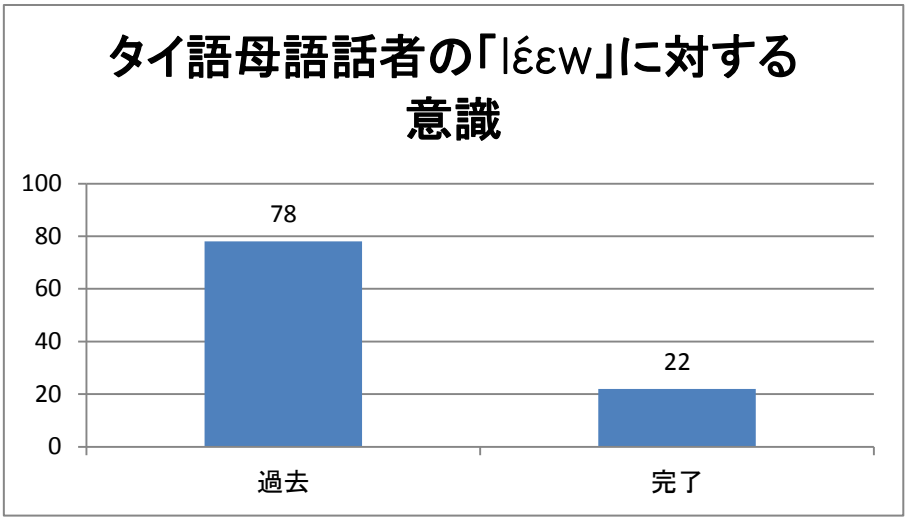


図 9 から分かるように、20 代のタイ語母語話者 100 名を対象にタイ語の「lέεw」に対する意識調査を実施した結果、100 人中 78 人のタイ語母語話者が「lέεw」を「過去」と間違えて捉えているのに対し、100 人中 22 人のタイ語母語話者が「lέεw」を正しく「完了」と捉えていることが分かる。つまり、この意識調査において、約 8 割の 20 代タイ語母語話者が「lέεw」に対して間違った認識を持っていることが分かった。本意識調査の結果を、本調査の第 7 章の「結果考察」で分析し、その分析を文法テストとフォローアップ・インタビューの結果を分析する際に用いる。

第 7 章　結果考察

この章では、主に文法テストとフォローアップ・インタビューの結果を用いて考察する。まず、研究目的を確認しておく。

1）中・上級タイ人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得の要因を探る。また、それらの要因がどのように「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えているかを探る。

2）「結果状態」の「テイル」における各動詞の正答率が異なる場合、その要因を探る。

この研究の目的は、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得を明らかにすることである。しかし、習得に影響を与える要因は様々あり、本研究の調査だけではすべての要因を見ることは不可能である。そのため、結果の考察に入る前に、本研究の各要因との関わりに触れながら迫田（2002）がまとめている第二言語習得に関わる要因を説明しておきたい。その説明とともに、本研究においてどの要因に着目しているかも加えて説明していく。迫田は、第二言語習得に関わる要因を以下のようにまとめている。

①中間言語の変異性
②第二言語習得にかかわる知識と能力
③言語転移
④外国語習得と第二言語習得
⑤学習環境の違い
⑥学習者の様々なストラテジー

①「中間言語の変異性」の「変異性」とは、ある時点で同じ事象を表すのに様々な語や形式が使用されて変化を見せることである。学習者の言語使用には変異があり、中でも人の注意の度合いや与えられたタスクや状況によって学習者の言語使用も変わってくるのである。実際の会話においては、学習者の緊張などの要因によって、文法形式に注意を向けられないといった問題が生ずることが考えられる。つまり、実際の会話においては、使用する文法項目についてゆっくり考える時間の余裕が比較的少ないため、学習者自身が使用する文法項目の正しい知識を持っていても、その時の心境などの影響を受けて誤用してし

まうことが考えられる。よって、これまでの多くの先行研究で使用されている会話データの分析では、学習者が「結果状態」の「テイル」の正しい知識を持っているかどうかを見るには不適切であると考えられる。そこで、本調査では、緊張感などの心理的要因が低い（迫田 2002）とされている文法テストを用い、タイ人日本語学習者が持っている「結果状態」の「テイル」に関する知識を明らかにしようとしている。

②ペーパーテストでは正しく答えられるのに、実際に話すことができない、つまり、ルールは知っているのに、実際に使えないという場合であり、「言語知識はあるが言語運用に結びついていない」という経験は外国語学習経験がある人であれば誰もが持っているだろう。第二言語習得にかかわる言語と知識のひとつの分け方として「明示的知識」と「暗示的知識」がある。明示的知識は授業や教科書などで学習し、明確にルールが説明できる知識（言語知識）であるのに対し、暗示的知識は明確にルールが説明できないが母語のように直感で判断できる知識（言語運用）である。多くの先行研究において使用されている会話データを見ることによって言語運用を把握することができるが、本研究では学習者の言語知識を明らかにすることを目的としている。文法テストを用いることによって言語運用をある程度把握することはできるが、文法テストだけでは言語知識を把握することはできない。そのため、本研究ではフォローアップ・インタビューを用いて学習者が「結果状態」の「テイル」に関してどのように理解しているかを見ることによって、ある程度言語能力を把握できると考えられる。

③「言語転移」とは、学習者の母語（または既習の言語）が第二言語（または次の言語）を習得する場合に何らかの影響を与えることである（迫田 2002）。本研究では、調査協力者の母語であるタイ語の「lɛ́ɛw」と「yùu」などがどのように「テイル」の習得に影響を与えているのかという「母語の影響」に注目する。特に、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」における誤用の要因の一つであると考えられる「lɛ́ɛw」に対するタイ語母語話者の意識調査の結果も分析の際に参考にして考察を進めたい。

④「外国語習得と第二言語習得[53]」とは、学習者が目標言語が使用される環境に住んでいるか、それとも、目標言語が使用されないところに住んでいるかによって習得の状況が異

[53] ここでは、「外国語習得」を「目標言語が使用されない国や地域でその言語を学習する」とし、「第二言語習得」を「目標言語が使用される国や地域でその言語を学習する」とする。

なることである。本研究の予備調査では、タイに住むタイ人日本語学習者（JFL 環境下）と日本に住むタイ人日本語学習者（JSL 環境下）両方を対象にしたが、大差が見られなかった（第 4 章の 4.4 を参照されたい）ため、本調査ではタイに住む日本語学習者のみを対象とし、「外国語学習と第二言語学習の違い」による影響は見ないことにする。

⑤「学習環境の違い」とは、意識的に日本語の授業を受けて日本語を学習するのか、生活の中で無意識に日本語を習得するのかによって習得の質が異なることである。本研究の調査協力者は、タイの大学で日本語を学習しており、前者のグループに属する。迫田(2002)は、教室環境の効果として「誤用訂正」と「意識化と気付き」を挙げている。学習者が誤用を起こした時に教師がその誤用を訂正し、その誤用を学習者に気付かせて意識化を促すことが習得につながるという文法などの正確さの向上に対する教師の役割を支持しているが、本研究の調査対象者は、同じ教師に教わっておらず「結果状態」の「テイル」においてはそれぞれ異なる教わり方[54]をしており、調査協力者全体の習得に影響を与える要因を明らかにすることが非常に難しいと考えられるため、本研究では、教師による「インストラクションの影響」を考察の対象としないことにする。その代わり、(全員が同じではないが)「結果状態」の「テイル」の導入の際に使用されていた教科書を分析し、「教科書におけるインプットの影響」に注目する。

⑥「学習者のストラテジー」に関しては、迫田（2002）では、(1) コミュニケーションストラテジー[55]、(2) 学習ストラテジー、(3) 言語処理のストラテジー、に分類されている。「学習ストラテジー」と「言語処理のストラテジー」に関して、オックスフォード(1994)の分類[56]もあるが、本稿では迫田の分類に従う。迫田は、オックスフォードの学習ストラテジーは教師が教えることができ、かなり意識的でかつ具体的な行動で学習者が自律的に学習力向上を目指して行う方法であると指摘し、意識的・無意識的に関わらず学習者が目標

---

54 調査協力者の中に、①既習グループ（大学に入る前に高校などで「結果状態」の「テイル」を学習した人）と②未習グループ（大学に入ってから「結果状態」の「テイル」を学習した人）がいるため、それぞれの調査協力者がどのように「結果状態」の「テイル」を教わったのかを把握することは極めて困難である。

55 「コミュニケーションストラテジー」とは、学習者が、自分の知識や能力が足りなかったり、言葉や表現が思い出せなくてコミュニケーションに支障をきたしたりした場合にとる、言語行動や態度のことである（迫田 2002）。

56 オックスフォード（1994）では学習ストラテジーの定義について次のように説明している。①学習ストラテジーとは、学習をより易しく、より早く、より楽しく、より自主的に、より効果的に、そして新しい状況に素早く対処するために学習者がとる具体的な行動である。

言語を覚えたり使ったりする際にどのように言語処理をするかという方法のことを「言語処理のストラテジー」と呼んでいる。本稿では、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」に関する知識を明らかにすることを目的にしているため、「学習者のストラテジー」にまつわる諸問題に関しては今後の課題としたい。

以上のことから、第二言語習得に関わる要因が様々あることを述べた。6 つの要因の中から、本研究の結果考察の際、「言語転移」「教科書におけるインプットの影響」に注目して考察をする。考察の流れとして、以下、①各グループの考察（「動詞＋lέεw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループ)、②各動詞の考察、③教材分析、という順番で考察を行う。主に文法テストとフォローアップ・インタビューの結果を用いて考察する。タイ語母語話者の「lέεw」に対する意識調査の結果は、「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞を考察する際に用いる。

7.1　各グループの考察

まず、「動詞＋lέεw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループに分けて考察をする。第 6 章で述べたように、文法テストの結果から、各グループの「テイル」の選択率が大きく異なっていることが分かった。「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞である「混む」「濡れる」「消える」「疲れる」「汚れる」「壊れる」「落ちる」の「テイル」の選択率はどちらも 5 割を超えており、特に「混んでいる」「濡れている」「消えている」の選択率は 8 割を超えている。それに対して、「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞である「腐る」「始まる」「なる」「治る」「終わる」「届く」「過ぎる」の「テイル」の選択率はどちらも 3 割に達しておらず、特に「終わっている」「届いている」「過ぎている」の選択率は 1 割にも達していない。この結果から、予備調査の結果と同様に、タイ人日本語学習者において、「結果状態」の「テイル」に関しては「動詞（＋yùu)」のグループより「動詞＋lέεw」のグループの方が習得が困難であると考えられる。この 2 つのグループの習得難易度の差は何に起因しているのだろうか。まず、各グループの各動詞に共通している調査協力者の選択理由を基に考察する。

7.1.1　「動詞＋lέεw」のグループ

「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞は「腐る」「始まる」「なる」「治る」「終わる」「届

く」「過ぎる」である。6.1.2 で前述した通り、このグループに属する動詞の「テイル」の選択率はどれも 3 割に達しておらず、特に「終わる」「届く」「過ぎる」は 1 割にも達していない。「動詞＋yùu」のグループに比べて習得が困難であると考えられる。なぜこのような結果になったのか、フォローアップ・インタビューの結果を参考にしながら考察する。このグループにおいて最も挙げられた選択理由と「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおける調査協力者の選択を以下に再掲する。

1）その出来事が過去に起きたから、「タ」が正しい→誤り
（例：「届く」: 23 人中 20 人、「治る」: 23 人中 18 人、「過ぎる」: 23 人中 22 人）
2）「テイル」だと「進行」を表すから、「タ」が正しい→誤り
（例：「届く」: 23 人中 18 人、「治る」23 人中 20 人、「過ぎる」: 23 人中 19 人）

表 21　「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおける各選択肢を選択した調査協力者の人数

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
始まる	6	84	23	12	125
届く	0	92	5	11	108
治る	5	81	10	17	113
腐る	9	62	29	18	118
終わる	8	87	7	4	106
なる	7	76	15	21	119
過ぎる	7	89	5	5	106

（N＝100：複数回答有り）

表 21 から、このグループにおいては、6 割以上の調査協力者が正答の「テイル」ではなく「タ」を選択していることが分かった。特に、「始まる」「届く」「終わる」「過ぎる」における「タ」の選択率は約 9 割になっている。フォローアップ・インタビューにおける「なぜ「タ」を選択したのか」という質問に対する調査協力者の最も多い選択理由は「その出来事が過去に起きたから、「タ」が正しい」である。例えば、「届いた」の選択理由として「「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい」のように答えた調査協力者が 23 人中 20 人もいた。つまり、日本語においては出来事を「現在の状

態」として捉えるのに対し、タイ人日本語学習者は同じ出来事を「現在の状態」ではなく「過去に起きた出来事」と捉えていることが窺える。なぜタイ人日本語学習者がこのような捉え方をするのだろうか。一つ考えられるのは母語であるタイ語の影響である。このグループの「結果状態」の「テイル」にはタイ語の「lέεw」が対応する。宮本他（2014）では「lέεw」は「完了」を表すと述べているが、タイ語母語話者の中に「完了」ではなく「過去」と認識している人が多いことが考えられる。タイ語母語話者の中にこのように「lέεw」に関して間違って認識している人が多いことを確かめるために、本調査においては「タイ語母語話者の「lέεw」に対する意識調査」を実施した。その結果、第 6 章で述べた通り、100 人中 78 人のタイ語母語話者が「lέεw」を「過去」と捉えており、タイ語の「lέεw」に関して間違った知識を持っているタイ語母語話者が少なくないことが分かった。そのため、「電車が（降りたかった駅を）過ぎている」などのように日本語では「結果状態」の「テイル」が使用される場面に遭遇する際、タイ人はタイ語からの概念に影響され「現在の状態」ではなく「過去」と（間違えて）捉えて「タ」を使用してしまうことが考えられる。

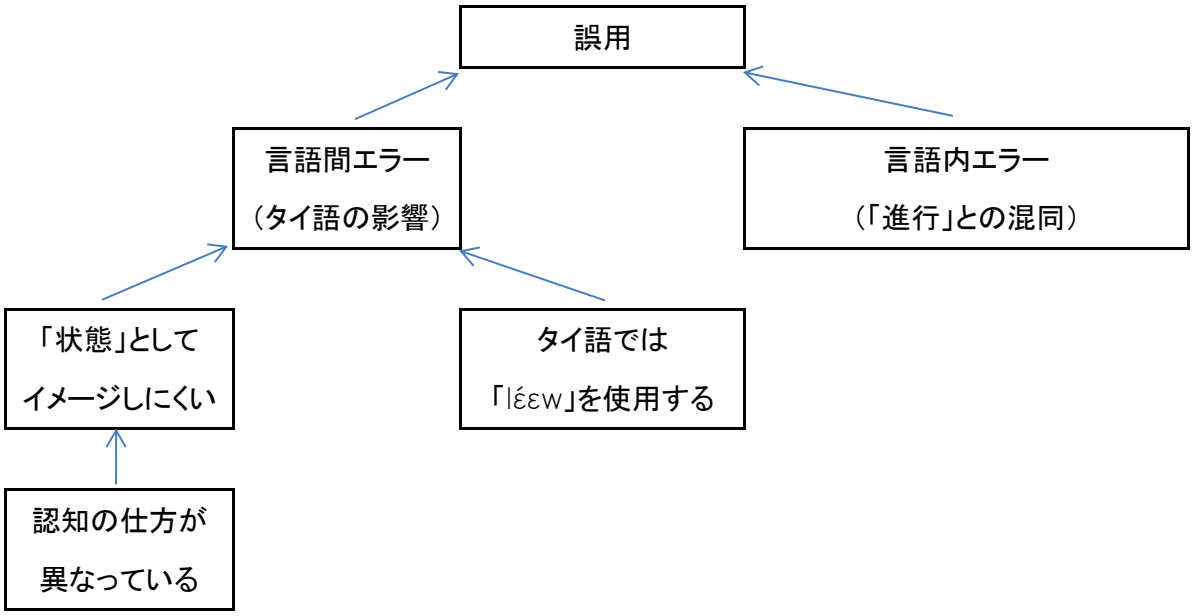
また、フォローアップ・インタビューを実施した後に、「結果状態」の「テイル」の概念である「過去に出来事が起きて、その出来事の結果が「状態」として現在まで続いている」という説明をしたところ、「なぜ「状態」と捉えられるのかが分からない」とほとんどの調査協力者が述べている。つまり、日本語では「状態」として捉えるにもかかわらず、タイ語では本調査の文法テストで扱った場面を「状態」として捉えないため、タイ語を母語とする本調査の調査協力者にとってはこれらの場面を「状態」として捉えるのが非常に難しいと考えられる。このように、日本語母語話者とタイ語母語話者の捉え方の違いが「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えていることが考えられる。

それに、「「テイル」だとどういう意味になるのか」という質問に対する調査協力者の最も多い選択理由は「その出来事の最中」である。例えば、「「治っている」は「まだ傷が治っておらず、治りかけている。つまり、魔法を使って治すみたいに傷が塞がろうとしている。」と答えた調査協力者が 23 人中 20 人もいた (6.2.1 を参照されたい)。フォローアップ・インタビューを通して、本調査の調査協力者にとってこのグループの動詞の「テイル形」は「結果状態」より「進行」との結びつきの方が強いことが分かった。ドゥアンケーオ（2013）において既に「「進行」との混同」が見られていた[57]が。本調査においてもドゥアンケーオ（2013）と同じ傾向が見られ、タイ人日本語学習者における「「進行」との混同」が存在す

[57] ドゥアンケーオ（2013）では「「進行」との混同」を「「動作の持続」との混同」と呼んでいる。

ることを再確認できたと言えるだろう。これらの要因がタイ人日本語学習者が「結果状態」の「テイル」を初級の段階で学習するにもかかわらず、中・上級に入ってもなかなか習得できない主な原因であると考えられる。以下の図 10 は「動詞＋lɛ́ɛw」に属するグループがなぜタイ人日本語学習者にとって習得が困難なのかをまとめたものである。以下の図 10 では、誤用の要因を①タイ語の影響を受けた誤用（言語間エラー）と②日本語の中で起きた誤用（言語内エラー）に分ける[58]。

図 10「動詞＋lɛ́ɛw」のグループがなぜタイ人日本語学習者にとって習得が困難なのか



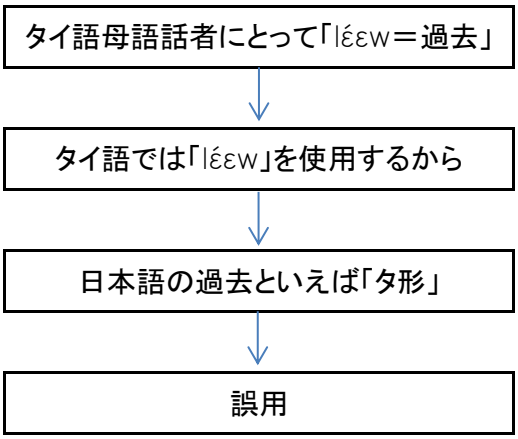
フォローアップ・インタビューにおいて「その出来事が過去に起きたから、「タ」が正しい」という回答が多く見られたことから、母語であるタイ語の影響が最も大きいと考えられる。そこで、「lɛ́ɛw」に関する間違った知識について詳しく説明を加えたい（下記の図 11 を参照されたい）。

まず、前述の通り、タイ語の助動詞の「lɛ́ɛw」は「完了」を表すが、多くのタイ語母語話者は「完了」ではなく「過去」と認識している。このような認識を持ったまま日本語を学習し、「結果状態」の「テイル」を使う場面に遭遇した際、タイ語の知識や認識の仕方を適用しようとするケースが多く見られる。「映画の途中で寝落ちして、起きた時にはもう映画

[58] Richards（1971）では、誤用の分類方法の一つとして、「言語間エラー」と「言語内エラー」という分類が挙げられている。言語と言語の間に問題があって生じる誤用、つまり母語の影響によって起きる誤用を「言語間エラー」といい、学習している言語の中で活用を間違えるなどの誤用を言語内エラーという。

が終わっている」など「結果状態」の場面においては、日本語母語話者はその場面を「状態」として捉えるが、タイ語母語話者は（タイ語で正しいのは「完了」であるが）それを「過去」として捉えてしまう。そして、初級の段階で教わった「タ形＝過去」という概念を適用して誤用をしてしまうことになるのである。学習者が第二言語を学習する際には、第一言語の知識や概念を利用することによって習得につながる「正の転移」も起これば、逆に第一言語の知識や概念を利用することによって誤用につながる「負の転移」も起こりうる。本調査の結果から見て、タイ人の日本語教師が「結果状態」の「テイル」を導入する際、日本語の「結果状態」の「テイル」の概念を教えるだけではなく、タイ語の「lέεw」と比較しながら導入した方が理解が深まり効果的であると考えられるのではないだろうか。このことに関しては第 8 章で詳しく述べる。

図 11　「lέεw」による誤用の要因



本研究の文法テストとフォローアップ・インタビューの結果から見られなかったが、「動詞＋lέεw」のグループの習得が困難である「lέεw」の間違った知識の原因に「タイ語教育の問題」が挙げられる。意識調査の結果ではタイ語母語話者は「lέεw」の間違った知識を持っていることが分かったが、問題の根底はタイ語教育にあるのではないかと考えられる。前述した通り、現在のタイ語教育では「lέεw」のことは「完了」と説明されているが、Phongpaibun（1963）や Kasemsin（1976）など 60～70 年代のタイ語母語話者向けのタイ語教科書では「lέεw」のことは「過去」と記されている教科書が多いことが分かった。現在のタイ語の文法の本や教科書にある「lέεw」の説明が「過去」から「完了」に修正されているが、タイ語教師などタイ語の文法を勉強する者でない限り、このような本や教科書を

読むことはないと考えられる。

文法テストとフォローアップ・インタビューによって見られた、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの習得に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「lɛ́ɛw＝過去」という間違ったタイ語の知識

②「状態」としてのイメージのしにくさ

③「進行」との混同

7.1.2 「動詞（＋yùu)」のグループ

「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞は「混む」「濡れる」「消える」「疲れる」「汚れる」「壊れる」「落ちる」である。6.1.2 で前述した通り、このグループに属する動詞の「結果状態」の「テイル」の選択率はどれも 5 割を超えており、特に「混んでいる」「濡れている」「消えている」は 8 割を超えている。なぜこのような結果になったのか、フォローアップ・インタビューの結果を参考にしながら考察する。このグループにおいて最も挙げられた選択理由と「動詞（＋yùu)」のグループにおける調査協力者の選択を以下に再掲する。

1)「状態」だから「テイル」が正しい→正しい

（例：「汚れる」：23 人中 19 人、「消える」：23 人中 18 人、「混む」：23 人中 21 人）

2)「タ」だと、その出来事が過去に起きて、今はその状態ではなくなったか、今のことは言及していない→誤り

（例：「疲れる」：23 人中 5 人、「汚れる」：23 人中 6 人、「乾く」：23 人中 4 人）

表 22 「動詞（＋yùu)」のグループにおける各選択肢を選択した調査協力者の人数

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
落ちる	4	53	51	21	129
壊れる	2	60	59	8	129
疲れる	9	35	75	4	123
汚れる	6	37	74	15	132
濡れる	3	20	88	11	122

消える	8	16	88	4	116
混む	5	20	90	5	120

（N＝100：複数回答有り）

表 22 から、このグループにおいては、「落ちる」と「壊れる」を除き調査協力者の回答が正答である「テイル」に集中していることが分かる。特に「濡れる」「消える」「混む」における「テイル」の選択率が約 9 割である（「濡れている」88%、「消えている」88%、「混んでいる」90%）。このグループの「タ」の選択率は、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループに比べて低い（「落ちる」と「壊れる」を除いて）。フォローアップ・インタビューにおける「なぜ「テイル」を選択したのか」という質問に対する調査協力者の最も多い回答は「「状態」だから」である（「落ちる」と「壊れる」を除いて）。フォローアップ・インタビューによる調査協力者の回答から分かるように、このグループの動詞の「テイル形」は「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの動詞に比べて調査協力者が「状態」として捉えやすいことが分かった。つまり、タイ語においても日本語においても「状態」として捉えられることが、タイ人日本語学習者が「動詞（＋yùu）」のグループに属する動詞のテイル形を学習する際、習得が容易である理由の一つであると言える。

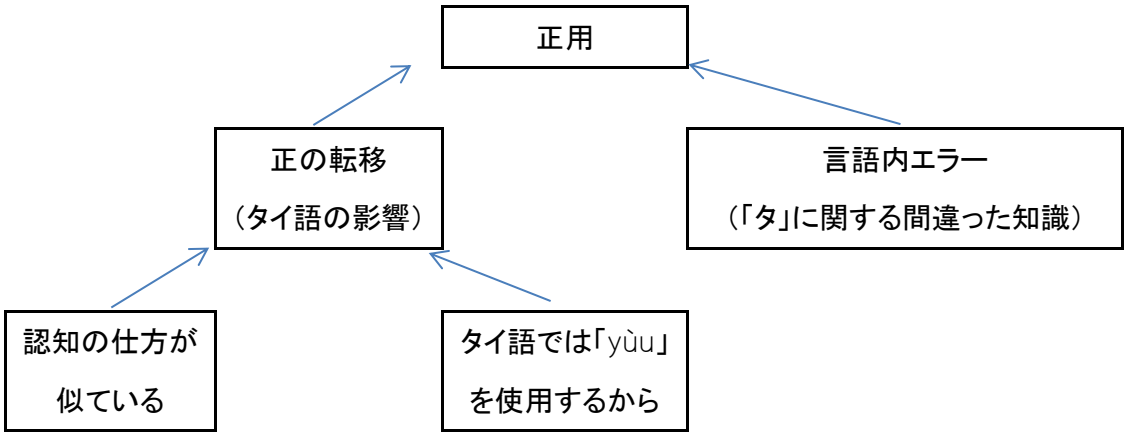
次に、「テイル」と「タ」を区別できているかどうかを見るために、「「タ」はどういう意味で、どのような時に使うか」と質問したところ、最も多い回答は「その出来事が過去に起きて、今はその状態ではなくなったか、今のことは言及していない」である。例えば、「「疲れた」は「過去に疲れており、今はもう疲れていないかもしれない」」と 23 人中 5 人の調査協力者が答えている。「「濡れている」は「過去に濡れていたが、今は乾いている」」と 23 人中 4 人の調査協力者が答えている[59]。フォローアップ・インタビューの際の筆者の「「タ」はどういう意味で、どのような時に使うのか」という質問に対して正しく答えられた調査協力者はほとんどいなかった。つまり、一部の調査協力者にとっては、「タ」が現在と切り離して過去のことを述べる時に使用すると理解されているため、「今の状態」を表すのに不適切であると考え、「タ」を選択せず「テイル」を選択することになるわけである。

[59] フォローアップ・インタビューの際に「「テイタ」はどういう意味で、どんな時に使うか」も調査協力に質問したが、ほとんどの調査協力者が説明できなかった。このことから、タイ人日本語学習者にとって「結果状態」の「テイル」と同じように、「テイタ」の習得も困難である傾向が見られたが、本研究ではこれまでの先行研究において多く問題視されてきた「「テイル」と「タ」の区別」に焦点を当てたいため、深く扱わず、今後の課題にしたい。

「タ」の間違った知識で「テイル」の選択率が上がったと述べたが、ほとんどの調査協力者が「テイル」に関して正しく「状態」と答えられていることから、「テイル」に関しては調査協力者が正しく理解できていることになるが、「タ」に関しては間違った知識を持っていることが分かった。しかし、本研究では「「テイル」に関して正しい知識を持っているかどうか」に注目しているため、「タ」の問題の詳細に関しては今後の課題にしたい。

さらに、フォローアップ・インタビューの際、「「状態」であるから」という理由を述べる時に、「存在」を表す時に使うタイ語の「yùu」（日本語の「いる」と同じ意味）を使う調査協力者が多かったことから、調査協力者がタイ語の知識を活かして答えている、つまり「正の転移」が見られたと言えるだろう。以下の図 12 は「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞がなぜタイ人日本語学習者にとって習得が容易なのかを説明しようとするものである。

図 12「動詞（＋yùu)」のグループがなぜタイ人日本語学習者にとって習得が容易なのか



7.1 の考察から、本調査の調査協力者の各グループの「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える要因を以下にまとめる。

「動詞＋lɛ́ɛw」	「動詞（＋yùu)」
「状態」としての捉えにくさ 「lɛ́ɛw＝過去」という 間違った知識 「進行」との混同	「状態」としての捉えやすさ 「yùu」の「正の転移」 「タ」に関する間違った知識

7.2　各動詞の考察

7.1 では「結果状態」の「テイル」をグループごとに分けて、タイ人日本語学習者の習得傾向を考察した。各グループの全体的な習得状況の傾向はある程度見られたが、各グループ内の動詞であっても選択率が異なっているという結果になっている。阿(2009)や陳(2014)も「同じタイプ（種類）の動詞でも「テイル」における習得状況が異なっている」と述べており、各動詞の習得についての分析の必要性を主張している。そこで、「結果状態」の「テイル」における各グループの各動詞の習得状況を考察する必要があると考えた。ここでは、各グループの動詞を選択率の低い順から高い順に並べて考察する。また、今までの考察では、正答である「テイル」の選択率のみを見てきたが、ここではそれに加えて「テイル」の習得に関わる「タ」も考慮に入れて考察する。

7.2.1　「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞

7.2.1.1　「過ぎる」

19.（ポンとアンが家に向かう電車に乗っている。二人が会話に夢中で乗りすぎた）

ポン：サイアムに着いた？

アン：あ！！！もうシーロムだよ！

ポン：　あ！もう_____じゃないかー。サイアムで降(お)りないとだめなのに。

【1. 過(す)ぎる　　2. 過(す)ぎた　　3. 過(す)ぎている　　4. 過(す)ぎていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
過ぎる	7	89	5	5	106

「過ぎる」は（「届く」も含めて）全 14 の動詞の中で最も「テイル」の使用率が低い動詞で、100 人中 5 人しかいない。つまり、本調査の中で最も調査協力者が正しく選択できなかった動詞である。「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 7 人、「タ」が 100 人中 89 人、「テイタ」が 100 人中 5 人であり、ほとんどの調査協力者の選択が正答の「テイル」ではなく「タ」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによって得られた結果を参照する。6.2.1 にも一度載せたが、フォローアップ・インタビューによる「過ぎる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい（23 人中 22 人）

・「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味である（23 人中 19 人）

その他の理由

・「過ぎている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「テイル」は、「状態」を表すため、「過ぎる」は使えない（23 人中 1 人）

この問題は、「サイアム駅で降りるべきだったのに、会話に夢中になって気付いた時にはサイアム駅を通り過ぎてシーロム駅にいる」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果を見ると、100 人中 89 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した最も多かった理由は「「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい」というものである（23 人中 22 人）。つまり、日本語では「話している間に電車が降りるべきサイアム駅を通り過ぎて 2 駅先にあるシーロム駅にいる「状態」」として捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「電車がサイアム駅を過ぎる」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。

その次に多かった理由が「「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味である」（23 人中 19 人）であることから、「「進行」との混同」も要因のひとつであることが分かるだろう。要するに、タイ語母語話者が「過ぎている」を習得できない要因として「「状態」として捉えにくい」、「タイ語母語話者が過去しか見ず現在に結びつかない」、「「進行」との混同」ということが考えられる。「過ぎる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①現在に結びつかないただの過去という捉え方

②「進行」との混同

③「状態」として捉えにくい

7.2.1.2 「届く」

5. （太郎が大学から家に帰ってきた）
太郎：は～、今日は疲れたー。
（部屋の中を見て）あ！この間注文したカバンが_____！
【1. 届く　2. 届いた　3. 届いている　4. 届いていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
届く	0	92	5	11	108

「届く」は「過ぎる」と同じように、本調査の 14 語の動詞の中で最も「テイル」の選択率が低い動詞であり、100 人中 5 人しかいなかった。「テイル」以外の調査協力者の選択は、「ル」が 100 人中 0 人、「タ」が 100 人中 92 人、「テイタ」が 100 人中 11 人であり、「過ぎる」と同じように、ほとんどの調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく「タ」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「届く」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから「届いた」が正しい（23 人中 20 人）
・「届いている」は「まだ届いておらず、搬送中」という意味である（23 人中 18 人）

その他の理由

・「届いている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）
・カバンが自分がいない時に届いたから、「届いている」が正しい。「届いた」は自分がいる時にカバンが届いた場合に使う（23 人中 1 人）

この問題は、「家に帰ったら、自分の部屋の中に注文したカバンが置いてある」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 92 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者が「タ」を選択した最も多かった理由は、「「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから「届いた」が正しい」という理由である（23 人中 20 人）。つまり、「届く」においても「過ぎる」と同様に、日本語では「カバンが過去に届いて今そのカバンが部屋に置いてある「状態」として捉えるが、タイ語母語話者の調査協

力者の認識は「「カバンが届く」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。

その次に多かった理由が「「届いている」は「まだ届いておらず、搬送中」という意味である」（23 人中 18 人）であることから、「「進行」との混同」も要因のひとつであることが分かるだろう。要するに、「届いている」が習得できない要因としては「「状態」として捉えにくい」、「タイ語母語話者が過去しか見ず現在に結びつかない」、「「進行」との混同」ということが考えられるだろう。「届く」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①現在に結びつかないただの過去という捉え方
②「進行」との混同
③「状態」として捉えにくい

7.2.1.3 「終わる」

15. （チャイとインが映画館に映画を見に来ている）
チャイ：あ！いけない！昨日寝不足だったから、寝ちゃった！
（スクリーンを見て）あれ？映画が_____じゃないかー。
イン：うん、そうだよ。映画すごく面白かったよー。
チャイ：エンディング見たかった～。
【1. 終わる　2. 終わった　3. 終わっている　4. 終わっていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
終わる	8	87	7	4	106

「終わる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 7 人であり、正しく「テイル」を選択できた調査協力者が 1 割にも満たないことが分かる。「テイル」以外の調査協力者の選択は、「ル」が 100 人中 8 人、「タ」が 100 人中 87 人、「テイタ」が 100 人中 4 人である。つまり、この動詞においても、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく「タ」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「終わる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい（23 人中 23 人）

・「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」という意味である（23 人中 23 人）

その他の理由

・「終わっている」の使い方が分からない（23 人中 5 人）

この問題は、「映画を見ている時に寝てしまい、起きた時は映画がすでに終わっている」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 87 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した最も多かった理由は「「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい」という理由である（23 人中 23 人）。つまり、日本語では「映画が過去に終わって、今映画が終わっている「状態」（映画館の明かりが点いて観客が帰り始めたなど）として捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「映画が終わる」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。

その次に多かった理由が「「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」、「終わろうとしている」という意味である」（23 人中 23 人）であることから、「「進行」との混同」も要因のひとつであることが分かるだろう。要するに、「終わっている」が習得できない理由として「「状態」として捉えにくい」、「タイ語母語話者が過去しか見ず現在に結びつかない」、「「進行」との混同」ということが考えられる。「終わる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①現在に結びつかないただの過去という捉え方

②「進行」との混同

③「状態」として捉えにくい

7.2.1.4 「治る」

8. ミント：ノンさん、先週転(ころ)んで怪我(けが)したと聞いたよ。怪我(けが)はどうなった？
ノン：うん、傷(きず)は結構深(けっこうふか)かったけど、もう大丈夫だよ。ほら、見て！
ミント：おー。本当だー。傷(きず)が_____！よかったねー！
【1. 治(なお)る　2. 治(なお)った　3. 治(なお)っている　4. 治(なお)っていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
治る	5	81	10	17	113

「治る」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 17 人である。「テイル」以外の調査協力者の選択は、「ル」が 100 人中 5 人、「タ」が 100 人中 81 人、「テイタ」が 100 人中 17 人であり、この動詞においても、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく「タ」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「治る」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である（23 人中 20 人）
・「治る」という出来事が過去に起きたから、「治った」が正しい（23 人中 18 人）

その他の理由

・「治っている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）
・「治る」という動詞自体が「状態」を表すから、「治る」が正しいと思った（23 人中 1 人）

この問題は、「過去にできた怪我が治ってもう塞がっている」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 81 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した最も多かった理由は「「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」」という意味で（23 人中 20 人）、「「進行」との混同」が見られた。

その次に多かった理由が「「治る」という出来事が過去に起きたから、「治った」が正し

い」（23 人中 18 人）である。つまり、日本語では「怪我が治って今はもう傷がない状態」として捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「傷が治る」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。要するに、「治っている」が習得できない要因として「「進行」との混同」、「「状態」として捉えにくい」、「タイ語母語話者が過去しか見ず現在に結びつかない」ということが考えられるだろう。「治る」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「進行」との混同
②現在に結びつかないただの過去という捉え方
③「状態」として捉えにくい

7.2.1.5 「なる」

17. チャイ：今日暑いねー。かき氷食べたいなー。
イン：それいいねー。さっき氷買ってきたから、かき氷作ろう！
チャイ：（アイスボックスの中を見て）あー！アイスボックスを閉じていなかったから、氷が溶けて水に＿＿＿＿＿よ。
イン：じゃ、ジュースにしよう。
【1. なる　2. なった　3. なっている　4. なっていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
なる	7	76	15	21	119

「なる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 15 人である。「テイル」以外の調査協力者の選択は、「ル」が 100 人中 7 人、「タ」が 100 人中 76 人、「テイタ」が 100 人中 21 人であり、この動詞においても、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく「タ」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「なる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい（23 人中 17 人）

・「なっている」は「まだ氷が残っており、溶けている最中」という意味である（23 人中 16 人）

その他の理由

・「なっている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「なる」という動詞は「濡れる」や「汚れる」と異なり「状態」を表さないから「テイル形」にするのはおかしい（23 人中 1 人）

・溶けて水になる過程を目撃していなかったから、「なっている」を使えない（23 人中 1 人）

この問題は、「アイスボックスの蓋を閉じ忘れて、見た時はすでに氷が溶けて水になっている」という場面である。フォローアップ・インタビューによる結果から見て、100 人中 76 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した最も多かった理由は「「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい」という理由である（23 人中 17 人）。つまり、日本語では「氷が溶けて水になっている「状態」として捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「氷が溶ける」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。

次に多かった理由が「「なっている」は「まだ氷が残っており、溶けている最中」という意味である」（23 人中 16 人）であることから、「「進行」との混同」も一つの要因であることが分かるだろう。要するに、「なっている」が習得できない理由として「タイ語母語話者が過去しか見ず現在に結びつかない」、「「進行」との混同」、「「状態」として捉えにくい」ということが考えられるだろう。「なる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①現在に結びつかないただの過去という捉え方

②「進行」との混同

③「状態」として捉えにくい

7.2.1.6　「始まる」

1.（2 人の学生が話しながら学校に向(むか)う途中(とちゅう)）

学生 A：今何時？

学生 B：10 時 15 分だよ。授業は 10 時からだよね？

学生 A：えー、＿＿＿＿＿じゃない。急(いそ)がないと！

【1. 始(はじ)まる　　2. 始(はじ)まった　　3. 始(はじ)まっている　　4. 始(はじ)まっていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
始まる	6	84	23	12	125

「始まる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 23 人である。「テイル」以外の調査協力者の選択は、「ル」が 100 人中 6 人、「タ」が 100 人中 84 人、「テイタ」が 100 人中 12 人であり、この動詞においても、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく「タ」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「始まる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい（23 人中 13 人）

・「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしており、まだ始まっていない（今から始まる）」という意味である（23 人中 11 人）

その他の理由

・「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「始まった」という出来事が終わっているが、「始まっている」は「状態」であることを強調しており、「始まった」は「「始まる」という出来事が過去に起きた」ということを強調する時に使う（23 人中 3 人）

・「始まっている」は「始まる」という出来事が繰り返して起きる気がする（23 人中 1 人）

・「始まっている」は「始まったばかり」という意味である（23 人中 1 人）

・「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「授業が既に始まっている」

というところで共通しているが、自分がその場にいる場合は「始まった」が正しく、自分がその場にいない場合は「始まっている」が正しい（23 人中 1 人）

この問題は「登校中の 2 人の学生の会話で、会話をしている時にすでに授業が始まっていることに気付いた」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 84 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した最も多かった理由は「「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい」というものである（23 人中 13 人）。つまり、日本語では「過去に授業が始まって現在教師が教えている「状態」」として捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「授業が始まる」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。

その次に多かった理由が「「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしており、まだ始まっていない（今から始まる）」という意味である」（23 人中 11 人）ことから、「「進行」との混同」も要因のひとつであることが分かるだろう。要するに、「始まっている」が習得できない理由として「タイ語母語話者が過去しか見ず現在に結びつかない」、「「進行」との混同」、「「状態」として捉えにくい」ということが考えられるだろう。「始まる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①現在に結びつかないただの過去という捉え方
②「進行」との混同
③「状態」として捉えにくい

7.2.1.7 「腐る」

11. 三浦：この間買ったマンゴーを食べようー。
佐藤：そうだね。マンゴーは箱の中だよ。
三浦：（箱を開けて）あー、___よ。もっと早く食べればよかった。
【1. 腐る　2. 腐った　3. 腐っている　4. 腐っていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
腐る	9	62	29	18	118

「腐る」では「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 29 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 9 人、「タ」が 100 人 62 人、「テイタ」が 100 人中 18 人であり、この動詞においても、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく「タ」に集中しているが、「過ぎる」や「届く」などに比べて、調査協力者の「テイル」の選択率が少し高いことが分かる。フォローアップ・インタビューによる「腐る」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「腐っている」は「完全に腐っておらず、まだ食べられるところが残っている」という意味である（23 人中 9 人）
・「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい（23 人中 9 人）
・「状態」であるため、「腐っている」が正しい（23 人中 8 人）

その他の理由

・「腐った」は「「腐る」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使い、「腐っている」は「状態」であることを強調したい時に使う（23 人中 2 人）

この問題は、「箱の中に入っているマンゴーを見た時、そのマンゴーはすでに腐っている」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 62 人の調査協力者が「タ」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した最も多かった理由は「「腐っている」は「完全に腐っておらず、まだ食べられるところが残っている」という意味である」（23 人中 9 人）というものであり、「マンゴーが完全に腐っているのではなく腐っている途中であるため、まだ食べられるところが残っている」つまり、「「進行」との混同」が見られた。

その次に多かった理由は「「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい」（23 人中 9 人）というものである。日本語では「マンゴーが完全に腐ってその「状態」が現在まで続いている」と捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「マンゴーが腐る」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」

ことが窺える。

しかし、「腐る」はこのグループの中で調査協力者による「テイル」の選択率が最も高かった（100 人中 29 人）。同じ動詞のグループなのに、なぜ「腐る」の選択率が他の動詞より高いのだろうか。フォローアップ・インタビューの結果から見て、23 人中 8 人の調査協力者が「テイル」を選択した理由として「「状態」であるため、「腐っている」が正しい」と答えている。つまり、「腐っている」は同じグループの他の動詞の「テイル形」より「「状態」として捉えやすい」ということが考えられるようである。「腐る」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「進行」との混同
②現在に結びつかないただの過去という捉え方
③「状態」として比較的捉えやすい

「動詞＋lέεw」のグループに属する動詞を考察した結果、①「「タ」が選択されやすい動詞」と②「「テイル」と「タ」が同じくらい選択されやすい動詞」という 2 つのグループに分類することができる。①「「タ」が選択されやすい動詞」のグループに属する動詞には「過ぎる」「届く」「終わる」「治る」「なる」「始まる」がある。このグループの動詞の特徴は、タイ人日本語学習者から見て「日本語では「結果状態」の「テイル」が用いられる出来事」を「状態」として捉えられず、現在に結びつかないただの「過去」と捉えられることである。②「「テイル」と「タ」が同じくらい選択されやすい動詞」のグループに属する動詞には「腐る」のみである。「腐る」の特徴は、「動詞+lέεw」のグループの他の動詞に比べて「状態」としてイメージしやすいところにある。

7.2.2 「動詞（＋yùu)」のグループに属する動詞

7.2.2.1 「落ちる」

2. 木村：私のボールペン知らない？

田中：知らないなー。探(さが)すの手伝(てつだ)ってあげようか？

木村：ありがとう。

田中：（机(つくえ)の下を見て）あ、机(つくえ)の下に_____よ。

【1. 落(お)ちる　2. 落(お)ちた　3. 落(お)ちている　4. 落(お)ちていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
落ちる	4	53	51	21	129

「落ちる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 51 人であり、このグループにおいては最も選択率が低いが、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいて調査協力者による選択率が最も高い「腐る」（29%）よりは選択率が高い。調査協力者の「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 4 人、「タ」が 100 人中 53 人、「テイタ」が 100 人中 21 人であり、調査協力者の選択が「タ」と「テイル」に同じくらい集中していることが分かる。

フォローアップ・インタビューによる「落ちる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「落ちている」は「ペンが落ちている最中で、宙に浮いており、まだ床についていない」という意味である（23 人中 11 人）

・「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい（23 人中 8 人）

・「状態」であるため、「落ちている」が正しい（23 人中 6 人）

その他の理由

・「落ちた」は「過去にペンが落ちて今どこにあるか分からない」という意味である（23 人中 3 人）

・「落ちた」は「過去にペンが落ちた後に拾って、そのペンは今もう床にない」という意味である（23 人中 2 人）

・「落ちた」は「過去にペンが落ちた」と述べる時に使い、「落ちている」は「状態」を

強調したい時に使う（23 人中 2 人）

この問題は「ボールペンを探しており、机の下を見た時、ボールペンが机の下に落ちている」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 53 人が「タ」を、100 人中 51 人が「テイル」を選択している。調査協力者の「タ」を選択した理由として最も多く挙げられたものが「「落ちている」は「ペンが落ちている最中で、宙に浮いており、まだ床についていない」という意味である」（23 人中 11 人）であることから、「「進行」との混同」が窺える。

次に多かった理由は「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい」（23 人中 8 人）というものである。日本語では「ペンが過去に落ちて現在まで床にある「状態」として捉えるが、タイ語母語話者の調査協力者の認識は「「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きた」という点にとどまっており、「現在に結びつかない」ことが窺える。

一方、正答である「テイル」を選択した理由として、「「状態」であるため、「落ちている」が正しい」（23 人中 6 人）というものが挙げられている。この選択理由は「動詞＋lέεw」のグループの動詞（「腐る」を除いて）のフォローアップ・インタビューの結果においては挙げられなかった。このことから、ごく一部ではあるが、「落ちている」を「状態」と捉える人もいることが分かるだろう。つまり、「落ちている」は「動詞＋lέεw」のグループの動詞より比較的「状態」として捉えやすいことが分かった。「落ちる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「進行」との混同
②現在に結びつかないただの過去
③「状態」として比較的捉えやすい

7.2.2.2　「壊れる」

4.（兄弟が話している）

兄：ちょっとパソコンを貸して。レポートを書きたいから。

妹：いいよ。机の上にあるから、使って。

兄：ありがとう。（パソコンをつけようとした）

あれ？パソコンがつかない。_____じゃないか。

【1. 壊れる　2. 壊れた　3. 壊れている　4. 壊れていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
壊れる	2	60	59	8	129

「壊れる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 59 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 2 人、「タ」が 100 人中 60 人、「テイタ」が 100 人中 8 人であり、この動詞においても「落ちる」と同様に、調査協力者の選択が「タ」と「テイル」に同じくらい集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「壊れる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「状態」だから、「壊れている」が正しい（23 人中 12 人）

・「壊れている」の使い方が分からない（23 人中 4 人）

・「壊れた」と「壊れている」の違いが分からない（23 人中 3 人）

・「壊れている」は「壊れかけており、完全に使えないわけではない」という意味である（23 人中 3 人）

その他の理由

・「壊れた」は「過去に壊れていたが、今は修理されている」という意味である（23 人中 2 人）

・「壊れた」は「過去に壊れていたが、今はどうなっているかは言及していない」という意味である（23 人中 1 人）

この問題は「パソコンを使おうと思った時、パソコンがすでに壊れている」という場面

である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 60 人が「タ」を、100 人中 59 人が「テイル」を選択している。正答である「テイル」を選択した調査協力者が 59 人おり一見半数以上の調査協力者がいることになるが、誤答である「タ」を選択した調査協力者も 60 人いて、調査協力者が正しく「タ」と「テイル」の区別ができていないことが窺える。

調査協力者の「テイル」を選択した最も多かった理由は「「状態」だから、「壊れている」が正しい」（23 人中 12 人）であることから、約半分の調査協力者が正しく「壊れている」を「状態」として捉えられており、「落ちている」より「状態」として捉えやすいと考えられる。しかし、4 人の調査協力者が「「壊れている」の使い方が分からない」、3 人の調査協力者が「「壊れた」と「壊れている」の違いが分からない」、3 人の調査協力者が「「壊れている」は「壊れかけており、完全に使えないわけではない」という意味である」と答えていることから、ここでは 10 人の調査協力者が「壊れている」に関して正しい知識を持っていないことが分かる。また、その 10 人のうちの 3 人が「「壊れている」は「壊れかけており、完全に使えないわけではない」という意味である」と答えていることから、「「進行」との混同」が起こっていることが窺える。要するに、「壊れている」は「落ちている」と同様に、グループで見る場合は「動詞＋lέεw」のグループより「テイル」の選択率が高いにもかかわらず、同じグループの中では最も選択率が低く正しい知識を持っていない調査協力者がかなりいることが分かる。「壊れる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「状態」として比較的捉えやすい

②「進行」との混同

7.2.2.3 「汚れる」

9. 母：明日のパーティーに何を着ていくの？もう準備できてる？
娘：うん、ピンクのドレスを着ていくよ。
母：あ、それはだめよ。あの服は＿＿＿＿＿＿＿＿から、別の服にしたらどう？
【1. 汚れる　2. 汚れた　3. 汚れている　4. 汚れていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
汚れる	6	37	74	15	132

「汚れる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 74 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 6 人、「タ」が 100 人中 37 人、「テイタ」が 100 人中 15 人であり、このグループにおいては「テイル」の選択率が「タ」の選択率より高いという点が「落ちている」と「壊れている」と異なる。また、調査協力者の選択が正答である「テイル」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「汚れる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「汚れている」が正しい（23 人中 19 人）

その他の理由

・「汚れた」は「過去に汚れており、今はもうきれいになっている」という意味である（23 人中 6 人）

この問題は「パーティーに着ていく服を探しており、母親にその服がすでに汚れていることを告げられる」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 37 人が「タ」、100 人中 74 人が「テイル」を選択しており、「テイル」の選択率が「タ」の選択率の倍になっている。調査協力者の「テイル」を選択した理由の中で最も多く挙げられたのが「「状態」であるため、「汚れている」が正しい」（23 人中 19 人）であることから、ほとんどの調査協力者が「汚れている」を正しく「状態」と捉えられていることが分かるだろう。つまり、タイ語母語話者である調査協力者にとって「汚れている」は「状態」として捉えやすい動詞であることが分かった。この動詞のフォローアップ・インタビューでは、今まで考察してきた動詞と違って「出来事が過去に起きたから「タ」が正しい」という理由は全く挙げられなかった。他に、23 人中 6 人の調査協力者が「テイル」の選択理由として「「汚れた」は「過去に汚れており、今はもうきれいになっている」という意味である」と答えており、「タ」に関する知識が不足していることも窺える。つまり、現在の「状態」を表すのに「過去」を表す「タ」が不適切であると判断し「タ」を選択せずに「テイル」を選択したという可能性も考えられる。「汚れる」における「結果状態」の

「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「状態」として捉えやすい

②「タ」に関する知識が不足している

7.2.2.4 「疲れる」

7. （父親が仕事から帰ってきたところ）
娘：お父さん、宿題教えてー。
父：ちょっと待ってね。今教えるから。
母：お父さんは_____から、後にしなさい。
【1. 疲れる　2. 疲れた　3. 疲れている　4. 疲れていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
疲れる	9	35	75	4	123

「疲れる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 75 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 9 人、「タ」が 100 人中 35 人、「テイタ」が 100 人中 4 人であり、調査協力者の選択が正答である「テイル」に集中していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「疲れる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「疲れている」が正しい（23 人中 17 人）

・「疲れた」をよく聞いたり使ったりするから正しいと思った（23 人中 7 人）

その他の理由

・「疲れた」は「過去に疲れており、今はもう疲れていないかもしれない」という意味である（23 人中 5 人）

・「疲れた」は話し手が主語の時に使う（23 人中 2 人）

・「疲れる」という動詞自体が「状態」を表すため、「テイル形」と使うのはおかしい（23 人中 1 人）

この問題は「娘は父に宿題を教えてもらうようにお願いしたが、父が疲れているから後にするように母に言われた」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 35 人が「タ」を、100 人中 75 人が「テイル」を選択しており、この動詞においても「テイル」の選択率が「タ」の選択率の倍になっている。調査協力者の「テイル」を選択した理由として最も多く挙げられたのが「「状態」であるため、「疲れている」が正しい」（23 人中 17 人）であることから、ほとんどの調査協力者が「疲れている」を正しく「状態」として捉えられていることが分かるだろう。つまり、タイ語母語話者である調査協力者にとって「疲れている」は「状態」として捉えやすいことが分かった。

次に多く挙げられたのが「「疲れた」をよく聞いたり使ったりするから正しいと思った」（23 人中 7 人）という選択理由であり、日常における使用・遭遇率も影響していることを示している。他に、23 人中 5 人の調査協力者が「テイル」の選択理由として「「疲れた」は「過去に疲れており、今はもう疲れていないかもしれない」という意味である」と答えており、「タ」に関する知識が不足していることも窺える。「疲れる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「状態」として捉えやすい

②「タ」に関する知識が不足している

7.2.2.5 「消える」

14.（山田さんと西田さんが土田先生と約束があった。約束の日に先生の家の前に着いて何度もノックしたが、誰も出てこない。）

山田：おかしいなー。今日会う約束なのに。

西田：電気が_____から、まだ外かもしれないね。

【1. 消える　2. 消えた　3. 消えている　4. 消えていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
消える	8	16	88	4	116

「消える」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 88 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は「ル」が 100 人中 8 人、「タ」が 100 人中 16 人、「テイタ」が

100 人中 4 人であり、ほぼ 9 割の調査協力が「テイル」を正しいと判断していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「消える」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「消えている」が正しい（23 人中 18 人）

その他の理由

・「消えている」は「少しずつ消えている」という意味である（23 人中 2 人）

・「消えている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「消えた」は「過去に消えており、今は点いているかもしれない」という意味である（23 人中 1 人）

この問題は「会う約束をしていた先生の家の前に着いて、家の電気が消えていることに気付く」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 16 人が「タ」を、100 人中 88 人が「テイル」を選択しており、「テイル」と「タ」の選択率の差がさらに広がっていることが分かる。このことから調査協力者が今までの動詞より「テイル」と「タ」の区別ができていることが窺える。調査協力者の「テイル」を選択した理由の中で最も多く挙げられたのが「「状態」であるため、「消えている」が正しい」（23 人中 18 人）であることから、ほとんどの調査協力者が「消えている」を正しく「状態」として捉えられていることが分かるだろう。つまり、タイ語母語話者である調査協力者にとって「消えている」は「状態」として捉えやすいことが分かった。他に挙げられたのが「「消えている」は「少しずつ消えている」という意味である」（23 人中 2 人）という理由で、「「進行」との混同」がわずかに残っていることが窺える。「消える」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「状態」として捉えやすい

7.2.2.6　「濡れる」

12. さっき誰(だれ)かが水をこぼしたから、床(ゆか)が＿＿＿＿＿よ。気をつけてね。
【1. 濡(ぬ)れる　　2. 濡(ぬ)れた　　3. 濡(ぬ)れている　4. 濡(ぬ)れていた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
濡れる	3	20	88	11	122

「濡れる」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 88 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は「ル」が 100 人中 3 人、「タ」が 100 人中 20 人、「テイタ」が 100 人中 11 人であり、この動詞においても、ほぼ 9 割の調査協力者が「テイル」が正しいと判断していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「濡れる」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「濡れている」が正しい（23 人中 20 人）

その他の理由

・「濡れている」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

・「濡れた」は「過去に濡れているが今は乾いている」という意味である（23 人中 4 人）

この問題は「さっき誰かが水をこぼしたから、床が濡れている」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 20 人が「タ」を、100 人中 88 人が「テイル」を選択しており、調査協力者が「テイル」と「タ」の区別ができていることが分かる。調査協力者の「テイル」を選択した理由の中で最も多く挙げられたのが「「状態」であるため、「濡れている」が正しい」（23 人中 20 人）であることから、ほとんどの調査協力者が「濡れている」を正しく「状態」として捉えられていることが分かるだろう。つまり、タイ語母語話者である調査協力者にとって「濡れている」は「状態」として捉えやすいことが分かった。他に挙げられたのが「「濡れた」は「過去に濡れているが今は乾いている」という意味である」（23 人中 4 人）という理由で、「タ」に関する知識が不足していることも窺える。「濡れる」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「状態」として捉えやすい

②「タ」に関する知識が不足している

7.2.2.7　「混む」

18. ボーイ：あ！バス来ましたよ！乗りましょう。
　ノーイ：うーん、すごく＿＿＿＿＿＿＿なー。次のバスを待ちましょう。
　ボーイ：確かに満員ですね。次のバスを待ちましょう。
【1. 混む　　2. 混んだ　　3. 混んでいる　　4. 混んでいた】

動詞	ル	タ	テイル	テイタ	合計
混む	5	20	90	5	120

「混む」では、「テイル」を選択した調査協力者は 100 人中 90 人である。調査協力者の「テイル」以外の選択は、「ル」が 100 人中 5 人、「タ」が 100 人中 20 人、「テイタ」が 100 人中 5 人であり、約 9 割の調査協力者が「テイル」が正しいと判断していることが分かる。フォローアップ・インタビューによる「混む」の理解を探った結果は以下の通りである。

多く挙げられた理由

・「状態」であるため、「混んでいる」が正しい（23 人中 21 人）

その他の理由

・「混んだ」は「過去にバスが混んでいたが、今は混んでいない」という意味である（23 人中 2 人）

・「混んでいる」は「今の状態」を強調しているのに対し、「混んでいた」は「ずっと前から混んでいる」と強調している（23 人中 1 人）

・「混んでいる」の使い方が分からない（23 人中 1 人）

この問題は「乗ろうとしたバスが混んでいる」という場面である。フォローアップ・インタビューの結果から見て、100 人中 20 人が「タ」を、100 人中 90 人が「テイル」を選択しており、多くの調査協力者が「テイル」と「タ」の区別ができていることが分かる。調査協力者の「テイル」を選択した理由の中で最も多く挙げられたのが「「状態」であるた

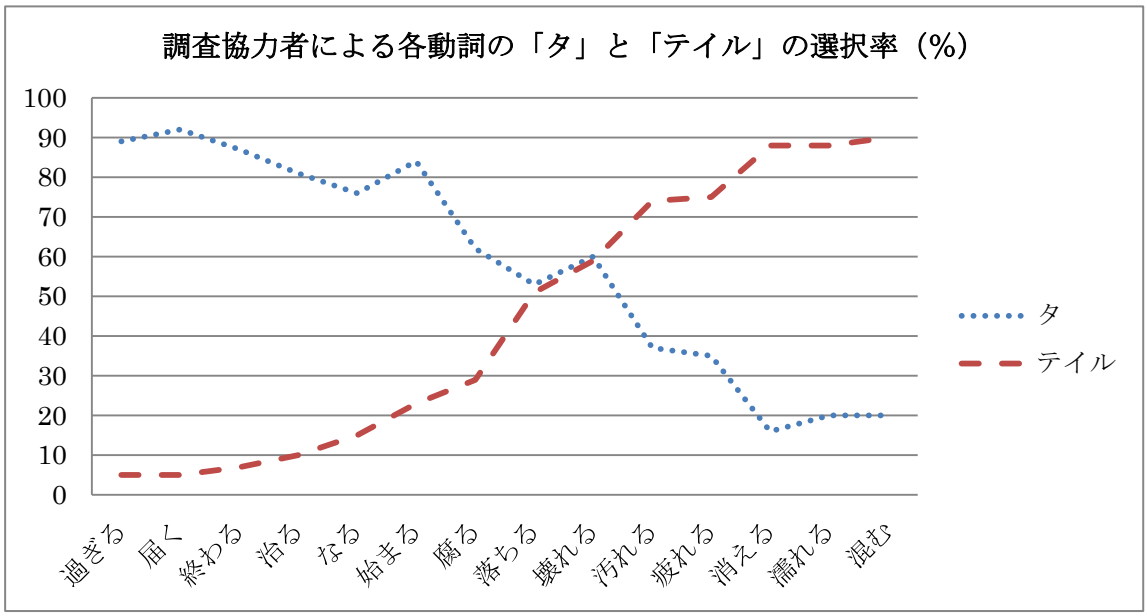
め、「混んでいる」が正しい」（23 人中 21 人）であることから、ほとんどの調査協力者が「混んでいる」を正しく「状態」として捉えられていることが分かるだろう。つまり、タイ語母語話者である調査協力者にとって「混んでいる」は「状態」として捉えやすいことが分かった。他に挙げられたのは「「混んだ」は「過去にバスが混んでおり、今は混んでいない」という意味である」（23 人中 2 人）という理由であり、「タ」に関する知識が不足していることも窺える。「混む」における「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えると考えられる要因を以下にまとめる。

①「状態」として捉えやすい
②「タ」に関する知識が不足している

以上、「動詞（＋yùu）」のグループに属する動詞を考察した結果、①「「テイル」が選択されやすい動詞」と②「「テイル」と「タ」が同じくらい選択されやすい動詞」という 2 つのグループに分類できる。①「「テイル」が選択されやすい動詞」のグループに属する動詞には「混む」「濡れる」「消える」「疲れる」「汚れる」がある。このグループの動詞の特徴は、「状態」として捉えやすいことが挙げられる。②「「テイル」と「タ」が同じくらい選択されやすい動詞」のグループに属する動詞には「壊れる」と「落ちる」がある。このグループの動詞の特徴は、「状態」としてイメージしやすいが、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの動詞において見られた「「進行」との混同」が見られるところにある。

図 13 が調査協力者による各動詞の「タ」と「テイル」の選択率を表すものである。

図 13　調査協力者による各動詞の「タ」と「テイル」の選択率（%）



以上の図 13 は、「テイル」の選択率の低い順から高い順に並べてある。図 13 から分かるように、「テイル」における調査協力者の選択率は右に行けば行くほど高くなっていく。一方、「タ」における調査協力者の選択率は右に行けば行くほど低くなっていくことが分かる。これを以下の通り 3 つのグループに分類する。

1)「テイル」が選択されやすい動詞

2)「タ」が選択されやすい動詞

3)「テイル」と「タ」が同じくらい選択される動詞

1)「テイル」が選択されやすい動詞

このグループに分類される動詞は「混む」「濡れる」「消える」「疲れる」「汚れる」である。このグループでは「テイル」の選択率は高く、それに対して「タ」の選択率が低い（図 13 を参照されたい）。このグループにおける正答である「テイル」の選択理由として最も多く挙げられたのは「「状態」であるため「テイル」が正しい」である。つまり、「「状態」としての捉えやすさ」が鍵となると考えられる。本文法テストで扱われた動詞は日本語学的にはどれも「変化動詞」であるが、「テイル」が選択されやすいグループに入る動詞が他のグループの動詞より「変化後の残る状態」が想像しやすい動詞であると考えられる。以下

のようにまとめる。

(1)「バスが混んでいる」の場合は、「バスが混む」という出来事が起きた時、「バスが混んでいない状態」から「バスが混んでいる状態」に変わる、つまり、「バスの中に人があまりいない状態」から「バスの中に人がいっぱいいる状態」に変わる訳である。

(2)「床が濡れている」の場合は、「床が濡れる」という出来事が起きた時、「床が乾いている状態」から「床が濡れている状態」に変わる、つまり、「床が綺麗な状態」から「床が水で濡れて歩けない状態」に変わる訳である。

(3)「電気が消えている」の場合は、「電気が消える」という出来事が起きた時、「電気がついている状態」から「電気が消えている状態」に変わる、つまり、「電気がついて部屋が明るい状態」から「電気が消えて真っ暗な状態」に変わる訳である。

(4)「お父さんが疲れている」の場合は、「お父さんが疲れる」という出来事が起きた時、「お父さんが疲れていない状態」から「お父さんが疲れている状態」に変わる、つまり、「お父さんが元気な状態」から「お父さんが元気ではない状態」に変わる訳である。

(5)「服が汚れている」の場合は、「服が汚れていない状態」から「服が汚れている状態」に変わる、つまり、「服が綺麗な状態」から「服に汚れがついている状態」に変わる訳である。

2)「タ」が選択されやすい動詞

このグループに属する動詞は「過ぎる」「届く」「終わる」「治る」「なる」「始まる」である。このグループにおいては、「タ」の選択率が高く、「テイル」の選択率が低い（図 13 を参照されたい)。誤答である「タ」の選択理由として、このグループにおいて最も多く挙げられたのは「過去に起きたから「タ」が正しい」である。1）のグループと違って「状態」という言葉が一度も出てこなかった。このことから、このグループの動詞の「テイル形」は調査協力者にとって「状態」として捉えにくいということが習得を困難にさせる要因になるのではないだろうか。本文法テストで扱われた動詞は日本語学的にはどれも「変化動詞」であるが、「タ」が選択されやすいグループに入る動詞は、タイ人にとって他のグループの動詞より「変化後の状態」が想像しにくい動詞であると考えられる。

3)「テイル」と「タ」が同じくらい選択される動詞

このグループに属する動詞は「壊れる」「落ちる」「腐る」である。このグループの特徴

は「テイル」と「タ」の選択率が他のグループに比べてあまり差が見られないところである。これは調査協力者が「テイル」と「タ」の使い分けができていないからだと思われる。フォローアップ・インタビューの結果から見て、このグループの動詞は 1）や 2）と違って、選択理由の中に「「状態」であるから「テイル」が正しい」と「「テイル」が「進行中」という意味である」が両方挙げられている。つまり、「「状態」であるから「テイル」が正しい」という選択理由に偏っている 1）及び「出来事が過去に起きたから「タ」が正しい」という選択理由に偏っている 2）と違って、調査協力者がこのグループの動詞を「状態」として捉えればいいのか「過去の出来事」として捉えればいいのかがはっきりしていないことが窺える。以下に各動詞の選択理由を再度挙げる。

＜壊れる＞

・「状態」だから、「壊れている」が正しい（23 人中 12 人）

・「壊れている」は「壊れかけており、完全に使えないわけではない」という意味である（23 人中 3 人）

＜落ちる＞

・「状態」だから、「壊れている」が正しい（23 人中 12 人）

・「壊れている」は「壊れかけており、完全に使えないわけではない」という意味である（23 人中 3 人）

＜腐る＞

・「腐っている」は「完全に腐っておらず、まだ食べられるところが残っている」という意味である（23 人中 9 人）

・「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい（23 人中 9 人）

・「状態」であるため、「腐っている」が正しい（23 人中 8 人）

以上、「テイル」と「タ」の選択率の違いによって分類した 3 つのグループを考察した結果、調査協力者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える要因の一つに「「状態」としての捉えやすさ」が見られた。つまり、①「状態」として捉えやすく「テイル」が選択されやすいグループ、②「状態」というよりは「過去の出来事」として捉えがちであり、

その結果「タ」が選択されやすいグループ、③使い分けが見られず「テイル」も「タ」も同じくらい選択されるグループ、という 3 つのグループに分けることができる。こうした「「状態」としての捉えやすさ」をどのように教育現場で扱うかは大きな課題になると考えられる。これに関しては第 8 章において詳しく述べることにする。

7.3　教材分析

7.1 では「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」という各グループを考察し、7.2 では各動詞を考察した。本節では、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況に影響を与えているもう一つの要因として「教材の影響」が考えられる。そこで、本研究において文法テストの調査協力者が「結果状態」の「テイル」を学習する際に使用したと考えられる教材の分析を行った。本研究で対象とした日本語教材は、『みんなの日本語』と『あきこと友だち』である。この 2 冊の教科書を選択したのは、本調査の調査協力者が初級の段階において「結果状態」の「テイル」を学習する際に使用した可能性のある教科書であるからである[60]。既習グループの調査協力者は高校や日本語学校などで、未習グループの調査協力者は大学に入って 1 年生の時に学習したと考えられる。本研究の教材分析においては、①「テイル」の文型の導入・説明、②「結果状態」の「テイル」の導入において扱われる動詞、③「結果状態」の「テイル」における練習問題、という 3 つの点に着目して分析を行った。

7.3.1　「テイル」の文型の導入・説明

『みんなの日本語』と『あきこと友だち』において、「テイル」がどのように導入し説明されているかを以下に挙げる。導入の順序も「テイル」の習得に影響を与えうると考えられるため、「結果状態」以外の用法の導入も紹介する。

『みんなの日本語』では、「進行」の「テイル」は第 14 課で導入されている。「結果状態」

60 タマサート大学教養学部日本語学科の各学年には、高校などで日本語学習経験を持ち入学試験時に日本語を受験した「既習グループ」と日本語学習経験を持っておらず入学試験時に日本語を受験しなかった「未習グループ」がある。同じ学年でも、既習グループと未習グループの学生が受ける授業が異なる。例えば、未習グループの 1 年生の学生は、普通に 1 年生の授業を受ける。一方、既習グループの 1 年生の学生は、1 年生の授業を受ける必要がなく、2 年生の未習グループの学生と一緒に 2 年生の授業を受ける。「結果状態」の「テイル」の学習については、既習グループは高校や日本語学校などで、未習グループは大学に入って 1 年生の時に学習したと考えられる。

の「テイル」は第 15 課と第 29 課で導入されている。まず、第 14 課で導入されている「進行」の「テイル」の説明を以下に挙げる。

動詞テ形＋ています

この文型は、現在進行中の動作を表す。

① ミラーさんは　今　電話を　かけています。

② 今　雨が　降って　いますか。

. . . はい、降って　います。

. . . いいえ、降って　いません。

出典：『みんなの日本語』初級 I （下）p.9

また、第 15 課では「結果状態」の「テイル」が以下のように説明されている。

動詞テ形＋います

過去の動作で現在まで存在している「状態・様子」を表す。

① わたしは結婚しています。

② わたしは田中さんを知っています。

③ わたしは大阪に住んでいます。

④ わたしはカメラを持っています。

「持っています」は「現在手に持っている」と「所有している」のどちらにもなる。

出典：『みんなの日本語』初級 I （下）p.22

さらに、第 29 課では、「結果状態」の「テイル」が以下のように説明されている。

動詞テ形＋います

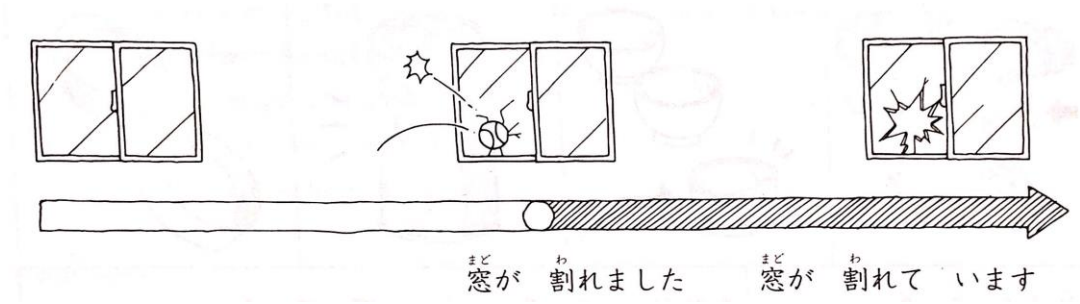
動作が完了したが、その結果がまだ残っている。

1）名詞　が　動詞テ形＋います

①　窓が　割れて　います。

②　電気が　ついて　います。

上記の例から、話し手は目に見えているものを描写している。動作の動作主や状態は助詞「が」で表される。例えば、例文①では「過去にガラスが割れて、現在までその影響が続いている（割れている状態）」。この文型に使用される動詞は、「こわれます」「きえます」「あきます」「こみます」など概ね瞬時に起きてその状態が継続的に現れる自動詞である。



同様に、過去の状態を表す場合は、「動詞テ形＋いました」が使われる。

③　けさは　道が　込んで　いました。

2）名詞　は　動詞テ形＋います

トピックに挙げられる動詞の主語は助詞「は」で表される。例文④のように、話し手は「この」を使って「このいす」がトピックで、その状態を聞き手に説明している。

④　この　いすは　壊れて　います。

出典：『みんなの日本語』初級Ⅱ（上）p.50

前述したように、『みんなの日本語』においては第 15 課と第 29 課で「結果状態」の「テイル」が導入されている。一方、「進行」の「テイル」は第 14 課で導入されている。ここで注目したいのは、「動詞の説明」である。第 14 課と第 15 課の「テイル」の説明において

は動詞の説明がなされておらず、「テイル」の 2 つの主な用法の説明のみであることが分かる。その理由として、初級日本語学習者にとっては動詞の説明が難しすぎるということが挙げられる。「結果状態」の「テイル」に使用される際の動詞の説明がなされるのは第 29 課に入った後である。その動詞の説明は「この文型に使用される動詞は、「こわれます」「きえます」「あきます」「こみます」など概ね瞬時に起きてその状態が継続的に現れる自動詞である」である、つまり、「自動詞」が「テイル形」と組み合わせられると「結果状態」という意味になるわけである。仁田（2009）は、「「結果状態」を作る動詞は、「動き動詞」で、動きが持続過程を有しているか否かに拘らず、動き前と動き後で主体の状態に変化が生じたと捉えられている「主体変化動詞」である」と述べているが、初級日本語学習者にとってこのような説明は難しすぎると考えられるため、似通った概念がタイ語にも存在している「動詞の自他対応」を用いて説明する方が分かりやすいと言える。したがって、『みんなの日本語』の第 29 課における「結果状態」の「テイル」の説明が適切であると言える。次は『あきこと友だち』を見てみよう。

動詞＋ている

1. 進行中や現在起きている動作を表す時に使われる。

① 何をしていますか。

② ニュースを聞いています。

③ 妹は出口でまっています。

④ 友達と話しています。

2. 現在の状態を表す時に用いられる。例えば、

・服装を表す時

① シリクワンさんはめがねをかけていますか。

② 黒田さんは今日みどりのシャツを着て、黒いジーンズをはいています。

・見た目、性質、状態などを表す時

① リーさんはやせていますか、ふとっていますか。

② 赤ちゃんはお父さんににていますね。

③ コムサンさんはしんせきの家に住んでいます。

④ お姉さんはどこの大学で勉強していますか。

出典：『あきこと友だち』第 3 巻 p.60

上記の図は『あきこと友だち』に載っている「結果状態」の「テイル」の文法説明を表すものである。『あきこと友だち』では、「結果状態」の「テイル」は第 13 課で導入されている。『あきこと友だち』では、『みんなの日本語』と異なり、「進行」の用法と「結果状態」の用法が同時に導入されている。ここで最も注目したいのは、「動詞の説明」がなされていないことである。これが『みんなの日本語』と異なっている点である。前述した通り、「テイル」の意味用法は動詞の種類によって変わるため、動詞の種類の説明なしでは十分とは言い難い。なぜなら、この課を学習した後に「テイル」には大まかに分けると「進行」と「結果状態」の意味があることは理解できるかもしれないが、いつ「進行」の意味になり、いつ「結果状態」の意味になるかという点に関しては不十分だからである。そのため、この教科書を使用した調査協力者は十分に「結果状態」の「テイル」に関する教育を受けなかった可能性があると考えられる。

7.3.2 「結果状態」の「テイル」の導入において扱われる動詞

日本に住む日本語学習者（JFL 環境下）を対象とした菅谷（2003）や阿（2009）などの先行研究において指摘されているように、「結果状態」の「テイル」の習得において「似ている」「持っている」「知っている」などかたまりとして覚えられるものがある。このような動詞がかたまりとして覚えられているのは、日常生活においてよく耳にする、使用頻度が高い動詞だからだと考えられる。しかし、本調査の調査協力者は、タイに住む日本語学習者（JFL 環境下）である。本調査の調査協力者は、菅谷（2003）や阿（2009）の対象者とは異なり、日常生活の中で日本語を耳にする機会が JSL 環境下で学習する人より少ないだろう。このことから、各動詞の日本語教材などにおける「テイル形」の出現が日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える可能性が大いにあると考えられる。そこで、『みんなの日本語』と『あきこと友だち』にどの動詞が「結果状態」の「テイル」として挙げられているかを調べる必要があると考えた。各教材において「結果状態」の「テイル」として出現している動詞を以下にまとめる。

『みんなの日本語』第 15 課

・知っている　　・持っている

・結婚している

『みんなの日本語』第 29 課

・壊れている
・（鍵が）掛かっている
・故障している
・（道が）混んでいる
・（道が）すいている
・（ポケット）が付いている
・（中に）入っている
・太っている
・痩せている
・膨らんでいる
・開いている
・閉まっている
・曲がっている
・ゆがんでいる
・凹んでいる
・ねじれている
・欠けている
・（ひびが）入っている
・腐っている
・乾いている
・濡れている
・凍っている
・割れている
・（電気が）ついている
・（電気が）消えている
・折れている
・やぶれている
・汚れている
・外れている
・止まっている

『みんなの日本語』の第 15 課において「結果状態」の「テイル」として挙げられている動詞は、「知っている」「持っている」「結婚している」の 3 つのみである。これらの動詞が先に導入されるのは、日常生活における使用頻度が高く、「テイル形」として使われることが多いからだと推測できる。一方、第 29 課において「結果状態」の「テイル」として挙げられている動詞は 30 語もある。時間的問題で教師が教えられないなどのケースも考えられるので、日本語教科書に載っているからといって学習者が習得できるとは限らないが、教材としての役割は十分果たしていると言えるのではないだろうか。

『あきこと友だち』

・（ズボンを）履いている
・（めがねを）かけている
・（制服を）着ている
・痩せている
・（お父さんに）似ている
・太っている
・（帽子を）かぶっている

一方、『あきこと友だち』において「結果状態」の「テイル」として挙げられている動詞を見れば、「（ズボンを）履いている」「（制服を）着ている」「（めがねを）かけている」など人の外見や性質を表す表現に使用する動詞に偏っていることが分かる。「開いている」「壊れている」「割れている」など、人ではなく物の状態を表す動詞の導入がなく、その点においてはいささか不十分であると指摘できる。

7.3.3 「結果状態」の「テイル」における練習問題

習得につながるもう一つの要因として「練習方法」が考えられる。つまり、学習した「結果状態」の「テイル」が習得できるかどうかは、練習方法も影響しているということである。そこで、『みんなの日本語』と『あきこと友だち』にある「結果状態」の「テイル」の練習問題を分析する。

『みんなの日本語』においては、練習の部分が「練習 A」「練習 B」「練習 C」に分けられている。スリーエーネットワークのホームページには、各部分について以下のように説明されている。

・練習 A : 言葉を入れ替える部分がアミかけされており、動詞、形容詞のフォームや文の構造（文型）に注意が向くように視覚的に工夫されている。動詞、形容詞の活用の規則、文型の構造を理解し、基本的な代入練習や変換練習をすることが練習 A の目的である。

・練習 B : 文型毎に単文、複文、質問文及び回答文などを作成する練習である。イラストが数多く使われている。

・練習 C : 文型の機能に焦点をあてた短い会話文の練習である。会話の中で、文型がどのように使われているかを学習し、運用力を高めることがこの練習の狙いである。

本研究では、「結果状態」の「テイル」の練習問題のみを取り上げて分析する。

まず、『みんなの日本語』の第 15 課の「結果状態」の「テイル」の練習問題から分析する（資料 6 を参照されたい）。第 15 課は、前述のように、「練習 A」「練習 B」「練習 C」に分かれており、「結果状態」の「テイル」として取り上げられている動詞は「知っている」「持っている」「結婚している」のみである。これらの動詞は、「テイル形」としての使用

頻度が高いため、質問や回答の練習をするための「練習 B」、及び短い会話の練習をするための「練習 C」をすることによって「知っている」「持っている」「結婚している」が定着し習得につながるという効果が期待できる。ドゥアンケーオ（2013）の研究においても、「（調査で扱った動詞の中で）「知っている」は、「結果状態」の「テイル」の中で最も習得が進んでいる動詞である」と述べられている。その理由として、日本語教材において「知っている」が多く取り上げられているからであると考えられる。

次に、『みんなの日本語』の第 29 課の「結果状態」の「テイル」の練習問題を分析する。前述のように、第 29 課は、第 15 課と異なり、「テイル」と組み合わせられると「結果状態」の意味になる動詞が 30 語も取り上げられている。「練習 B」は、「状態」を表す絵を提示することにより、学習者にとって「状態」として想像しやすくするという点で効果的であると考えられる（資料 6 を参照されたい）。「練習 C」は、「結果状態」の「テイル」を短い会話に取り入れて使う練習をすることで、どのような時に「結果状態」の「テイル」を使用すればいいか分かりやすく、学習において効果的であると言える。取り上げられている 30 語の動詞がすべて練習問題に使われているわけではないが、「結果状態」の「テイル」の導入の際に教師が各動詞の「テイル」と組み合わせられた時の（動詞の種類などの）説明をすれば問題ないと考えられる。

一方、『あきこと友だち』の練習問題を見れば、服装や身に付けるもの（めがねや時計など）など、人の外見を描写する時に使用する動詞に偏っていることが分かる。したがって、物の状態を表す時に使われる動詞の練習も入れる必要があると言える。

本調査の調査協力者が使用した可能性のある教科書である『みんなの日本語』と『あきこと友だち』を分析して分かった点を以下にまとめる。

『みんなの日本語』

①「結果状態」に使用される動詞について「瞬時に起きてその状態が継続的に現れる自動詞」という説明が分かりやすい。

②人や物の状態を表す動詞が幅広く導入されている。

③絵を用いた練習問題が分かりやすい。

『あきこと友だち』

①「結果状態」の意味になる動詞の説明がなされていない。

②人の外見や性質を表す動詞に偏っている。

本研究は、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにするために、主に文法テストとフォローアップ・インタビューを実施した。すべての調査結果から、本調査において見られたタイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えていると考えられる要因を以下にまとめる。

「動詞＋lɛ́ɛw」のグループ

習得：困難（正答率：13.71%）

要因：1)「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう）

2)「lɛ́ɛw＝過去」という間違った知識

3)「進行」との混同

「動詞（＋yùu)」のグループ

習得：容易（正答率：75.28%）

要因：1)「状態」として捉えやすい

2)「yùu」の「正の転移」

3)「タ」に関する間違った知識

日本語の「結果状態」の「テイル」を対応するタイ語の文法形式で分類し考察をした。「動詞＋lɛ́ɛw」のグループは、「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難であるらしいことが分かった。本研究において見られた「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの習得に影響を与える要因には、①「状態」として捉えにくい、②「lɛ́ɛw＝過去」という間違った知識、③「進行」との混同、が見られた。「動詞（＋yùu)」のグループの習得に影響を与える要因には、①「状態」として捉えやすい、②「yùu」の「正の転移」、③「タ」に関する間違った知識、が見られた。また、教材分析をした結果、「結果状態」の「テイル」の導入に関しては、『みんなの日本語』は全体的に充実した教科書であるのに対し、『あきこと友だち』は「動詞に関する説明」や「動詞の偏り」など改善点があることが考えられる。

第 8 章では本研究の目的と結果を再度振り返り、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与える要因をまとめ、日本語教育現場へ提言をすることにする。

第 8 章　まとめと今後の課題

ここでは、今回の研究の結果を簡単にまとめてから今後の課題解決に向けての方針と日本語教育現場への提言について述べていく。

8.1　まとめ

本研究においては、タイ人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得状況を、主に文法テストとフォローアップ・インタビューを通して様々な観点から観察し、次の点を考察及び検討することを目的とした。

1）中・上級タイ人日本語学習者における「結果状態」の「テイル」の習得の要因を探る。また、それらの要因がどのように「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えているかを探る。

2）「結果状態」の「テイル」における各動詞の正答率が異なる場合、その要因を探る。

以上の 2 つの点を明らかにすることを本研究の目的とし、主に文法テストとフォローアップ・インタビューを用いてタイ人日本語学習者における「テイル」の習得に関する様々な結果が得られた。以下、それらを簡単にまとめる。

1）「結果状態」の「テイル」を「動詞＋léεw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループに分類して調査を実施した結果、「動詞＋léεw」のグループの方が「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難である。

2）「動詞＋léεw」のグループは習得が困難である。その要因として、①「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう)、②「léεw＝過去」という間違った知識、③「進行」との混同、がある。

3）「動詞（＋yùu)」のグループの習得は容易である。その要因として、①「状態」として捉えやすい、②「yùu」の「正の転移」、③「タ」に関する間違った知識、ということが挙げられる。

4）同じグループでもグループ内の各動詞の正答率が異なることから、文法テストで扱った各動詞を考察した結果、①「テイル」が選択されやすい動詞、②「タ」が選択されやす

い動詞、③「テイル」と「タ」が同じくらい選択される動詞、にさらに分類ができる。

以下、1）～4）の内容を順に追っていく。

1)「結果状態」の「テイル」を「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループに分類して調査を実施した結果、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難である。

第 6 章において挙げた文法テストの全体的な結果をここに再掲する。表 23 から分かるように、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの平均点数は 0.96 点である一方、「動詞（＋yùu)」のグループの平均点数は 5.23 点で、大きな差が見られた。両グループの得点率で見ると、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの平均得点率は 13.71%なのに対し、「動詞（＋yùu)」のグループの平均得点率は 75.28%で、はっきり差が分かるであろう。これにより、「結果状態」の「テイル」の「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては、「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難であることが分かった。全体の平均点数は 14 点満点中 6.19 点で、満点の半分にも満たず、「結果状態」の「テイル」は習得が困難であると考えられる。

表 23　文法テストの全体的な結果

グループ	「動詞＋lɛ́ɛw」(7 点)	「動詞(＋yùu)」(7 点)	全体(14 点)
平均点数	0.96(13.71%)	5.23(75.28%)	6.19(44.21%)

このことから、日本語においては同じ「結果状態」の「テイル」でもタイ語においては 2 つのグループに分類することができ、さらに各グループの習得難易度がそれぞれ異なることが分かった。そのため、日本語教育現場では、タイ人日本語教師が母語であるタイ語との比較などをしながら「結果状態」の「テイル」を導入した方が効果的であると考えられる。詳しくは「8.3 日本語教育現場への提言」において述べる。

2)「動詞＋lɛ́ɛw」のグループは習得が困難である。その要因として、①「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう)、②「lɛ́ɛw＝過去」という間違った知識、③「進行」との混同が挙げられる。

前述したように、本調査では文法テストとフォローアップ・インタビューを実施した。上記の表 23 から分かるように、本調査の調査協力者の「動詞＋lέεw」のグループにおける全体的な正答率がたった 13.71％で、非常に低いことが分かった。「動詞＋lέεw」のグループの各動詞の正答率を見ると、各動詞の正答率に差はあるものの、どの正答率も 3 割に達しておらず、習得が困難であることが分かった。フォローアップ・インタビューを実施した結果、このグループの習得が困難である要因として、①「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう）、②「lέεw＝過去」という間違った知識、③「進行」との混同、が挙げられた。

①「状態」として捉えにくい（「過去」と捉えてしまう）

フォローアップ・インタビューを実施した結果、正答の「テイル」ではなく「タ」を選択した理由として、多くの調査協力者が「その出来事が過去に起きたから「タ」が正しい」と回答している。また、「出来事が過去に起き、その結果が現在まで続いている」と日本語の「結果状態」の「テイル」について説明したところ、ほとんどの調査協力者が「なぜ「状態」と捉えられるのか分からない」と述べている。つまり、日本語においては「状態」として捉えるにもかかわらず、タイ語では本調査の文法テストで扱った場面を「状態」として捉えないため、タイ語を母語とする本調査の調査協力者にとってはこれらの場面を「状態」として捉えるのが非常に難しく、「状態」ではなく「ただの過去」と捉えて「タ」を選択してしまうことが考えられる。

②「lέεw＝過去」という間違った知識

このグループの「結果状態」の「テイル」にタイ語の「lέεw」が対応する。「lέεw」はタイ語教育では「完了」を表すと言われているが、タイ語母語話者の多くが「完了」ではなく「過去」と認識していると考えられる。このように、タイ語母語話者の中に「lέεw」に関して間違った認識をしている人が多いことを実証するために、本調査においては「タイ語母語話者の「lέεw」に対する意識調査」を実施した。その結果、100 人中 78 人のタイ語母語話者が「lέεw」を「過去」と間違えて捉えており、タイ語の「lέεw」に関して間違った知識を持っているタイ語母語話者が少なくないことが分かった。そのため、「電車が（降りたかった駅を）過ぎている」などのように日本語において「結果状態」の「テイル」が使用される場面に遭遇する際でも、タイ語からの概念に影響されて「現在の状態」ではなく「過

去」と（間違えて）捉えて「タ」を使用してしまうことが考えられる。

③「進行」との混同

「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては、調査協力者の選択が正答である「テイル」ではなく圧倒的に誤答の「タ」に偏っている。「タ」を選択した理由を探るため、フォローアップ・インタビューの際に調査協力者に「「テイル」だとどういう意味になるのか」と質問した。その結果、このグループのすべての動詞において多くの調査協力者が「「テイル」は「その出来事の最中」と答えている。例えば、「「治っている」は「まだ傷が治っておらず、治りかけている。つまり、魔法を使って治すみたいに傷が塞がろうとしている。」と答えた調査協力者が 23 人中 20 人もいた。このことから、本調査の調査協力者にとってこのグループの動詞の「テイル形」は「結果状態」より「進行」との結びつきの方が強いことが分かった。

3)「動詞（＋yùu)」のグループの習得は容易である。その要因として、①「状態」として捉えやすい、②「yùu」の「正の転移」、③「タ」に関する間違った知識、が挙げられる。

上記の表 23 から分かるように、本調査の調査協力者の「動詞（＋yùu)」のグループにおける全体的な正答率は 75.28％であり、13.71％である「動詞＋lɛ́ɛw」のグループより正答率が圧倒的に高い。「動詞（＋yùu)」のグループの各動詞の正答率を見る場合、各動詞の正答率に差はあるものの、どの正答率も 5 割を超えており、習得が容易であることが分かった。フォローアップ・インタビューを実施した結果、このグループの習得が容易である要因として、①「状態」として捉えやすい、②「yùu」の「正の転移」、③「タ」に関する間違った知識が挙げられた。

①「状態」として捉えやすい

フォローアップ・インタビューにおける「なぜ「テイル」を選択したのか」という質問に対する回答として、最も多かったのは「「状態」だから」である。この選択理由は「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては見られなかった。このことから、「動詞（＋yùu)」のグループの動詞の「テイル形」は「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの動詞に比べて、調査協力者にとっては「状態」として捉えやすいことが分かった。つまり、タイ語においても日本語において

も「状態」として捉えられることが、タイ人日本語学習者が「動詞（＋yùu)」のグループを学習する際、習得が容易である理由の一つとなっていると考えられる。

②「yùu」の「正の転移」

フォローアップ・インタビューの際、「「状態」であるから」という理由を述べる時に、「存在」を表す時に使うタイ語の「yùu」（日本語の「いる」と同じ意味）を使って理由を述べる調査協力者が多かったことから、調査協力者がタイ語の知識を活かして答えている「正の転移」が見られた。

③「タ」に関する間違った知識

「テイル」と「タ」を区別できているかどうかを見るために、「「タ」はどういう意味で、どのような時に使うか」と質問したところ、最も多い回答は「その出来事が過去に起きて、今はその状態ではなくなったか、今のことは言及していない」であった。例えば、「「濡れている」は「過去に濡れていたが、今は乾いている」」と 23 人中 4 人の調査協力者が答えている。フォローアップ・インタビューの際の筆者の「「タ」はどういう意味で、どんな時に使うか」という質問に対して正しく答えられた調査協力者がほとんどいなかった。つまり、一部の調査協力者にとっては、現在と切り離して過去のことを述べる時に「タ」を使用すると理解されているため、「今の状態」を表すのに不適切であると考え、「タ」を選択せず、正答である「テイル」を選択したことが考えられる。

8.2　本研究の不足点および今後の課題

本研究は主に調査紙による文法テストとフォローアップ・インタビューという 2 つの調査方法を用いて、調査対象者である中・上級タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況を明らかにすることを試みた。今回の調査で得られた結果は、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が「動詞（＋yùu)」のグループより習得が困難であり、①タイ語の知識や概念、②日本語の「テイル」と「タ」の知識、などが習得に影響していることが分かった。しかし、不明な点はまだ多く残っている。残された問題を以下に挙げる。

①本研究は量的研究であるが、調査対象者はタマサート大学で日本語を勉強している学習者に絞っているため、調査結果を一般化するのは難しいと言える。

②本研究では、資料収集方法として文法テストを用いることにより、「言語理解能力」はある程度測れるが、「言語産出能力」は測れない。

③本調査におけるフォローアップ・インタビューは、調査協力者全員に実施したのではなく、フォローアップ・インタビューに応じてくれた 23 名の調査協力者にしか実施していない。そのため、得られたフォローアップ・インタビューの結果が調査協力者全員の習得に関する要因を反映していない可能性があると言える。

④「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えている要因として、調査協力者の母語である「タイ語」と目標言語である「日本語」の知識しか言及していない。学習者が日本語を学習する前に学習した英語の知識が、日本語学習に影響を与える可能性も否定できないが、本研究では、学習していた英語の知識の影響は見ることができなかった。

以上の問題点を考慮に入れて、今後の課題として以下のことを挙げ、それらを踏まえて研究を進めていきたい。

①一般化できるようにするために、タマサート大学だけではなく、更に様々な大学の日本語学習者も対象として調査を実施したい。また、調査対象者の人数も増やしたい。

②「調査協力者が正しく理解できているかどうか」だけではなく「調査協力者が正しく使用できているかどうか」を測るために、「言語産出能力」を測るテストも「言語理解能力」を測るテストと一緒に実施したい。

③フォローアップ・インタビューの際、調査協力者全員に実施できるようにしたい。
困難な場合、妥当性が確保できる方法を検討したい。

④タイ語と日本語の知識だけではなく、英語の知識も「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えている可能性があるため、関連する英語の知識が「結果状態」の「テイル」にどのように影響を与えているかを明らかにしたい。

8.3　日本語教育現場への提言

本調査の結果を以下の 5 点にまとめる。そして、本調査の調査結果を日本語教育現場においてどのように活かせるかを提言したい。

① 本調査では、日本語の「結果状態」の「テイル」を、それに対応するタイ語の文法形式で分類すれば、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループに分類できる。また、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループにおいては、習得難易度が異なっており、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの方が習得が困難である。

② 「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの習得においては、学習者の「lɛ́ɛw＝過去」という「lɛ́ɛw」に関する間違った知識（「負の転移」）が「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えている。「動詞（＋yùu)」のグループの習得においては、タイ語の「yùu」が「結果状態」の「テイル」の習得にプラスに働いている（「正の転移」)。

③ 日本語の「結果状態」の「テイル」は、タイ人日本語学習者にとっては「状態」ではなく「ただの過去の出来事」として捉えられており、タイ語母語話者と日本語母語話者の認識の仕方が異なっていることが窺えた。

④ 「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの習得においては、「「進行」との混同」が見られており、タイ人日本語学習者にとって「テイル」が「結果状態」の用法より「進行」の用法との結びつきの方が強い。

⑤ 動詞の種類によって「進行」の「テイル」になるか、「結果状態」の「テイル」になるかが決まるが、本調査の調査結果から、学習者がこのことを知らない可能性がある。

以上の学習者の現状を基に、「結果状態」の「テイル」を指導する際に必要であると考えられる説明と導入方法の説明を加え、日本語教育現場への提言を結びの言葉とし本稿を締めくくりたいと思う。「結果状態」の「テイル」を導入する際に必要であると考えられる説明を以下に挙げる。

①「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式に「動詞＋lɛ́ɛw」のグループと「動詞（＋yùu)」のグループがあることを学習者に気付かせること

「結果状態」の「テイル」は初級で導入される文法形式である。初級の段階においては学習者の持っている目標言語の知識が不足しているため、自分の母語の知識に頼る傾向があることが考えられる（Corder1983)。つまり、「結果状態」の「テイル」が導入される初級の段階では、学習者が母語であるタイ語の知識を用いて日本語の「結果状態」の「テイル」を理解しようとしていることが考えられる。そこで、学習者により正しく「結果状態」

の「テイル」を理解させるために、「結果状態」の「テイル」に対応するタイ語の文法形式には「動詞＋lɛ́ɛw」と「動詞（＋yùu)」があることを説明する必要があると考えられる。

②「lɛ́ɛw」は「過去」ではなく「完了」という意味であることを学習者に気付かせること

本調査の結果から、タイ語の助動詞である「lɛ́ɛw」と「yùu」が「結果状態」の「テイル」の習得に影響を与えていることが分かった。「yùu」においては「正の転移」が見られ習得が容易であることが分かったが、「lɛ́ɛw」においては「負の転移」が見られ「lɛ́ɛw」に関する間違った知識が「結果状態」の「テイル」習得を困難にしていることが窺えた。そこで、「結果状態」の「テイル」を導入する際に、「「lɛ́ɛw」は「過去」ではなく「完了」である」ことを学習者に説明する必要があると考えられる。つまり、「タイ語に訳して「lɛ́ɛw」が使用されるからといって、必ずしも「過去」になるとは限らない」ということを説明する必要があると考えられる。

③「結果状態」の「テイル」に関するタイ語母語話者と日本語母語話者の認識の仕方の違いを学習者に説明すること

フォローアップ・インタビューを実施することにより、「結果状態」として捉えられる状況は、タイ人日本語学習者にとっては「状態」ではなく「ただの過去の出来事」として捉えられていることから、「結果状態」においては、タイ語母語話者と日本語母語話者の間に認識の仕方に違いがあることが分かった。目標言語の母語話者の認識や見方を理解することによって母語話者の言語使用に近づくことになることも考えられるため、タイ語母語話者と日本語母語話者の「結果状態」における認識の仕方の違いを学習者に説明する必要があると考えられる。

④タイ人日本語母語話者がよく間違える例文を挙げながら「テイル」の「進行」と「結果状態」を比較して説明すること

フォローアップ・インタビューの結果から、「動詞＋lɛ́ɛw」のグループにおいては「「進行」との混同」が見られ、タイ人日本語学習者にとって「進行」と「結果状態」の使い分けが難しいことが分かった。そこで、「結果状態」の「テイル」を導入する際にタイ人がよく間違える「結果状態」の「誤用」を挙げながら説明するといいだろう。例えば、「傷が治っている」はタイ人日本語学習者にとって「傷が治っておらず、治りつつある」と「進行」と

勘違いされがちであるが、正しくは「傷が過去に治って、現在は完全に治っている状態（「もう痛くない」などの説明を加えながら）である」と説明するなどである。

⑤動詞の種類によって「進行」の「テイル」になるか「結果状態」の「テイル」になるかが決まることを学習者に説明すること

フォローアップ・インタビューにおいて「動詞の種類」について言及する調査協力者がいなかったことから「動詞の種類によって「進行」の「テイル」になるか「結果状態」の「テイル」になるかが決まる」ということが調査協力者に知られていないことが推測できる。菅谷（2003）や阿（2009）は、「似ている」「持っている」「知っている」などのように生活の中でよく遭遇する動詞の場合はかたまりとして覚えられるものがあると述べているが、遭遇頻度の低い動詞に遭遇した際は正しく「結果状態」の「テイル」を使用できない可能性があることが想定できるだろう。そこで、学習者が自分の使用したことのない動詞を正しく「結果状態」の「テイル」に使用できるようにするために、動詞の種類について説明する必要があると考えられる。ピャマーワディー（1981a）は、他動詞と自動詞の区別を用いた教授法を挙げている[61]が、ピャマーワディーの教授法は「開く」と「開ける」など自他対応のある動詞の場合しか適応できず、「腐る」など自他対応のない動詞の教え方に関しては言及されていない。「テイル」における動詞の種類の導入の仕方に関しては市川（2005）において言及されている。市川は、金田一（1950）の動詞の分類[62]を「日本語教育にとっては分かりやすい」ことを理由にして導入することを勧めている。つまり、「継続動詞＋テイル＝進行」と「瞬間動詞＋テイル＝結果状態」と説明して導入すればいいと述べている。しかし、金田一の「瞬間動詞＋テイル＝結果状態」の「瞬間動詞」の用語が説明として適切であるかどうかという疑問が生じる。本調査の文法テストにおいて扱った動詞の中には、「混む」や「治る」や「過ぎる」など「瞬間動詞」として考えにくい動詞があることに気

---

61 「テイル」の教え方として「自動詞と他動詞が「開ける」、「開く」のように、形態的に対立している時、他動詞の「シテイル」は「進行」を、自動詞の「シテイル」は「結果状態」を表す。「結果状態」を表す多くの動詞は自動詞であるため、学習者を混乱させないように、単に他動詞と自動詞の用法として覚えさせればよい。

62金田一（1976）は、「テイル」をつけて意味がどう変わるかによって、動詞を次のように分類している。
①継続動詞（食べる・書く・勉強する、など）→「進行」を表す
②瞬間動詞（死ぬ・開く・つく・止まる、など）→「結果状態」を表す
③存在を表す動詞（ある・いる）→テイルが付かない
④第四種の動詞（（水が）澄んでいる、（角が）とがっている、など）→常にテイルが付いて形容詞としての意味を表す

が付くだろう。例えば、「混む」は「バスが一瞬で混む」より「少しずつ混む」の方が一般的に考えられるのではないだろうか。そこで、金田一（1950）の「瞬間動詞」の用語より仁田（2009）の「主体変化動詞」という用語を用いた方が学習者にとって分かりやすいと考えた。

この 5 点を踏まえて、本調査から得られた結果に基づいて「結果状態」の「テイル」の導入方法を紹介する。

まず、タイ語にも動詞の自他対応の概念があることから、自他対応のある動詞から説明をする。「自他対応のある動詞の場合、「他動詞＋テイル＝進行」で「自動詞＋テイル＝結果状態」」と例を挙げながら説明する。

例：　田中さんはドアを開けている　＝　「進行」

説明：「開ける」が他動詞であるため、「テイル」と組み合わさると「進行」になる。つまり、今田中さんはドアを開けている最中である。

ドアが開いている　＝　「結果状態」

説明：「開く」が自動詞であるため、「テイル」と組み合わさると「結果状態」になる。つまり、ドアが過去に開いてその状態が現在まで続いている。

次は、自他対応のない動詞について説明する。「継続動詞＋テイル＝進行」で「主体変化動詞＋テイル＝結果状態」と説明する。初級の日本語学習者にとっては「主体変化動詞」が難しすぎることも考えられるため、その場合は「変化動詞」と説明してもいいと考えられる。ここで、「「進行」との混同」を防ぐために、タイ人日本語学習者の「結果状態」の間違った解釈の例を挙げる。

例：　「歩いている」　→　歩く　＋　テイル　＝　「進行」

説明：「歩く」は継続動詞（主体に変化がない）であるため、「テイル」と組み合わさると「進行」になる。つまり、動作主が今歩いている最中である。

「腐っている」　→　腐る　＋　テイル　＝　「結果状態」

説明：「腐る」は主体に変化があるため、「テイル」と組み合わさると「結果状態」になる。例えば、「マンゴーが腐る」場合は、「マンゴーが腐っていない状態」から「マンゴーが腐る状態」に変化があるため、「腐る」は「主体変化動詞」

になる。したがって、「マンゴーが腐っている」は「マンゴーが過去に腐ってその状態が現在まで続いている（目に見えている）。

間違った解釈の例：「映画が終わっている」

説明：この文章を見ると「映画がまだ終わっておらず、終わろうとしている」と解釈するタイ人日本語学習者が多いが、正しくは「映画が過去に終わって、その終わった状態（例えば、「キャストが出ている」や「周りの人が帰り始めている」など）が現在まで続いている。

そして、学習者にタイ語の助詞である「lɛ́ɛw」と「yùu」を意識してもらうために、「lɛ́ɛw」と「yùu」と照らし合わせながら、タイ人日本語学習者がよくする誤用の例を挙げて説明する。その後、「結果状態」の状況に対するタイ語母語話者と日本語学習者の認識の仕方の違いについても加えて説明する。「動詞＋lɛ́ɛw」のグループの導入例として、文法テストにおいて扱った「届く」の問題を用いて説明する（資料 3 を参照されたい）。

（太郎が大学から家に帰ってきた）
太郎：は～、今日は疲れたー。
（部屋の中を見て）あ！この間注文したカバンが_____！
【1. 届く　2. 届いた　3. 届いている　4. 届いていた】

説明：この問題の正解は「届いている」であるが、「届いた」を選ぶタイ人日本語学習者が多い。「なぜ、「届いた」が正しいのか」と質問したら、「カバンが過去に届いたから（phrɔ́wâa krapǎu maasòŋ lɛ́ɛw nai adìit[63]）」と答える人が最も多い。つまり、タイ語母語話者はこの出来事を「ただの過去に起きた出来事」として捉えるのに対し、日本語母語話者は「過去にカバンが届いて、その届いたカバンが今部屋に置いてある状態」として捉える。つまり、過去に起きた出来事でも、その出来事が現在に何かのつながり・効力がある場合は、日本語母語話者は「現在の状態」として捉える。このタイ語母語話者と日本語母語話者の認識の仕方の違いを覚える必要がある。さらに、タイ語の「lɛ́ɛw」は、「過去」である

[63] phrɔ́wâa krapǎu maasòŋ lɛ́ɛw naiadìit
（理由）　カバン　届く　（完了）　過去に

と勘違いされがちであるが、実際は「過去」ではなくて「完了」という意味である。そのため、日本語の文を作る時にタイ語の文では「lɛ́ɛw」が使用されているからといって、日本語に訳す時に「タ」が使用されるとは限らないと気をつける必要がある。

「動詞（＋yùu)」のグループの導入例として、本調査の文法テストにおいて扱った「濡れる」の問題を用いて説明する（資料 3 を参照されたい)。

さっき誰(だれ)かが水をこぼしたから、床(ゆか)が＿＿＿＿＿＿よ。気をつけてね。
【1. 濡(ぬ)れる　　2. 濡(ぬ)れた　　3. 濡(ぬ)れている　4. 濡(ぬ)れていた】

説明：この問題の正解は「濡れている」である。これをタイ語に訳すと「phɯ́ɯn　pìiak yùu[64]」になる。このように、状態を表す際に、タイ語では「yùu」が使用される場合はそのまま日本語の「結果状態」の「テイル」が対応しているわけである。

最後に、教材分析において前述したように、本調査の調査協力者が「結果状態」の「テイル」を学習する際に使用したと考えられる教材である『みんなの日本語』と『あきこと友だち』で扱われる動詞に偏りが見られ、特に『あきこと友だち』の「結果状態」の「テイル」が導入される第 13 課で扱われる動詞が「(制服を）着ている」「(めがねを）かけている」など人の外見や性質を表す表現に使用する動詞に偏っている(7.3.2 を参照されたい)。そのため、日本語教師が「開いている」「折れている」「壊れている」など、人ではなく物の状態を表す動詞を導入する必要があるだろう。

本研究では、主に文法テストとフォローアップ・インタビューを実施することによって、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得状況の一部を明らかにし、タイ人日本語学習者の「結果状態」の「テイル」の習得に調査協力者の母語であるタイ語やタイ語の概念が影響を与えていることが分かり、それらの結果から日本語教育への提言をした。本研究の研究結果が活用され、少しでもタイにおける日本語教育の役に立てば幸いである。

---

[64] phɯ́ɯn　pìiak　yùu
　　床　　濡れる　いる

参考文献

阿拉塔（2009）「日本語学習者によるアスペクト形式『テイル』の習得—動詞形習得との関係を中心に—」『民族社会研究』6、pp.55-81.広島大学

阿拉塔（2010）「日本語学習者によるアスペクト形式『テイル』の習得—副詞との関係を中心に—」『比較文化研究』94、pp.27-34.日本比較文化学会

庵功雄（2001）『新しい日本語学入門　ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク

猪崎保子（1994）「日本語学習者の作文にみられるヴォイス・アスペクト・ムードの習得：ケーススタディ」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』pp.197-215.東京外国語大学

市川保子（2005）『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

_____（2007）『中級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク

稲垣俊史（2011）「中国語話者による日本語のテンス・アスペクトの習得について—アスペクト化説からの考察—」『中国語話者のための日本語教育研究』2、pp.15-26.日中言語文化出版社

インモウテッ（2011）「ミャンマー語を母語とする日本語学習者を対象としたアスペクト表現「テイル」の横断研究」『日本言語文化研究会論集』7、pp.85-109.日本言語文化研究会

大関浩美（2015）「第二言語学習者の文法習得」『日本語学　臨時増刊号』34-14、pp.30-39.明治書院

オックスフォード・レベッカ .L（1994）『言語学習ストラテジー—外国語教師が知っておかなければならないこと—』凡人社

甲斐田和子（2008）「タイ語母語話者における日本語授受動詞の習得研究—「くれる」使用を中心に—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』5、pp.47-56

簡卉雯（2012）「動詞の意味特徴からみる「ている」の「結果の状態」用法の習得」『日本語／日本語教育研究 3　2012』pp.245-259

簡卉雯、中村渉（2010a）「『テイル』の習得過程に関する事例研究—難易度を左右する要因を中心に—」『国際文化研究』16、pp.45-56

_____（2010b）「台湾人日本語学習者の「ている」の習得に関する縦断研究—「結果の状態」の用法を中心に—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5、pp.83-92

許夏珮（1997）「中・上級台湾人日本語学習者による『テイル』の習得に関する横断研究」『日本語教育』95、pp.37-48
_____（2000）「自然会話における日本語学習者による「テイル」の習得研究—OPI データの分析結果から—」『日本語教育』104、pp.20-29
_____(2002)「日本語学習者によるテイタの習得に関すう研究」『日本語教育』115、pp.41-50
_____（2005）『日本語学習者によるアスペクトの習得』くろしお出版
金田一春彦（1976）『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
工藤真由美（1982）「シテイル形式の意味のあり方」『日本語学』1-2、pp.38-47
_____（1995）『アスペクト・テンス体系とテクスト：現代日本語の時間と表現』ひつじ書房
黒野敦子（1995）「初級日本語学習者における『-テイル』の習得について」『日本語教育』87、pp.153-164
江田すみれ（2013）『「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト—異なるジャンルのテクストにおける使用状況とその用法—』くろしお出版
小柳かおる(2008)『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク
国際交流基金（2008）『教材開発』ひつじ書房
_____（2010）『文法を教える：実際の場面で使えるようになるために』ひつじ書房
_____（2010）『教え方を改善する』ひつじ書房
_____（2011）『文字・語彙を教える』ひつじ書房
_____（2011）『中・上級を教える』ひつじ書房
崔亜珍（2009）「SRE 理論の観点から見た日本語テンス・アスペクトの習得研究—中国人日本語学習を対象に—」『日本語教育』142、pp.80-90
迫田久美子（2002）『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
佐野富士子、岡秀夫、遊佐典昭、金子朝子（2011）『第二言語習得—SLA 研究と外国語教育—』大修館書店
塩川絵里子（2007）「日本語学習者によるアスペクト形式『テイル』の習得—文末と連帯修飾節との関係を中心に—」『日本語教育』134、pp.100-109
J.V.ネウストプニー(1999)「言語学習と学習ストラテジー」『日本語教育と日本語学習—学習ストラテジー論に向けて—』pp.3-21　くろしお出版
柴田美紀（1998）「日本語学習者の談話におけるテンス・アスペクトの形態素の使用について」『第二言語としての日本語の習得研究』2、pp.68-102

清水崇文(2009)『中間言語語用論概論—第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育—』スリーエーネットワーク

徐莉（2005）「アスペクト表現の「～ている」に関する習得研究－中・上級の中国人日本語学習者の場合－」『比較社会文化研究』17、pp.85-91.九州大学

白井恭弘（2002）「第二言語習得におけるアスペクト仮説と日本語習得」『第二言語としての日本語の習得研究』5、42－61

白畑知彦、若林茂則、村野井仁（2010）『詳説　第二言語習得研究—理論から研究法まで—』研究社

菅谷奈津恵（2003）「日本語学習者のアスペクト習得に関する縦断研究—『動作の持続』と『結果状態』のテイルを中心に—」『日本語教育』119、pp.65-74

_____（2004a）「文法テストによる日本語学習者のアスペクト習得研究—L1 の役割の検討—」『日本語教育』123、pp.56-65

_____（2004b）「第二言語の生産的言語能力獲得におけるかたまりの役割—日本語の動詞活用を中心に—」『言語文化と日本語教育.増刊特集号、第二言語習得・教育の研究最前線』pp.110-123.日本言語文化学研究会

_____（2005a）「第二言語としての日本語のアスペクト習得研究概観—『動作の持続』と『結果の状態』のテイルを中心に—」『言語文化と日本語教育 2002 年 5 月特集号』pp.70-86

_____（2005b）「日本語のアスペクト習得に関する研究の動向」『言語文化と日本語教育.増刊特集号、第二言語習得・教育の研究最前線』pp.39-67.日本言語文化学研究会

菅谷有子（1999）「中国人学習者のテンス・アスペクトの誤用：連体修飾節を中心に」『文学部紀要』13（1）、pp.19-39.文教大学

鈴木孝明・白畑和彦（2012）『ことばの習得－母語獲得と第二言語習得－』くろしお出版

砂川有里子（1986）『日本語文法セルフマスターシリーズ 2　する・した・している』くろしお出版

盛文淵、吉本啓（2010）「中国語母語話者による日本語名詞修飾節中のテンス・アスペクト表現の習得研究—ル形とタ形を中心に—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』5、93-100

セーリム・パンニー（2012a）「有対自動詞の可能表現の誤用に関する一考察－タイ語母語話者の日本語学習者を対象として－」『日本研究論集』5、pp.34-53.チュラーロンコー

ン大学・大阪大学
_____（2012b）「タイ語を母語とする日本語学習者の「自動詞の可能形」の誤用に関する一考察－行為の結果の状態の表現を中心に－」『日本語・日本文化研究』22、pp.185-198.大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻
孫敦夫（2012）「アスペクトの情報伝達機能—「タ」形と「テイル」形を中心に—」『青山語文』42、pp.41-53.青山学院大学
孫猛、小泉政利、玉岡賀津雄（2010）「第二言語としての「テイル」の習得における語彙・文法能力の役割」『東北大学言語学論集』19、pp.47-59
孫猛、小泉政利、玉岡賀津雄、宮岡弥生（2010）「第二言語としての「テイル」の習得におけるプロトタイプの形成」『言語科学論集』14、pp.27-38.東北大学大学院文学研究科言語科学専攻
高見健一、久野暲（2006）『日本語機能的構文研究』大修館書店
竹内理、水本篤（2012）『外国語教育研究ハンドブック—研究手段のより良い理解のために—』松柏社
タサニー・メーターピスィット、坂田睦深、アルニー・チュンシリウィロート（2000）「タイ人日本語学習者のアスペクト表現」『日本語とアジア諸言の作文対訳コーパス：対照言語学・日本語教育への応用』pp.81-94.国立国語研究所
田中寛（2002）『対照言語学的手法・視点にもとづく、日本語とタイ語の基本語彙・文法に関する比較研究』大東文化大学外国語学部日本語学科
_____（2003）「タイ語テンス・アスペクト論序説—日本語との対照研究の視点から—」『語学教育フォーラム』8、pp.49-77
ダナサーンソムバット・ジャルナン(2002)「タイ人日本語学習者における日本語の場所を表す『に』と『で』の習得—穴埋めテストとインタビューを通して観察した結果—」『日本語・日本文化研究』12、147-159.大阪外国語大学日本語講座
_____(2003）「日本語学習者における場所を表す「に」と「で」の習得研究—タイの大学における調査—」大阪大学大学院修士論文
_____（2008）「タイ人日本語学習者の場所を表す『に』と『で』の習得—言語処理のストラテジーを中心に—」『日本語・日本文化研究』18、85-94.大阪大学『日本語・日本文化研究』編集委員会
陳建瑋（2014）「日本語のアスペクト形式「テイル」の習得に関する横断研究：動詞の語

彙的アスペクトによる影響について」『言葉と文化』15、pp.31-47.名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻
陳昭心（2009）「「ある／いる」の「類義表現」としての「結果の状態のテイル」—日本語母語話者と中国語を母語とする学習者の使用傾向を見て—」『世界の日本語教育』19、pp.1-16
テーウィット・サウェットアイヤラム(2008)「タイ人日本語学習者の受身の習得」『言葉と文化』9、pp.187-204.名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻
_____（2009）「受身文の談話機能の習得—タイ人日本語学習者を対象に—」『第二言語としての日本語の習得研究』12、pp.107-126.凡人社
寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
_____（1984）『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
寺村秀夫、鈴木泰、野田尚史、矢澤真人（1987）『ケーススタディ日本文法』おうふう
ドゥアンケーオ・パオサタポーン（2012）「タイ人日本語学習者のテイルの習得－「結果の状態」に着目して－」『日本語・日本文化研究』22、pp.227-240.大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻
_____（2013）「タイ人日本語学習者の「テイル」の習得—「動作の持続」と「結果の状態」を中心に—」大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻修士論文
ニチャラー・クルアパーン（2013）「タイ人日本語学習者による「テイル」の使用に関する研究－「結果の状態」の用法を中心に－」『日本研究論集』7、pp.195-209.チュラロンコーン大学・大阪大学
仁田義雄（1983）「動詞とアスペクト—語彙論的の観点から—」『計量国語学』14-3、pp.113-128
_____（1997）『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して—』くろしお出版
_____（2002）『新日本語文法選書 3　副詞的表現の諸相』くろしお出版
_____（2009）『日本語の文法カテゴリをめぐって』ひつじ書房
日本語記述文法研究会（2007）『現代日本語文法 3』くろしお出版
_____（2009）『現代日本語文法 2』くろしお出版
野田尚史（1991）『はじめての人の日本語文法』くろしお出版
野田尚史、迫田久美子、渋谷勝己、小林典子（2001）『日本語学習者の文法習得』大修館書店
橋本ゆかり（2006）「日本語を第二言語とする英語母語幼児のテンス・アスペクトの習得

プロセスータ形・テイ形の使用についてー」『日本語教育』131、pp.13-22
バトラー後藤裕子（2011）『学習言語とは何かー教科学習に必要な言語能力ー』三省堂
浜田麻里（1999）「学習者はどのようなストラテジーを使っているか」『日本語教育と日本語学習—学習ストラテジー論に向けて—』pp.69-79　くろしお出版
ピャマーワディー・ラチャニー（1981a）「日・タイ語におけるテンスとアスペクトの比較対照—「～ル」「～タ」「～シテイル」「～シテイタ」について—」『日本語教育』44、pp. 81-88
_____（1981b）「日・タイ語のテンスとアスペクトの対照および教授法に関する一考察」『日本語と日本文学』1、pp.1-13.筑波大学
古川有理子（2008）「『初級日本語』における動詞テ形の整理：中級への橋渡しを目指して、テイル・テアル・テオクを中心に」『大阪外国語大学留学生日本語教育センター授業研究』6、pp. 47-56.大阪大学
松井一美（2008）「ロシア人日本語学習者のテイルの習得研究—「動作の継続」と「結果の状態」を中心に—」『創価大学別科紀要』19、pp.69-85.創価大学
三上直光（2002）『タイ語の基礎』白水社
宮本マラシー・村上忠良（2014）『タイ語』吹田：大阪大学出版会
柳沢浩哉（1992）「シテイル形式の報告性」『地域文化研究　広島大学総合科学部紀要』18、pp.53-74、広島大学総合科学部
山村ひろみ（2012）「現代日本語のテンス・アスペクトと否定—過去の「—シタ？」と「—シナカッタ」／「—シテイナイ」／「—シナイ」—」『言語科学』47、pp.61-81.九州大学大学院言語文化研究院言語研究会
吉川武時（1982）「日本語教育におけるテンス・アスペクトのあつかい」『日本語教育』12、pp.63-69.日本語教育学会
吉野文(1999)「文法的ストラテジー」『日本語教育と日本語学習—学習ストラテジー論に向けて—』pp.81-96　くろしお出版
ラッタナセリーウォン・センティアン（2011）「タイの日本語教育での「タ」」『日本語・日本文化研究』25、pp.216-226.大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻海外連携特別コース
_____（2012）「日タイ両語の継続を表す形式に関する一考察ー「テイル」と「kamlaŋ」、「yùu」を中心にー」『日本語・日本文化研究』22、pp.177-184.大阪大学大学院言語文

化研究科日本語・日本文化専攻
_____（2014）「日本語とタイ語のアスペクト形式に関する研究」大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻博士論文
李明華（2007）「シテイルの習得要因に関する一考察」『早稲田大学日本語教育研究』10、pp．83-92.早稲田大学大学院日本語教育研究科
李蓮花、劉麗芸（2007）「中国人日本語学習者の時制の誤用に関する分析」『岩大語文』12、pp.67-62.岩手大学
ワライポーン・リアンジット（1998）「タイ語と日本語のアスペクトの対照研究－yùuと「～ている」について－」麗澤大学大学院言語教育研究科日本語教育学専攻

Chomsky, N. (1975) Reflections on Language. New York: Panthoeon.
_____(1980) Rules and Representations. Oxford: Basil Blackewell.
Corder, P.(1983) A Role for the Mother Tongue. In Gass, S. and Selinker, L. (eds.) *Language Transfer in Language Learning.* Rowley: Mass. Newbury House.
Kasemsin, K. (1976) Chumnum Phasathai. Wong Sawang
Krashen, S. (1981) *Second language acquisition and second language learning.* Oxford: Pergamon.
Pienemann, M. (1998) *Language processing and second language development: Processability theory.* Armsterdam: John Benjamins.
Phongpaibun, S. (1963) Lak Phasathai. Phadungwit
Priya, A. (2011) Form-meaning associations in Japanese—Analysis of native and non-native corpus data--, *Kyoto university linguistic research* 30: pp.1-33
Richards, J. (1971) Error Analysis and Second Language Strategies. *Language Sciences* 17: pp12-22
Selinker, L. (1972) Interlanguage, *International Review of Applied Linguistics* 10: pp.209-231
Shirai, Y. (2003) The acquisition of tense-aspect morphology and the regular-irregular debate, *Acquisition of aspect*: pp.195-209

【参考テキスト】

国際交流基金バンコク日本文化センター（2004）『あきこと友だち』（第 1－6 巻），Kinokuniya Thailand

国際交流基金バンコク日本文化センター（2011）『日本語　あきこと友だち　単語集』,Kinokuniya Thailand

スリーエーネットワーク『みんなの日本語　単語集』、スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク編（1998a）『みんなの日本語』（初級Ⅰ（下））、スリーエーネットワーク

スリーエーネットワーク編（1998b）『みんなの日本語』（初級Ⅱ（上））、スリーエーネットワーク

【参考 URL】

「スリーエーネットワーク」

http://www.3anet.co.jp/（2015 年 08 月 17 日アクセス）

謝辞

本論文作成にあたり、大変お忙しい中、ご指導をいただきました真嶋潤子先生、宮本マラシー先生、堀川智也先生、チューターの橋本凜さんに心よりお礼申し上げます。主指導教官である真嶋潤子先生には、私が日本に来たときから７年に渡り研究のご指導をいただきまして大変感謝しております。特に幅広い見解からのご指摘と学生に情熱を持って指導されるお姿は、私の理想の教師像になりました。副指導教官である宮本マラシー先生には、研究や日本での生活に行き詰った時、同じタイ人として相談に乗っていただいたことに心よりお礼申し上げます。副指導教官である堀川智也先生には、日本語学に関する知識と、それらを日本語教育学へ応用する方法などを教えていただき大変感謝しております。チューターの橋本凜さんには、日本語のチェックをしていただき感謝しております。

また、本研究の調査のお願いを快く引き受けてくださいましたタマサート大学教養学部日本語学科の Piyanuch 先生、Patcharaporn 先生、Sayan 先生、Siriwon 先生及びタマサート大学の調査協力者としてご協力をいただいた学習者の皆様には深く感謝いたします。

最後に、あたたかい応援や励ましを絶えず送り続けてくれた家族、友人、先輩そして後輩に心から感謝いたします。

2015 年 12 月 8 日　ドゥアンケーオ　パオサタポーン

稿末資料

資料１：予備調査の質問紙調査

文法性判断テスト

以上の下線部のところは文法的に正しいでしょうか。正しくないと判断した場合は正しい答えを書いてください。

1.（2 人の学生が話しながら学校に向(むか)う途中(とちゅう)）

学生 A：今何時？

学生 B：10 時だよ。

学生 A：えー、もう授業始(じゅぎょうはじ)まっているじゃない。急(いそ)がないと！

1）正しい　　2）正しくない

正しい答え：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2.（2 人が友達を待(ま)っている）

A：木村さんまだ来てないの？

B：木村さんならもう着(つ)いたよ。

1）正しい　　2）正しくない

正しい答え：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3.（2 人が部屋(へや)の中で話している）

A：さっき来た時はすごい雨(あめ)だったねー。

B：そうだね。傘(かさ)持(も)ってきてないし、このままじゃ帰(かえ)れないかも。

A：（外(そと)を見て）大丈夫だよ。もう止(や)んでいるから！

1）正しい　　2）正しくない

正しい答え：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4. A：ねえねえ、ソムチャイさんのこと聞(き)いた？

B：ううん、何も聞いてないよ。何かあったの？

A：もう離婚(りこん)したそうよ。

B：えー、本当に？！去年結婚(きょねんけっこん)したばかりなのに。

1）正しい　　2）正しくない

正しい答え：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

5. A：先週(せんしゅう)、あなたインターネットで鞄(かばん)を注文(ちゅうもん)したよね？

B：うん、もう届(とど)いているよ。明日(あした)持(も)ってくるね？

1）正しい　　2）正しくない

正しい答え：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

翻訳テスト

提示されてある状況を想像しながら、「」の中にある「タイ語」を「日本語」に訳してください。

1. คุณไปดูหนังกับเพื่อน ระหว่างที่กำลังดูหนังคุณเผลอหลับไป พอคุณตื่นขึ้นมาพบว่าหนังได้จบไปแล้ว

あなたは友達と映画を見に行きます。映画の上映中にあなたは寝てしまった。起きた時は映画がもう終わっていることに気が付いた。

「อ้าว หนังจบแล้วนี่นา」→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（正解：あ、映画終わっているじゃない。）

2. คุณกำลังถามถึงคุณโยชิดะจากเพื่อนอีกคน

あなたは吉田さんのことについて別の友達から聞いている。

「คุณโยชิดะเข้าโรงพยาบาลตั้งแต่เดือนที่แล้วครับ」→

（正解：吉田さんは先月から入院しています。）

3. คุณเข้าไปในห้องเรียนแล้วพบว่ามีดินสอตกอยู่ที่พื้น

あなたは教室に入りました。そこで、ペンが床に落ちていることに気が付いた。

「ในห้องเรียนที่พื้นมีปากกาตกอยู่」→＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（正解：教室にペンが落ちている。）

4. คุณไปหาเพื่อนชาวจีนที่บ้านแต่ได้พบว่าเพื่อนคนนั้นกลับจีนอยู่

あなたは中国人の友達の家を訪ねたが、その友達が帰国していることが分かった。

「คุณหวังกลับประเทศอยู่ตั้งแต่สัปดาห์ที่แล้วครับ ปลายเดือนหน้าถึงจะกลับมาที่ญี่ปุ่นครับ」→

（正解：王さんは先週から帰国しています。日本に戻ってくるのは来月末になります。）

5. คุณเผลอหลับไประหว่างโดยสารรถเมล์ พอตื่นขึ้นมาคุณพบว่ารถเมล์ได้เลยป้ายที่คุณต้องการจะลงไปแล้ว

あなたはバスに乗っている間に寝てしまった。起きた時は、バスがあなたの降りたいところを過ぎていることに気が付いた。

「อ้าว เลยป้ายแล้วนี่นา」→_____

（正解：あ、過ぎている。）

6. คุณกำลังจะเขียนรายงานแต่พบว่าคอมพิวเตอร์ของคุณเสียอยู่

あなたはレポートを書こうとした。そうしたら、パソコンが壊れていることに気が付いた。

「อ้าว คอมพิวเตอร์เสียอยู่นี่นา อย่างนี้ก็เขียนรายงานไม่ได้น่ะสิ」→_____

_____

（正解：あ、パソコンが壊れている。レポートが書けないじゃないか。）

多肢選択テスト

正しいと思ったものをすべて選びなさい。

1. ミント：ノンさん、先週転んで怪我したと聞いたよ。

ノン：うん、傷は結構深かったけど、もう大丈夫だよ。ほら、見て！

ミント：おー。本当だー。傷が_____！よかったねー！

【1. 治る　2. 治った　3. 治っている　4. 治っていた】

2. 三浦：この間買ったマンゴーを食べようー。

佐藤：そうだね。マンゴーは箱の中だよ。

三浦：（箱を開けて）あー、_____よ。もっと早く食べればよかった。

【1. 腐る　2. 腐った　3. 腐っている　4. 腐っていた】

3. 木村さんの妹は去年東京大学を_____。

【1. 卒業する　2. 卒業した　3. 卒業している　4. 卒業していた】

4.（父親が仕事から帰ってきたところ）

娘：お父さん、宿題を教えてー。

父：ちょっと待ってね。今教えるから。

母：お父さんは__から、後にしなさい。

【1. 疲れる　2. 疲れた　3. 疲れている　4. 疲れていた】

5. 母：明日のパーティーに何を着ていくの？もう準備できてる？

娘：うん、ピンクのドレスを着ていくよ。

母：あ、それはだめよ。あの服は_____から、別の服にしたらどう？

【1. 汚れる　2. 汚れた　3. 汚れている　4. 汚れていた】

6. さっき誰かが水をこぼしたから、床が_____よ。気をつけてね。

【1. 濡れる　2. 濡れた　3. 濡れている　4. 濡れていた】

7. 息子：お母さん見なかった？

父：お母さんならさっき_____よ。

【1. 出かける　2. 出かけた　3. 出かけている　4. 出かけていた】

8.（山田さんと西田さんが土田先生と約束があった。約束の日に先生の家の前に着いて何度もノックしたが、誰も出てこない。）

山田：おかしいなー。今日会う約束なのに。

西田：電気が_____から、まだ外かもしれないね。

【1. 消える　2. 消えた　3. 消えている　4. 消えていた】

9. チャイ：今日暑いねー。かき氷食べたいなー。

イン：それいいねー。さっき氷買ってきたから、かき氷作ろう！

チャイ：（アイスボックスの中を見て）あー！アイスボックスを閉じていなかったから、氷が溶けて水に_____よ。

イン：じゃ、ジュースにしよう。

【1. なる　2. なった　3. なっている　4. なっていた】

10. ゆうべは遅くまで仕事したから、家に帰ったらすぐ＿＿＿＿＿＿＿。

【1. 寝る　　2. 寝た　　3. 寝ている　　4. 寝ていた】

11. ボーイ：あ！バス来ましたよ！乗りましょう。

ノーイ：うーん、すごく＿＿＿＿＿＿＿＿なー。次のバスを待ちましょう。

ボーイ：確かに満員ですね。次のバスを待ちましょう。

【1. 混む　　2. 混んだ　　3. 混んでいる　　4. 混んでいた】

資料 2：予備調査のフォローアップ・インタビューにおける調査協力者の選択理由

「始まる」

調査協力者	選択した理由
1	勘で選んだ。「始まっている」も「始まった」も同じ意味であるが、実際に使う時は「始まった」を選んでしまうかもしれない。
2	「授業が始まる」が過去に起きたから、「始まった」が適切である。「始まっている」は「始まっておらず、始めようとしている」という気がする。
3	「始まっており、まだ終わっていない」と思ったから、「始まっている」が適切だと思った。「始まった」も正しいと思う。「始まっている」と「始まった」の違いは説明できない。
4	授業が始まるのは過去だから。「始まる」という動詞は瞬間動詞のため、「テイル」を使うと期間になり、誤用になる。「始まっている」は始まろうとしているという意味である（まだ始まっているない）。
5	どちらも同じで「授業が始まる」が起こるのは過去であるが、「始まっている」は「始まってまだあまり時間が経っていない」という意味で、「始まった」は「授業の開始時間が過ぎており、もう間に合わない」という強調をするだけである。
6	「先生が教えている」から「始まっている」が適切である。「始まった」も正しいが、不自然な気がする。どちらも「授業が始まっている」という意味である。「始まった」は「授業は過去に始まったが、今は終わっているかどうか分からない」という意味である。
7	「始まっている」はよく先生に言われるから。「始まっている」は「始まったばかり」という意味で、「始まった」は「いつ始まったか分からないがもう始まっている」という意味であるが、実際に使う時は区別して使っていない。
8	「始まっている」は「始まってしばらく経っている」時に使い、「始まった」は「始まったばかり」の時に使う。この場合はどちらも正しい。
9	「授業が始まる」が過去に起きたから、「始まった」が適切である。「始まっている」は聞いたことあるが、どんな時に使うか分からない。
10	「授業が始まる」が過去に起きたから、「始まった」が適切である。「始まっている」は「始まっておらず、始まろうとしている」という気がする。
11	聞いたことがあるから、選んだ。「始まった」も正しい気がするが、違いは説明できない。

「止む」

1	勘で選んだ。「止んでいる」も「止んだ」も「雨は降っていない」という点で共通しているが、実際に使う時は「止んだ」を選ぶ。
2	「雨が止む」が過去に起きたから、「止んだ」が適切である。「止んでいる」は「まだ止んでおらず、止もうとしている」という気がする。
3	「止んでいる」の意味は「雨はまだ少し降っており止みかけている」という意味だから。「止んだ」は「もう降っていない」という意味である。
4	この場面だと、「止んだ」も「止んでいる」も正しい。「止んだ」は「もう降っていない」という意味で、「止んでいる」は止む直前という意味である。
5	「雨がもう降っていない」という意味でどちらも正しい。「止んでいる」の方がよく聞くから選んだ。「止んだ」はあまり聞かない。
6	「止んでいる」はよく聞くから選んだ。「止んだ」も聞いたことがあるが、「止んでいる」の方がよく聞く。「止んでいる」は「止んだばかりで、まだ状態として見えている」で、「止んだ」は「だいぶ過去に止んだ」という気がする。
7	「止む」は一瞬に起こるから、「止んだ」が適切である。「止んでいる」は「少しずつ止む」という意味である。
8	「止んだ」は「止む」を目撃した時に使い、「止んでいる」は「止む」をしばらく経ってから気付いた時に使うため、問題を読んだ時に「「止む」を目撃した」と理解したため、「止んだ」が正しいと判断した。つまり、「止む」にいつ気付くかによって使い分けている。
9	「止んだ」は、「しばらく前に止んだ」という意味で、「止んでいる」は、「雨が止む」を目撃した時に使う。この文脈では「雨がしばらく前に止んだ」と解釈したので、「止んだ」が適切である。
10	「雨が止む」が過去に起きたから、「止んだ」が適切である。「止んでいる」は「まだ止んでいない。止もうとしている」という気がする。
11	「止む」が過去に起きたから、「止んだ」が適切である。

「届く」

1	「届く」という出来事が過去に終わったから、「届いた」が適切である。そして、タイ語の「lέεw」の影響もあって「届いた」が正しいと判断した。
2	「届く」が過去に起きたから、「届いた」が適切である。「届いている」は「まだ届いておらず、発

	送中」という意味である。
3	「届いた」と「届いている」も同じで「荷物がもうここにある」という意味であるが、「届いた」の方が適切である。勘で選んだため理由は説明できない。
4	「届いている」は、「まだ届いておらず、発送中」という意味で、「届いた」は「もう手元にある」という意味である。「明日持ってくる」と言ったから「もう手元にある」という意味である「届いた」が正しい。
5	勘で選んだ。どちらも正しいと思う。
6	「届いている」は、「届いてまだ家にある」という意味であるが、「届いた」はただ「届いた」という出来事を描写するだけである。
7	「届いている」は、「まだ届いておらず、発送中か受け取りのサインを書いている」という意味で、「届いた」は「もう手元にある」という意味である。
8	どちらも正しいと思うが、「届いている」は「かばんが届いて家にある状態」を表し、「届いた」は「鞄が過去に届いたが、まだ家にあるかどうかまでは言及していない」という意味である。
9	「届いた」は「荷物が届いてしばらく時間が経っている」という意味で、「届いている」は「荷物が発話時に荷物が届いて受け取りのサインをしている」という時に使うため、「届いた」が適切である。
10	「荷物が届く」が過去に起きたから、「届いた」が適切である。「届いている」は「まだ届いておらず、発送中」という意味である。
11	「かばんが届く」が過去に起きたから、「届いた」が適切である。

「終わる」

1	「映画が終わる」が起こるのが過去だから「タ」を選択した。そして、タイ語では「lέεw」を使用するからである。「終わっている」は聞いたこともないし、普段使用しないだろうと思う。
2	「終わる」が過去に起きたから、「終わった」が適切である。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる直前」という意味である。
3	「終わる」が過去に起きたから。「終わっている」は説明できないが、絶対間違いだと思う。タイ語の「lέεw」も影響した。
4	タイ語を見て「lέεw」があるから、「もう＋終わった」と回答した（「もう」は「残念という気持ちを表す)。「終わっている」は、「まだ終わっておらず、終わる直前」という意味である。

5	どちらも正しいが、状況と話しての気持ちによって変わる（説明できない）。
6	勘で選んだ。「終わっている」より「終わった」の方がよく使うから。「終わっている」は「まだキャストが流れている」で、「終わった」は「しばらく終わってから起きて、キャストが流れ終わった」という意味である。つまり、「発話時」に近いかどうか。
7	「終わった」は「映画が完全に終わった」という意味で、「終わっている」は「映画がクライマックスを迎えて少しすれば終わる」という意味であるため、「終わった」が適切である。
8	「終わった」を選んだのは、「「終わる」に気付いたばかり」だからである。「終わっている」は、「終わってしばらく経ってから気付く」時に使うものであるため、この場合は不適切である。つまり、どちらも「すでに終わっている」という意味であるが、いつ「終わる」に気付くかで使い分ける。しかし、「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる直前」という意味もある。タイ語の「lεεw」の影響があった。
9	「終わっている」は映画が発話時に終わったばかりの時に使う。「終わった」は「発話時より前に終わった時に使う。この場合は、「終わった」が適切である。
10	「終わる」が過去に起きたから、「終わった」が適切である。
11	「終わる」が過去に起きたから、「終わった」が適切である。タイ語の影響はない。

「入院する」

1	「今も病院にいる」から、「入院している」が適切である。「入院した」は「今はもう病院にいない」という意味になる。
2	まだ病院にいるから、「入院している」が適切である。「入院した」は「もう退院している」という意味である。
3	まだ退院していないから。「入院した」は「まだ病院にいるかもしれないけど、この文章では言及していない」という意味になる。
4	「今病室のベッドで寝ている状態」を描写しているから「入院している」と回答した。「病院した」は「過去に入院して今はもう退院している」という意味である（「状態」ではなく「ただの出来事」を描写する）。
5	まだ病院にいるから、「入院している」が適切である。「入院した」の方が「入院する期間が長い」気がして、退院したかどうかは言及していない。
6	まだ病院にいるから「入院している」が適切である。「入院した」は、「もう退院している」という

	意味である。
7	まだ病院にいるから、「入院している」が適切である。「入院した」は、「入院していて、今はもう退院している」という意味である。
8	まだ病院にいるから、「入院している」が適切である。「入院した」は、「入院していて、退院したかどうかは分からない」という意味である。
9	「入院する」が過去に起きたから、「入院した」が適切である。「入院している」は「今」と一緒に使わなければならない。
10	「退院したかどうか」はどうでもよく「入院する」が過去に起きたから、「入院した」が適切である。
11	「入院する」が過去に起きたから、「入院した」が適切である。

「落ちる」

1	「ペンがまだ床にある」という状態を表しているから、「落ちている」が適切である。「落ちた」は「過去にペンが落ちていて今はもうない」という意味になる。
2	「ペンが落ちる」が過去に起きたから、「落ちている」が適切である。「落ちている」は「ペンが空中に浮いていて落ちている最中」という意味である。
3	ペンがまだ床にあるから。「落ちた」は「過去にペンが落ちて、今ペンがまだあるかどうかは言及していない」という意味である。「yuu」も少し影響があったが、なくても「落ちている」を選択する。
4	ペンの「状態」を表すから、「落ちている」が正しい。「落ちた」は「ペンが落ちる」を目撃した時に使う。
5	状態だから。「落ちた」は「ペンが落ちる」を目撃した時に使う。
6	状態で「ペンがまだ床にある」、「落ちている」が適切である。「落ちた」は「過去に落ちて今床にあるかどうか分からない。」という意味である。また「落ちた」は「どこに落ちたか分からない」時に使う。
7	「落ちている」はよく聞くから選んだ。「落ちている」は「目の前にペンが床に落ちている状態」を描写する時に使い、「落ちた」は「「ペンが落ちる」を目撃した時に使う。
8	落ちているという状態だから、「落ちている」が適切である。「落ちた」は「ペンが落ちる」を目撃した時に使う。タイ語の「yuu」の影響もあった。

9	初級の授業で習ったから、覚えている。「落ちた」は目の前に落ちた時に使う。
10	ペンが今でも床にあるから、「おちされている」が適切である。「落ちた」は「目の前にものが落ちた」時に使う。
11	よく聞くから。文法のことは考えなかった。

「帰国する」

1	「まだ国にいて、いつか日本に戻ってくる」から「帰国している」が適切である。「帰国した」は「もう日本に戻ってこない」という意味になる。
2	「帰国する」が過去に起きらから、「帰国した」が適切である。「帰国している」は「まだ中国に向かっている飛行機の中」という意味である。
3	まだ国にいるから、「帰国している」が適切である。「帰国した」はもう日本に帰ってこないという意味である。
4	「テイル」は、「中国にいる状態で、また日本に戻ってくる」という意味で、「帰国した」は「もう日本の戻ってこない」という意味である。
5	「帰国している」は「いつか戻ってくる」で、「帰国した」は「もう戻ってこない」という意味である。
6	まだ中国にいるから、「帰国している」が適切である。「帰国した」は「もう日本に戻ってきた」という意味である。
7	今国にいるから、「帰国していていつか戻ってくる」が適切である。「帰国した」は「もう戻ってこない」という意味である。
8	まだ国にいる状態でまだ日本に戻っていないから、「帰国している」が適切である。「帰国した」は「国に帰ってもう日本に戻ってこない」という意味である。
9	「帰国する」が過去に起きらから、「帰国した」が適切である。「帰国している」を使う場合は、「時を表す副詞」は使えない。
10	帰国していてまだ日本に戻ってきてないから、「帰国している」が適切である。「帰国した」も「帰国している」と全く同じだと思う。
11	まだ国にいるから、「帰国している」が適切である。

「通り過ぎる、過ぎる」

1	「通り過ぎる」が起こるのは過去だから、「通り過ぎた」が適切である。「通り過ぎている」は普段使わないと思う。
2	「通り過ぎる」が起こるのは過去だから、「通り過ぎた」が適切である。「通り過ぎている」は「バスとバス停が同じ位置で、通り過ぎている最中」という意味である。
3	「通り過ぎる」が起こるのは過去だから、「通り過ぎた」が適切である。「通り過ぎている」は普段使わないと思う。「通り過ぎている」は説明できないが、間違いだと思う。タイ語の「lɛɛw」も影響した。
4	「通った」を使ったのは、「通る」という出来事が過去に起きたから。「通っている」は「走っているバスがちょうどバス停と同じ位置にある」時に使用するから。タイ語の「lɛɛw」があるのも影響している。
5	「過ぎている」は状態を表すであろうが、この場面で使うのおかしい。
6	「バス停を過去に通り過ぎた」から、「通り過ぎた」が適切である。「通り過ぎている」は「バスがバス停と同じ位置で、「通り過ぎる」を目撃した」時に使う。
7	この場合はどちらも使えると思うが、強いて言えば「過ぎた」はただ「過去に「過ぎる」が起こった」ことを伝えるだけで、「過ぎている」は「過ぎている最中つまりバスの位置がバス停と同じ」という意味である。
8	「通った」は「「通る」にすぐ気付く」の時に、「通っている」は「「通る」にすぐ気付くのではなく、しばらく経ってから気付く」時に使うため、この場合は「通る」にすぐ気付いたから「通った」が適切である。「通っている」のもう一つの意味は、「バスがバス停と同じ位置にある」という意味である。
9	「過ぎる」が過去に起きたから、「過ぎた」が適切である。「過ぎている」は①「状態」を表す時にはあまり使わない②バスがバス停と同じ位置にある（過ぎている最中）時に使う。
10	「乗り越す」が過去に起きたから、「乗り越した」が適切である。
11	「過ぎる」が過去に起きたから、「過ぎた」が適切である。

「壊れる」

1	「状態」を表しているから「壊れている」が適切である。「壊れた」も同じであるが、どう違うか分からない。

2	状態だから、「壊れている」が適切である。「壊れた」は、ただ「過去に壊れた」という出来事を描写する時に使う。
3	「壊れる」が起こるのは過去だから、「壊れた」が適切である。「壊れている」も正しいが、「壊れた」の方が適切である。「อยู่」も影響あったが、「壊れた」の方が正しいと思った。
4	「状態」を表しているから。タイ語の「yuu」の影響もある。「壊れた」は、「過去に壊れていて、今はもう修理している」という意味である。
5	状態だから。「壊れた」は間違いと思うが、説明できない。
6	状態で「まだ直っていない」から、「壊れている」が適切である。「壊れた」はただ「過去に壊れた」という出来事を描写するだけ。
7	「状態」だから、「壊れている」が適切である。「壊れた」は「目の前に壊れた」時に使う。
8	「状態」を表しているから。「yuu」の影響もある。「壊れた」は「「壊れる」にすぐ気付く」時に使うから、この場合は適切ではない。つまり、「パソコンがいつ壊れたか」は打大事ではなく、「いつそれに気付くか」が大事である。
9	「落ちている」と同じように、教わったからそのまま「壊れている」と使っている。「壊れた」はパソコンが目の前に壊れた時に使う。
10	今でも壊れているから「壊れている」が適切である。「壊れた」は「過去に壊れていて、今は修理された」という意味である。
11	「故障する」が過去に起きたから、「故障した」が適切である。

「治る」

1	もう傷がないから「治った」が正しい。「治っている」は「治りかけていてまだ治っていない」という意味だから。
2	文脈から見ると「傷がもうない」ということである。「治っている」は「まだ完治しておらず、治りかけている」という意味で、「治った」は「もう傷がない」という意味であるため、「治った」が正しい。「治っていた」は「過去に傷が治りかけていた」という意味である。
3	「治った」と「治っている」どちらも同じであるが、説明できない。(聞いたことあるというのもある)
4	文脈から見ると「傷がもうない」ということである。「治っている」は「まだ完治しておらず、治りかけている」という意味で、「治った」は「もう傷がない」という意味であるため、「治った」が正

	しい。「治っていた」は「過去に傷が治りかけていた」という意味である。
5	「治った」は「もう傷がほとんどない」という意味である。「治っている」は「治っているのは治っているが、傷がまだ完全ではない」という意味である。
6	「治った」は「完全に傷が消えた」という意味で、「治っている」は「傷がまだ治りかけている」という意味である。
7	「治った」は「もう傷がほとんどない」という意味である。「治っている」は「傷がまだ残っている」という意味である。
8	もう傷がないから、「治った」が適切である。「治っている」は「治りかけていてまだ治っていない」という意味だから、不適切である。
9	「治った」が一番正しい。「治った」は「変化」を表すことなくただ「治る」が過去に起きたという事実を伝えるだけである。「治っている」は「変化前の状態」と「変化後の状態」の比較を強調する言い方である。「治っていた」は説明できないが、正しい気がする。
10	「治っている」は「傷が少しずつ治っている」という意味で、この場合は「過去に傷が少しずつ治っていた」から「治っていた」が適切である（今はもう傷がない）。
11	もう傷がないから、「治った」が適切である。「治っている」は「治りかけていてまだ治っていない」という意味だから、不適切である。

「腐る」

1	「腐っている」という「状態」だから「腐っている」が正しい。「腐った」は「状態」を表していないし、使ったことないから選ばなかった。
2	状態だから「腐っている」が適切である。「腐った」は、ただ「過去に腐った」という出来事を描写する時に使う。
3	「腐った」は「腐るのが過去にあった」という意味で、「腐っていた」は「過去に少しずつ腐った」という意味である。「腐っている」は「一部だけ腐っている」という意味である。
4	「腐った」は「完全に腐ってもう食べられない」という意味で、「腐っている」は「腐りかけていてまだ食べられる部分が残っている」という意味である。
5	状態だから。「腐った」は変化を表す。
6	「腐った」を聞いたことないから。そして、状態を表すのに「腐っている」が適切である。「腐った」はただ「過去に腐った」という出来事を描写するだけ。「腐っている」は「まだ食べられるところが

	ある」で、「腐った」は「完全に腐っている」という意味である。
7	目に見える「状態」だから、「腐っている」が適切である。「腐った」は普通は使わない。
8	「腐っている」と気付いたばかりだから、「腐った」が適切である。「腐っている」は、「腐っている」に気付いてすぐ言葉にするのではなくしばらくしてから言う時に使うから、この場合では不適切である。ちなみに、「腐った」は、「完全に腐っている」という意味で、「腐っている」は「完全に腐っておらず、まだ食べられる部分がある」という意味である。
9	「腐った」が一番正しい。「腐った」は「変化」を表すことなくただ「腐る」が過去に起きたという事実を伝えるだけである。「腐っている」は「変化前の状態」と「変化後の状態」の比較を強調する言い方である。「腐っている」は、説明できないが、正しい気がする。
10	「部分的に腐っていて、食べられる部分が残っている」と言いたい場合は、「腐っている」で、「完全に腐っている」と言いたい場合は、「腐った」が適切である。
11	よく聞くから、「腐っている」を選んだ。「腐った」は聞いたことないから。

「疲れる」

1	「状態」を表しているから、「疲れている」が適切である。「疲れた」は過去のことで「今はもう疲れていない」という意味になる。
2	どちらも聞いたことあるから、どちらも正しいと思うが、「疲れている」は「今の状態」を表す時に使う。「疲れた」はタイ語の「lɛɛw」の影響を受けて使った。
3	聞いたことあるものをすべて答えた。「疲れている」は「疲れている状態」を表している。「疲れた」はタイ語の「lɛɛw」の影響を受けた。「疲れる」は聞いたことがあるから選んだだけで、説明できない。
4	「疲れた」は自分に使用するもので、「疲れている」は自分ではなく他人に使用するものである。
5	「状態」だから。「疲れた」は「何かをした後に言うことば」である。例えば、親子がテニスしていて、父が疲れてやめたくなったのに、こともがやめたくなかった場合に使う。
6	「疲れている」は「父の今の状態」を表しているのに対し、「疲れた」はただ「過去に疲れた」という出来事を描写するたけであるが、よく「疲れた」と聞くから正しいと思った。
7	「状態」だから、「疲れている」が適切である（よく聞くというのも大きい)。「疲れた」は①自分のことを言う時②相手に質問する時に使うものである。
8	「疲れている」は自分や他人の「疲れている状態」を表すために用い、「疲れた」は①自分のこと②

	聞き手に聞く時に用いる（他人の状態を表す時は使えない）ため、この場合は「疲れている」が適切である。
9	どちらも使えると自信がある。「疲れた」は「過去から現在まで疲れがある」という意味で、「疲れている」は「疲れているという今の状態」を強調する時に使う。
10	今の状態を表しているから、「疲れている」が適切である。「疲れた」はただ「過去に疲れた」という出来事を表す時に使う。
11	「疲れた」はしか使ったことないから。

「汚れる」

1	勘で選択したので、説明できない。説明するのならば、「汚れている」は「汚れが今目に見えている状態」で、「汚れた」は「過去に汚れていて今はもう汚れていない」という意味になる。状況から見て「今汚れが目に見えている」と分かっていても、実際に使用する時は「汚れた」と答えてしまう。
2	「汚れた」は「過去に汚れた」と言いたい時に使い、「汚れている」は「今の状態」を強調したい時に使うもので、どちらも正しい。
3	「汚れる」が起こるのが過去だから（今も汚れがまだ残っている)。「汚れている」は説明できないが、間違いだと思う。
4	「状態」だから「汚れている」を使用するのが普通である。「汚れた」は「過去に汚れていたが、今はもうきれいになっている」という意味である。
5	今まで続いている状態だから。「汚れた」は①捨てた方がいいくらい汚れているから②今汚れた時に使う。
6	「汚れている」は「今の服の状態」を表しているから、適切である。「汚れていた」は、「過去の状態」で今綺麗になったかどうかは分からない。
7	「汚れている」という「状態」を表しているため、「汚れている」が適切である。「汚れた」は「「汚れる」を目撃した時に使う。
8	今見えている「状態」だから「汚れている」が適切である。タイ語の「yuu」の影響もあった。「汚れた」は、①「汚れる」を目撃した時、②過去に汚れていて現在はもうきれいになっているという意味である。
9	「ペンが落ちている」と同じように「状態」を表しているから、「汚れている」が適切である。「汚れた」は「過去に汚れていて今はもうきれいになっている」という意味である。

10	今見えている状態だから「汚れている」が適切である。「汚れた」はただ「過去に汚れた」という出来事を表す時に使う。
11	今見えている状態だから「汚れている」が適切である。タイ語で考えなかった。

「濡れる」

1	「汚れている」という「状態」を表しているため、「濡れている」が適切である。「濡れた」は「過去に濡れえていて今はもう濡れていない」という意味になる。
2	「濡れた」が起こるのが過去だから、「濡れた」が適切である。
3	「濡れた」が起こるのが過去だから（今もまだ濡れている)。「濡れている」は「状態」を表している。「濡れた」と「濡れている」の違いは説明できない。
4	「状態」だから「濡れている」を使用するのが普通である。「濡れた」は「過去に濡れていたが、今はもう濡れていない」という意味である。
5	状態だから。「濡れた」は①自分が濡らした時②誰かが濡らしたのを目撃した時に使う。
6	今の状態を表しているから、「濡れている」が適切である。「濡れた」はただ「過去の出来事」を表すだけだから「気をつけてね」は言わないはずである。
7	「濡れている」を選んだのは、①よく聞く②状態だからである。「濡れた」は①聞いたことない②自分で濡らした時に使うものである。
8	①言葉にするしばらく前に「濡れている」と気付いていたから②状態だから、「濡れている」が適切である。「濡れた」は、①過去に濡れていて今はもう濡れていない②「濡れている」に気付いてすぐ言葉にする時に使うから、この場合は不適切である。
9	「汚れている」と同じように「状態」を表しているから、「濡れている」が適切である。「濡れた」は「過去に濡れていて今はもう濡れていない」という意味であるが、使わない。
10	今見えている「状態」だから「濡れている」が適切である。「濡れた」は、ただ「過去に濡れた」という出来事を表すときに使う。
11	「濡れている」は「今の状態」表す時で、「濡れていた」は「発話時に濡れた時」に使う。

「消える」

1	「状態」を表しているため、「消えている」が適切である。「消えた」は「過去に消えていて、今とは関係ない」という意味である。

2	状態だから、「消えている」が適切である。「消えた」は、ただ「過去に消えた」という出来事を描写する時に使う。
3	「状態」を表す時「消えた」の方が適切だと思ったから。「消えている」は馴染みがなくて使い方が分からない。
4	「状態」だから「消えている」を使用するのが普通である。「消えた」は「「電気が消える」を目撃した」時に使用する。
5	状態だから（本当はあまり「状態」だと感じられないが)。「消えた」は「目の前に消えた」時に使う。
6	今まで続いている状態だから、「消えている」が適切である。「消えた」は「目の前に電気が消えた」時に使う。
7	「状態」だから、「消えている」が適切である。「消えた」は目の前に電気が消えた時に使う。
8	「消えている」は①「消えている」に気付いてしばらくしてから言葉にする時に使うから②状態だから。「消えた」は、①「消えている」に気付いてすぐ言葉にする時に使うから②「消える」を目撃した時に使うから、この場合は不適切である。
9	「消えた」「消えている」はどちらも「現在電気が点いていない」という意味であるが、「消えている」だけが「状態」を強調していて、「外かも知れない」と推測するのに最も適切である。
10	「消えている」も「消えた」も正しいと思う。「消えた」が正しいと思ったのは、「消える」が過去に起きたからである。「消えている」が正しいと思ったのは「タイ語で考えて、タイ語では「yuu」を使うから日本語でも同じだと思ったからである。
11	状態だから「消えている」が適切である。

「なる」

1	勘で選択したので、説明できない。説明するのならば、「なっている」は「状態」で、「汚れた」は「過去に水に溶けて今のこととは関係ない」という意味になる。状況から見て「今溶けて水の状態になっている」と分かっていても、実際に使用する時は「なった」と答えてしまう。
2	「水になる」が過去に起きたから、「なった」が適切である。「なっている」は「溶けつつある」という意味なので、この文脈では不自然である。
3	どちらも正しい。「なった」も「なっている」も同じもので、違いは説明できない。
4	状況から見ると、「氷がまだ全部溶けていない」と解釈した。「溶けた」は「完全に溶けて水になっ

	ている」という意味で、「溶けている」は「まだ全部溶けていないという意味なので、「溶けている」が正解と判断した。
5	「ジュースにしよう」で「完全に溶けている」と分かった。「なっている」は「まだ全部溶けていない」という意味だから間違っている。そして、発見だから「状態」で見るのはおかしい。「なった」は「全部溶けている」という意味だから適切である。
6	「なった」は、ただ「過去になった」という出来事を描写するだけで、「なっている」は「今の状態」を表している。また、「なっている」は「まだ氷が残っている」で、「なった」は「完全に水になっている」という意味である。
7	「なっている」は「状態」を強調したい時に使うもので、「なった」は「水になった」という過去の出来事を描写したい時に使うもので、どちらも正しいが、「状態」を描写する「なっている」の方が正しい。
8	「水になっている」に気付いてすぐ言葉にする時に使うから「なっている」が適切である。「なっている」は「水になっている」に気付いてしばらくしてから言葉にする時に使うから、不適切である。
9	「水になる」が過去に起きたから、「なった」が適切である。「なっている」は「少しずつなっている」というイメージはあるが、使わない。
10	「なっている」は「全部水に溶けていない。まだ氷が残っている」という意味である。「なった」は「完全に溶けている」という意味である。「なっていた」と答えたが、よく考えてみると「なった」の方が正しいと気がしてきた。
11	「なる」と「なっていた」は聞いたことあるから、選んだ。

「混む」

1	「状態」だから「混んでいる」を使用するのが適切である。「混んだ」は「過去に混んでいて今はもう混んでいない」という意味になる。
2	「混む」と「混んでいる」は聞いたことあるから正しいと思った。「混んだ」が正しいと思ったのは、「混む」が起きたのは過去だからである。
3	どちらも正しい。「混んだ」も「混んでいる」も同じで、違いが説明できない。
4	「状態」だから「混んでいる」を使用するのが普通である。「混んだ」は「「混む」を目撃した時に使用する。
5	①「混んでいる」しか聞いたことないから。②状態だから。「混んだ」は使い方を思いつかない。

6	よく「混んでいる」を聞くから。「混んでいる」は「今の状態」を表す時に使う。「混んだ」は聞いたことないから、使い方が分からない。「混んでいた」は「過去の状態」を表すために使う。
7	「混んでいる」は「状態」を表すものである。「混んだ」と「混んでいた」は「混んだ」という過去の出来事をを描写する時に使うものである。
8	①会話に「うーん」があったから、「混んでいる」に気付いてしばらくしてから言葉にしたと分かったから、②状態だから、「混んでいる」が適切である。「混んだ」は「混んでいる」に気付いてすぐ言葉にする時に使うから、不適切である。
9	「状態」だから、「混んでいる」が適切である。「混んだ」は、「過去の状態」を表す時に使う。
10	目に見えている「状態」だから、「混んでいる」が適切である。「混んだ」と「混んでいた」は同じでただ「過去の出来事」を語るだけである。
11	目に見えている「状態」だから、「混んでいる」が適切である。

資料 3：本調査の質問紙調査

タイ語版（調査時に使用）

จงเลือก***ทุกข้อ***ที่คิดว่าถูกต้อง

1.（นักเรียนสองคนกำลังคุยกันระหว่างเดินทางไปโรงเรียน）

学生 A：今何時？

学生 B：10 時 15 分だよ。授業は 10 時からだよね？

学生 A：えー、_____じゃない。急がないと！

【1. 始まる　2. 始まった　3. 始まっている　4. 始まっていた】

始まる：เริ่ม

2. 木村：私のボールペン知らない？

田中：知らないなー。探すの手伝ってあげようか？

木村：ありがとう。

田中：（ดูใต้โต๊ะเรียน）あ、机の下に_____よ。

【1. 落ちる　2. 落ちた　3. 落ちている　4. 落ちていた】

探す：หา　手伝う：ช่วย　机：โต๊ะเรียน

3. 木村さんの妹は去年東京大学を_____。

【1. 卒業する　2. 卒業した　3. 卒業している　4. 卒業していた】

卒業する：จบการศึกษา

4.（พี่น้องกำลังคุยกันอยู่）

兄：ちょっとパソコンを貸して。レポートを書きたいから。

妹：いいよ。机の上にあるから、使って。

兄：ありがとう。（พยายามเปิดคอมพิวเตอร์）

あれ？パソコンがつかない。_____じゃないか。

【1. 壊れる　2. 壊れた　3. 壊れている　4. 壊れていた】

つける：เปิด(คอมพิวเตอร์)　つく：(คอมพิวเตอร์)ติด　壊れる：พัง,ชำรุด

5. （ทาโรเพิ่งกลับมาจากมหาวิทยาลัย）

太郎：は〜、今日は疲(つか)れたー。

（ดูในห้องมีกระเป๋าวางอยู่）あ！この間注文(あいだちゅうもん)したカバンが_____！

【1. 届(とど)く　2. 届(とど)いた　3. 届(とど)いている　4. 届(とど)いていた】

疲(つか)れる：เหนื่อย　この間(あいだ)：ก่อนหน้านี้　注文(ちゅうもん)する：สั่ง(ของ)　届(とど)く：(ของ)มาส่ง

6. 息子(むすこ)：お母(かあ)さん見なかった？

父(ちち)：お母(かあ)さんならさっき_____よ。

【1. 出(で)かける　2. 出(で)かけた　3. 出(で)かけている　4. 出(で)かけていた】

出(で)かける：ออกไปข้างนอก

7. （คุณพ่อเพิ่งกลับมาจากที่ทำงาน）

娘(むすめ)：お父(とう)さん、宿題(しゅくだい)教(おし)えてー。

父(ちち)：ちょっと待(ま)ってね。今教(おし)えるから。

母(はは)：お父(とう)さんは_____から、後(あと)にしなさい。

【1. 疲(つか)れる　2. 疲(つか)れた　3. 疲(つか)れている　4. 疲(つか)れていた】

宿題(しゅくだい)：การบ้าน　疲(つか)れる：เหนื่อย

8. ミント：ノンさん、先週転(ころ)んで怪我(けが)したと聞いたよ。怪我(けが)はどうなった？

ノン：うん、傷(きず)は結構深(けっこうふか)かったけど、もう大丈夫だよ。ほら、見て！

ミント：おー。本当だー。傷(きず)が_____！よかったねー！

【1. 治(なお)る　2. 治(なお)った　3. 治(なお)っている　4. 治(なお)っていた】

転(ころ)ぶ：ล้ม　怪我(けが)する：บาดเจ็บ　怪我(けが)、傷(きず)：บาดแผล　深(ふか)い：ลึก　治(なお)る：(แผล,โรค)หาย

9. 母(はは)：明日(あした)のパーティーに何を着(き)ていくの？もう準備(じゅんび)できてる？

娘(むすめ)：うん、ピンクのドレスを着(き)ていくよ。

母(はは)：あ、それはだめよ。あの服(ふく)は_____から、別(べつ)の服(ふく)にしたらどう？

【1. 汚(よご)れる　2. 汚(よご)れた　3. 汚(よご)れている　4. 汚(よご)れていた】

着(き)る：สวมใส่　準備(じゅんび)する：เตรียมตัว　汚(よご)れる：เปื้อน,สกปรก

10. 私は来年会社を辞めて、英語を勉強するために_____。

【1. 留学する　2. 留学した　3. 留学している　4. 留学していた】

留学する : เรียนต่อต่างประเทศ

11. 三浦 : この間買ったマンゴーを食べようー。

佐藤 : そうだね。マンゴーは箱の中だよ。

三浦 : (ดูในกล่อง) あー、_____よ。もっと早く食べればよかった。

【1. 腐る　2. 腐った　3. 腐っている　4. 腐っていた】

この間 : ก่อนหน้านี้　箱 : กล่อง　腐る : เน่า

12. さっき誰かが水をこぼしたから、床が_____よ。気をつけてね。

【1. 濡れる　2. 濡れた　3. 濡れている　4. 濡れていた】

こぼす : ทำ(น้ำ)หก　床 : พื้น　濡れる : เปียก　気をつける : ระวัง

13. ゆうべは遅くまで仕事したから、家に帰ったらすぐ_____。

【1. 寝る　2. 寝た　3. 寝ている　4. 寝ていた】

遅く : ดึก

14. (คุณยามาดะกับคุณอิชิดะมีนัดกับอาจารย์ ในวันนัดพวกเขาไปที่บ้านอาจารย์แล้วเคาะประตูหลายครั้ง แต่ไม่มีใครออกมารับ)

山田 : おかしいなー。今日会う約束なのに。

西田 : 電気が_____から、まだ外かもしれないね。

【1. 消える　2. 消えた　3. 消えている　4. 消えていた】

約束 : นัด　電気 : ไฟ　消える : (ไฟ)ดับ,ไม่ติด

15. (ชายกับอินกำลังดูหนังอยู่ในโรงหนัง)

チャイ : あ！いけない！昨日寝不足だったから、寝ちゃった！

(ดูจอหนัง) あれ？映画が_____じゃないかー。

イン : うん、そうだよ。映画すごく面白かったよー。

チャイ : エンディング見たかった〜。

【1. 終わる　　2. 終わった　　3. 終わっている　　4. 終わっていた】

寝不足：นอนไม่พอ　寝る：นอน　映画：หนัง　エンディング：ตอบจบ　終わる：จบ

16.A：野球をしてみたいなー。

B：私は去年日本に行った時に_____よ。すごく楽しかった。

【1. する　2. した　3. している　4. していた】

野球：เบสบอล

17. チャイ：今日暑いねー。かき氷食べたいなー。

イン：それいいねー。さっき氷買ってきたから、かき氷作ろう！

チャイ：(ดูในกล่องน้ำแข็ง) あー！アイスボックスを閉じていなかったから、氷が溶けて水に_____よ。

イン：じゃ、ジュースにしよう。

【1. なる　　2. なった　　3. なっている　　4. なっていた】

かき氷：น้ำแข็งใส　閉じる：ปิด(ฝา)　溶ける：ละลาย

18. ボーイ：あ！バス来ましたよ！乗りましょう。

ノーイ：うーん、すごく_____なー。次のバスを待ちましょう。

ボーイ：確かに満員ですね。次のバスを待ちましょう。

【1. 混む　　2. 混んだ　　3. 混んでいる　　4. 混んでいた】

混む：(คน)แน่น　満員：คนแน่น,คนเต็ม

19. (พลกับแอนกำลังนั่งรถไฟฟ้ากลับบ้าน ทั้งสองคนคุยกันเพลินจนเผลอนั่งรถเลยป้าย)

ポン：サイアムに着いた？

アン：あ！！！もうシーロムだよ！

ポン： あ！もう_____じゃないかー。サイアムで降りないとだめなのに。

【1. 過ぎる　　2. 過ぎた　　3. 過ぎている　　4. 過ぎていた】

着く：ถึง(ที่หมาย)　降りる：ลง(รถ)　過ぎる：(รถ)เลย(ป้าย)

20. 先生に相談(そうだん)したいことがあるから、明日学校に_____。

【1. 行く　2. 行った　3. 行っている　4. 行っていた】

相談(そうだん)する：ปรึกษา

日本語版

正しいと思ったものを**すべて**選びなさい。

1.（2 人の学生が話しながら学校に向(む)かう途中(とちゅう)）

学生 A：今何時？

学生 B：10 時 15 分だよ。授業は 10 時からだよね？

学生 A：えー、_____じゃない。急(いそ)がないと！

【1. 始(はじ)まる　2. 始(はじ)まった　3. 始(はじ)まっている　4. 始(はじ)まっていた】

2. 木村：私のボールペン知らない？

田中：知らないなー。探(さが)すの手伝(てつだ)ってあげようか？

木村：ありがとう。

田中：（机(つくえ)の下を見て）あ、机(つくえ)の下に_____よ。

【1. 落(お)ちる　2. 落(お)ちた　3. 落(お)ちている　4. 落(お)ちていた】

3. 木村(きむら)さんの妹(いもうと)は去年東京大学(きょねんとうきょうだいがく)を_____。

【1. 卒業(そつぎょう)する　2. 卒業(そつぎょう)した　3. 卒業(そつぎょう)している　4. 卒業(そつぎょう)していた】

4. （兄弟(きょうだい)が話している）

兄：ちょっとパソコンを貸(か)して。レポートを書(か)きたいから。

妹：いいよ。机(つくえ)の上にあるから、使(つか)って。

兄：ありがとう。（パソコンをつけようとした）

あれ？パソコンがつかない。_____じゃないか。

【1. 壊(こわ)れる　2. 壊(こわ)れた　3. 壊(こわ)れている　4. 壊(こわ)れていた】

5. （太郎(たろう)が大学から家に帰ってきた）

太郎：は～、今日は疲(つか)れたー。

（部屋(へや)の中を見て）あ！この間注文(あいだちゅうもん)したカバンが_____！

【1. 届(とど)く　2. 届(とど)いた　3. 届(とど)いている　4. 届(とど)いていた】

6. 息子：お母さん見なかった？

父：お母さんならさっき_____よ。

【1. 出かける　2. 出かけた　3. 出かけている　4. 出かけていた】

7. （父親が仕事から帰ってきたところ）

娘：お父さん、宿題教えてー。

父：ちょっと待ってね。今教えるから。

母：お父さんは_____から、後にしなさい。

【1. 疲れる　2. 疲れた　3. 疲れている　4. 疲れていた】

8. ミント：ノンさん、先週転んで怪我したと聞いたよ。怪我はどうなった？

ノン：うん、傷は結構深かったけど、もう大丈夫だよ。ほら、見て！

ミント：おー。本当だー。傷が_____！よかったねー！

【1. 治る　2. 治った　3. 治っている　4. 治っていた】

9. 母：明日のパーティーに何を着ていくの？もう準備できてる？

娘：うん、ピンクのドレスを着ていくよ。

母：あ、それはだめよ。あの服は_____から、別の服にしたらどう？

【1. 汚れる　2. 汚れた　3. 汚れている　4. 汚れていた】

10. 私は来年会社を辞めて、英語を勉強するために_____。

【1. 留学する　2. 留学した　3. 留学している　4. 留学していた】

11. 三浦：この間買ったマンゴーを食べようー。

佐藤：そうだね。マンゴーは箱の中だよ。

三浦：（箱を開けて）あー、___よ。もっと早く食べればよかった。

【1. 腐る　2. 腐った　3. 腐っている　4. 腐っていた】

12. さっき誰かが水をこぼしたから、床が_____よ。気をつけてね。

【1. 濡れる　2. 濡れた　3. 濡れている　4. 濡れていた】

13. ゆうべは遅くまで仕事したから、家に帰ったらすぐ_____。

【1. 寝る　　2. 寝た　　3. 寝ている　　4. 寝ていた】

14. （山田さんと西田さんが土田先生と約束があった。約束の日に先生の家の前に着いて何度もノックしたが、誰も出てこない。）

山田：おかしいなー。今日会う約束なのに。

西田：電気が_____から、まだ外かもしれないね。

【1. 消える　　2. 消えた　　3. 消えている　　4. 消えていた】

15. （チャイとインが映画館に映画を見に来ている）

チャイ：あ！いけない！昨日寝不足だったから、寝ちゃった！

（スクリーンを見て）あれ？映画が_____じゃないかー。

イン：うん、そうだよ。映画すごく面白かったよー。

チャイ：エンディング見たかった～。

【1. 終わる　　2. 終わった　　3. 終わっている　　4. 終わっていた】

16. A：野球をしてみたいなー。

B：私は去年日本に行った時に_____よ。すごく楽しかった。

【1. する　2. した　3. している　4. していた】

17. チャイ：今日暑いねー。かき氷食べたいなー。

イン：それいいねー。さっき氷買ってきたから、かき氷作ろう！

チャイ：(アイスボックスの中を見て) あー！アイスボックスを閉じていなかったから、氷が溶けて水に_____よ。

イン：じゃ、ジュースにしよう。

【1. なる　　2. なった　　3. なっている　　4. なっていた】

18. ボーイ：あ！バス来(き)ましたよ！乗(の)りましょう。

ノーイ：うーん、すごく＿＿＿＿＿＿＿なー。次(つぎ)のバスを待(ま)ちましょう。

ボーイ：確(たし)かに満員(まんいん)ですね。次(つぎ)のバスを待(ま)ちましょう。

【1. 混(こ)む　　2. 混(こ)んだ　　3. 混(こ)んでいる　　4. 混(こ)んでいた】

19. （ポンとアンが家に向かう電車に乗っている。二人が会話に夢中で乗りすぎた）

ポン：サイアムに着いた？

アン：あ！！！もうシーロムだよ！

ポン： あ！もう＿＿＿＿＿じゃないかー。サイアムで降(お)りないとだめなのに。

【1. 過(す)ぎる　　2. 過(す)ぎた　　3. 過(す)ぎている　　4. 過(す)ぎていた】

20. 先生に相談(そうだん)したいことがあるから、明日学校に＿＿＿＿＿。

【1. 行く　2. 行った　3. 行っている　4. 行っていた】

資料 4：本調査の調査協力者の詳細

調査協力者	学年	日本語学習歴	在日経験	日本語能力試験のレベル
1	2	3	なし	N3
2	2	3	なし	N3
3	2	3	なし	N3
4	2	3	なし	N3
5	2	2	なし	N3
6	2	4	なし	N3
7	2	5	なし	N3
8	2	4	なし	N3
9	2	5	なし	N3
10	2	1	なし	N3
11	2	1	なし	N3
12	2	1	なし	N3
13	2	4	なし	N3
14	2	1	なし	N3
15	2	5	なし	N3
16	2	4	なし	N3
17	2	5	なし	N2
18	2	6	4 年間	N3
19	2	4	3 年間	N3
20	2	4	なし	N3
21	2	4	1年間	N3
22	2	4	なし	N2
23	2	5	なし	N3
24	2	5	なし	N3
25	3	6	なし	N3

26	2	4	なし	N3
27	2	5	なし	N3
28	2	6	なし	N3
29	2	4	なし	N3
30	2	4	なし	N3
31	2	4	なし	N3
32	2	4	なし	N3
33	2	7	なし	N3
34	2	4	なし	N3
35	2	4	なし	N3
36	2	4	なし	N3
37	2	4	なし	N3
38	2	7	なし	N3
39	3	2	なし	N3
40	3	3	なし	N3
41	3	2	なし	N3
42	3	2	なし	N3
43	3	4	なし	N3
44	3	2	なし	N3
45	3	2	なし	N3
46	3	7	なし	N2
47	3	6	なし	N3
48	3	4	なし	N3
49	3	5	1年間	N2
50	3	5	なし	N3
51	3	5	なし	N3
52	3	5	なし	N3
53	3	6	なし	N3
54	3	6	なし	N3

55	3	6	1年間	N3
56	3	5	1年間	N3
57	3	2	なし	N3
58	3	4	なし	N3
59	3	3	なし	N3
60	3	3	なし	N3
61	3	6	1年間	N3
62	3	2	なし	N3
63	3	5	なし	N3
64	3	15	なし	N2
65	3	2	なし	N3
66	3	2	なし	N3
67	3	2.5	なし	N3
68	3	2	なし	N3
69	3	5	なし	N3
70	3	4	なし	N3
71	3	6	なし	N3
72	3	6	なし	N2
73	3	8	なし	N2
74	3	8	なし	N3
75	3	7	1年間	N3
76	3	6	なし	N1
77	3	5	なし	N3
78	3	9	なし	N2
79	3	2	なし	N3
80	4	4	なし	N3
81	4	3	なし	N3
82	4	3	なし	N3
83	4	3	なし	N3

84	4	3	なし	N3
85	4	3	なし	N3
86	4	7	なし	N3
87	4	3	なし	N3
88	4	6	なし	N3
89	4	3	なし	N3
90	4	3	なし	N3
91	4	3	なし	N3
92	4	3	なし	N3
93	4	6	なし	N3
94	4	3	なし	N3
95	4	3	なし	N2
96	4	7	1年間	N3
97	4	3	なし	N3
98	4	4	なし	N3
99	4	5	なし	N3
100	4	3	なし	N3

資料 5：本調査のフォローアップ・インタビューにおける調査協力者の選択理由

「始まる」

調査協力者	選択した理由
1	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「始まる」という出来事が繰り返して起きる気がする。選ぶ時「出来事がいつ起こるか」を考えて選ぶ。
2	「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「始まった」という出来事が終わっているが、「始まっている」は「状態」であることを強調しており、「始まった」は「「始まる」という出来事が過去に起こった」ということを強調する時に使う。
3	「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「始まった」という出来事が終わっているが、「始まっている」は「状態」であることを強調しており、「始まった」は「「始まる」という出来事が過去に起こった」ということを強調する時に使う。どちらかというと「始まった」の方が正しい。
4	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい（タイ語でも考えた)。
5	「始まった」も「始まっている」も両方正しい。「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」も正しい。また、「授業が始まって現在までまだ続いている」から、「始まっている」も正しい。
6	「始まった」と「始まっていた」も両方正しい。「始まっていた」は英語の「Past Perfect」と同じだと思って正しいと判断した。「始まった」を選んだのは「「始まる」という出来事が過去に起きて終わったから」だと思って選択した。
7	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる)」という意味である。
8	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる)」という意味である。
9	「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「始まった」という出来事が終

	わっているが、「始まっている」は「状態」であることを強調しており、「始まった」は「「始まる」という出来事が過去に起こった」ということを強調する時に使う。選ぶなら、「始まった」の方が正しいと思う。
10	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味である。
11	タイ語に訳すと「kamlaŋ rə̂əm sɔ̌ɔn yùu」になるから、「始まっている」が正しいと判断した。「始まった」は「授業はもう終わっている」という意味で、「始まっている」は「授業が始まってまだ終わっていない」という意味である。
12	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「始まったばかり」と同じ意味である。
13	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味である。
14	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味である。
15	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味である。
16	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味である。
17	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味である。
18	先生がもう教えているから、「始まっている」が正しい。「始まった」は「始まったが、先生が教えている」感じがしない。
19	「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる）」という意味だ

	から「始まっている」が正しい。「始まった」は「始まって今は終わっている」という意味である。
20	「始まった」も「始まっている」も両方正しい。どちらも「授業が既に始まっている」というところで共通しているが、「自分がその場にいる場合は「始まった」が正しく、「自分がその場にいない場合は「始まっている」が正しい。「始まっている」の方が正しい気がする。
21	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる)」という意味である。
22	「始まった」も「始まっている」も両方正しい。「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」も正しい。また、「授業が始まって現在までまだ続いている」から、「始まっている」も正しい。
23	「授業が始まる」という出来事が過去に起きたから、「始まった」が正しい。「始まっている」は、「今から授業が始まろうとしていてまだ始まっていない（今から始まる)」という意味である。

「届く」

調査協力者	選択した理由
1	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いていなく、搬送中」という意味である。
2	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いていなく、搬送中」という意味である。
3	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。また、「状態」じゃないため、「届いている」は不適切である。
4	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いていなく、搬送中」という意味である。
5	「届いた」も「届いている」も両方正しいが、「届いた」は「過去に届いて今はどこにあるか分からない」という意味で、「届いている」は「カバンが届いて目の前にある」という意味である。

6	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」も「届いていた」も両方正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
7	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
8	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
9	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
10	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
11	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は使い方が分からない。
12	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
13	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
14	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
15	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
16	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
17	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
18	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
19	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
20	カバンが自分がいない時に来たから「届いている」が正しい。「届いた」は自分がいる時

	カバンが届いた場合に使う。
21	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。
22	「落ちた」も「落ちている」も両方正しい。どちらも「届く」という出来事が完了しているが、「届いている」は「カバンがその場に置かれたまま」という意味で、「届いた」は「カバンが届いて今はその場にない」という意味である。
23	「カバンが届く」という出来事が過去に起きたから、「届いた」が正しい。「届いている」は、「まだ届いておらず、搬送中」という意味である。

「治る」

調査協力者	選択した理由
1	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
2	「治る」という動詞自体が「状態」を表すから、「治る」が正しいと思った。
3	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
4	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
5	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
6	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
7	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
8	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
9	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
10	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治って

	いる」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
11	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」の使い方が分からない。
12	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
13	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
14	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」と「治っていた」が正しい（違いが分からない)。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
15	「治った」も「治っている」も両方正しい。「治った」は「治る」という出来事が過去に起きた」という意味で、「治っている」は「もう傷がない状態」を強調している。
16	「治っている途中だった」と解釈したから「治っていた」を選択した。「治った」は「もう傷がない」という意味で、「治っている」は「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
17	「治った」も「治っている」も両方正しい。「治った」は「治る」という出来事が過去に起きた」という意味で、「治っている」は「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
18	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
19	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
20	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
21	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。
22	「治っている」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味であるため、正しい。「治った」は「傷が完全に治って残っていない」という意味である。
23	「治る」という出来事が過去に起き、もう痛みがないから、「治った」が正しい。「治って

	いる」は、「まだ傷が治っておらず、治りかけている」という意味である。

「腐る」

調査協力者	選択した理由
1	「腐った」と「腐っている」両方正しいが、「腐った」は「「腐る」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使い、「腐っている」は「状態」であることを強調したい時に使う。
2	「状態」であるため「腐っている」が正しい。「腐った」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
3	「状態」であるため「腐っている」が正しい。「腐っていた」も「腐っている」とほとんど変わらない。
4	「状態」であるため「腐っている」が正しい。「腐った」は「過去に腐って誰かに捨てられて今はもうここにない」という意味になる。
5	「腐った」と「腐っている」両方正しいが、「腐った」はタイ語では「lA#w」を使うから正しいと判断したのに対し、「腐っている」は「状態」を表しているから正しいと判断した。
6	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」も「腐っていた」も正しい。
7	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。
8	「腐った」と「腐っている」両方正しいが、「腐った」は「「腐る」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使い、「腐っている」は「状態」であることを強調したい時に使う。
9	「腐った」と「腐っている」両方正しいが、「腐った」は「「腐る」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使い、「腐っている」は「状態」であることを強調したい時に使う。
10	「期間」があるから「腐っていた」が正しいと判断した。「腐った」は「いきなり勝手に腐った」という気がする。「腐っている」は「現在腐りかけている」という意味である。
11	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。

12	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。「腐った」は「完全に腐ってもう食べられる部分がない」という意味である。
13	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。「腐った」は「完全に腐ってもう食べられる部分がない」という意味である。
14	「状態」であるため「腐っている」が正しい。「腐った」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
15	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。
16	「腐る」という出来事が過去に起きたから、「腐った」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。「腐った」は「完全に腐ってもう食べられる部分がない」という意味である。
17	「状態」だから、「腐っている」が正しい。「腐った」はただ「過去に腐った」と述べる時に使う。
18	「腐った」も「腐っている」も「今の状態」を表すが、「腐った」の方が正しい気がする。
19	「状態」だから、「腐っている」が正しい。「腐った」はただ「過去に腐った」と述べる時に使う。ちなみに、「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるところが残っている」という意味である。
20	「状態」だから、「腐っている」が正しい。「腐った」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
21	「状態」だから、「腐っている」が正しい。「腐った」はただ「過去に腐った」と述べる時に使う。
22	過去から「腐る」という出来事が起きているから「腐っていた」が正しい。「腐っている」は「完全に腐っておらずまだ食べられるとことが残っている」という意味である。「腐った」はただ「過去に腐った」と述べる時に使う。
23	「腐っている」をよく聞くから「腐っている」を選んだ。「腐った」は自分じゃなくて他の人が見た時に使う。

「終わる」

調査協力者	選択した理由
1	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」の使い方が分からない。
2	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は使ったことも聞いたこともなく使い方が分からない。
3	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。そして、「テイル」は「状態」を表すため「終わる」という動詞と使うことはない気がする。
4	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
5	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
6	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
7	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
8	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
9	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
10	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」の使い方が分からない。
11	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」の使い方が分からない。
12	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
13	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
14	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は

	「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
15	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
16	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
17	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
18	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
19	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
20	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
21	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
22	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。
23	「終わる」という出来事が過去に起きたから、「終わった」が正しい。「終わっている」は「まだ終わっておらず、終わる寸前」である。

「なる」

調査協力者	選択した理由
1	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なる」という動詞は「濡れる」と「汚れる」と異なり「状態」を表さないから「テイル形」にするのはおかしい。
2	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。そして、この文は「変化」を強調しているから、「なった」が適切である。
3	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。
4	「氷が完全に水の状態」だから「なった」が正しい。「なっている」は「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。

5	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい（タイ語でも考えた）。「なっている」の使い方が分からない。
6	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」が使えないのは「溶けて水になっている課程を目撃していなかったから」である。
7	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
8	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
9	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
10	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
11	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
12	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
13	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
14	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」と「なっていた」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
15	完全に水になったから、「なった」でも「なっている」でも正しいが、「なっている」の方が「状態」であることを強調している。
16	「過去の状態」を表すのに「なっていた」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
17	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」も「なっていた」も両方正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
18	「なった」も「なっている」も「氷が完全に溶けた」という意味であるが、「なった」の方が正しい気がする。
19	「なった」も「なっていた」も両方正しい。「なっている」は「まだ氷が残っていて溶け

	ている最中」という意味である。
20	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
21	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。
22	「過去の状態」を表すのに「なっていた」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。「なった」と「なっていた」の違いが分からない。
23	「なる」という出来事が過去に起きたから、「なった」が正しい。「なっている」は、「まだ氷が残っていて溶けている最中」という意味である。

「過ぎる」

調査協力者	選択した理由
1	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
2	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」はいつ使うか分からない。
3	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。そして、「テイル」は「状態」を表すために、「過ぎる」という動詞と使うことはない気がする。
4	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
5	「過ぎた」も「過ぎている」も両方正しいが、「現在まで着目するかどうか」で異なっている。「過去に降りたい駅を過ぎている」というところが共通しているが、「過ぎた」は「今どこにいるか」を問題にしないのに対し、「過ぎている」は「今どこにいるか」を問題にする。
6	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
7	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。

8	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
9	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」も「過ぎていた」も両方正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
10	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
11	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
12	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
13	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
14	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
15	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
16	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
17	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
18	「過ぎた」も「過ぎている」も、「既に過ぎている」という意味で共通しているが、「過ぎた」の方が正しい気がする。
19	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
20	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
21	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。
22	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過

	ぎている最中」という意味になる。「過ぎる」は間違えて選んだ。
23	「過ぎる」という出来事が過去に起きたから、「過ぎた」が正しい。「過ぎている」は「過ぎている最中」という意味になる。

「落ちる」

調査協力者	選択した理由
1	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。
2	「状態」だから、「落ちている」が正しい。「落ちた」は「過去の状態」を表すのに使うものであるため、この場合は不適切である。
3	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」は「現在」を表すため、過去を表すには不適切である。
4	「状態」だから、「落ちている」が正しい。「落ちた」は「過去にペンが落ちて今どこにあるか分からない」という意味である。
5	「状態」だから、「落ちている」が正しい。「落ちた」は「過去にペンが落ちて今どこにあるか分からない」という意味である。
6	「ペンが落ちてそのまま床にある」から、「落ちた」が正しい。「落ちている」は「ペンが落ちている最中でまだ宙に浮いている」という意味である。
7	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」も「落ちていた」も両方正しい。「落ちている」は「ペンが落ちている最中でまだ宙に浮いている」という意味である。
8	「落ちた」も「落ちている」も「状態」を表し「ペンがまだ机の下にある」という意味だから、両方正しい。選ぶなら「落ちている」の方が正しい気がする。
9	「状態」だから、「落ちている」が正しい。「落ちた」はタイ語に訳すと「tPk lA#w」になりおかしいから不自然だと判断した。
10	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。
11	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。

12	「落ちた」も「落ちている」も両方正しいが、「落ちた」は「過去にペンが落ちた」と述べる時に使い、「落ちている」は「状態」を強調したい時に使う。
13	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。
14	「状態」だから、「落ちている」が正しい。「落ちた」は「過去にペンが落ちた後に拾って、そのペンはもう床にない」という意味である。
15	「落ちた」も「落ちている」も両方正しい。「落ちた」は「「落ちる」という出来事が過去に起きた」と述べる時に使い、「落ちている」は「状態」を強調したい時に使う。
16	「状態」だから、「落ちている」が正しい。「落ちた」は「過去にペンが落ちた後に拾って、そのペンはもう床にない」という意味である。
17	「落ちる」も「落ちた」も両方正しい。机の下にペンがある状態を表す時、「落ちる」も「落ちた」も適切である。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。
18	「ペンがまだ床にある」から「落ちている」が正しい。「落ちた」は「過去に落ちて今は床に何もない」という意味である。
19	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。
20	「落ちた」も「落ちている」も両方正しいが、違いが分からない。ほぼ同じ。
21	「ペンが落ちる」という出来事が過去に起きたから、「落ちた」が正しい。「落ちている」はどちらかというと「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味になる。
22	「落ちた」も「落ちていた」も両方正しい。「落ちた」は「過去に落ちた」という意味で、「落ちていた」は「ペンが落ちてそのまま床にある」という意味で、「落ちている」は「ペンが宙に浮いてまだ床についていない」という意味である。
23	「落ちてそのまま床にある」から、「落ちていた」が正しい。「落ちている」は「ペンが宙に浮いていてまだ床についていない」という意味である。「落ちた」は「過去にペンが落ちた後に拾って、そのペンはもう床にない」という意味である。

「壊れる」

調査協力者	選択した理由
1	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、「壊れている」は「状態」であることを強調したい時に使い、「壊れた」は「過去に壊れた」と強調したい時に使う。
2	「壊れる」という出来事が過去に起きたから、「壊れた」が正しい。後、タイ語では「lA#w」を使うから。
3	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」と「壊れている」の違いをあまり理解できない。
4	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」は「過去に壊れて今修理されている」という意味である。
5	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、この文章では「状態」を表しているから「壊れている」が一番正しい。
6	「壊れる」という出来事が過去に起きたから、「壊れた」が正しい。後、タイ語では「lA#w」を使うから。
7	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」は「過去に壊れて今どうなっているかは言及していない」という意味である。
8	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、「壊れている」は「状態」であることを強調したい時に使い、「壊れた」は「過去に壊れた」と強調したい時に使う。
9	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、「壊れている」は「状態」であることを強調したい時に使い、「壊れた」は「過去に壊れた今は修理されている」と強調したい時に使う。選ぶなら、「壊れている」の方が正しい気がする。
10	「壊れる」という出来事が過去に起きたから、「壊れた」が正しい。「壊れている」の使い方が分からない。
11	「壊れる」という出来事が過去に起きたから、「壊れた」が正しい。「壊れている」の使い方が分からない。
12	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、「壊れている」は「状態」であることを強調したい時に使い、「壊れた」は「過去に壊れた」と強調したい時に使う。
13	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、「壊れている」は「状態」であることを強調したい時に使い、「壊れた」は「過去に壊れた」と強調したい時に使う。

14	「壊れる」という出来事が過去に起きたから、「壊れた」が正しい。「壊れている」はあまり聞かない。
15	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」と「壊れている」の違いをあまり理解できない。
16	「壊れる」という出来事が過去に起きたから、「壊れた」が正しい。「壊れている」の使い方が分からない。
17	「壊れた」も「壊れている」も両方正しい。「壊れた」が正しいのは「壊れる」という出来事が過去に起きたからである。「壊れていた」が正しいのは「過去の状態」を表すのに「テイタ」を使用するのが普通だからである。「壊れている」は「壊れかけている」という意味である。
18	「壊れる」という出来事が過去に起きたから「壊れた」が正しい。「壊れている」は「壊れかけている」という意味である。
19	「壊れる」という出来事が過去に起きたから「壊れた」が正しい。「壊れている」は「壊れかけている」という意味である。（英語の影響もあるだろう）
20	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」と「壊れている」の違いをあまり理解できない。
21	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」とただ「過去に壊れた」と述べる時に使う。
22	「状態」だから「壊れている」が正しい。「壊れた」は「過去に壊れて今修理されている」という意味である。
23	「壊れた」も「壊れている」も両方正しいが、「壊れている」は「状態」であることを強調するから「壊れた」とより正しい気がする。

「疲れる」

調査協力者	選択した理由
1	「疲れている」は「状態」を強調したい時に使う。「疲れた」が正しいのは「疲れる」という出来事が過去に起きたから。
2	「疲れた」も「疲れている」も両方正しい。「今の状態」を表しているから、「疲れている」も正しい。そして、「疲れた」もよく聞いたり使ったりするから正しいであろうと判断し

	た。
3	「今の状態」を表すため「疲れている」が正しい。
4	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は「過去に疲れて今はもう疲れていないかもしれない」という意味である。
5	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は使い方が分からない。
6	「疲れた」しか聞いたことないから、「疲れた」を選択した。
7	「状態」であるため、「疲れる」も「疲れている」も両方正しい。「疲れた」は自分が主語の時に使う。
8	「現在の状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は聞いたことあるが、使い方が分からない。
9	「疲れた」も「疲れている」も両方正しい。「今の状態」を表しているから、「疲れている」も正しい。そして、「疲れた」もよく聞いたり使ったりするから正しいであろうと判断した。
10	「疲れた」しか聞いたことないから、「疲れた」を選択した。「疲れている」の使い方が分からない。
11	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は「過去に疲れて今はもう疲れていないかもしれない」という意味である。
12	「疲れた」も「疲れている」も両方正しい。「疲れた」はよく聞いたりするから、正しいと判断した。「疲れている」は「今の状態」を強調している。
13	「もう疲れた」をよく聞くから、「疲れた」が正しいと判断した。「疲れる」という動詞自体に「状態」の意味があるから、「テイル形」と使うのはおかしい。
14	普段は「疲れた」ばかり使っているから、「疲れた」を選択した。
15	「疲れた」も「疲れている」も両方正しい。「疲れた」はよく聞いたりするから、正しいと判断した。「疲れている」は「今の状態」を強調している。
16	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は使い方が分からない。
17	「疲れる」も「疲れている」も両方正しい。「疲れる」という動詞自体に「状態」の意味があるから「疲れる」も正しい。また「状態」であるため、「疲れている」も正しい。
18	「疲れる」に「期間」があるため、「テイル形」が正しい。「疲れた」は普通自分に使う。
19	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は「過去に疲れて今はもう疲れ

	ていないかもしれない」という意味である。
20	「疲れる」という出来事が過去に起きたから、「疲れた」が正しい。「疲れている」は「今していることで疲れた」時に使う。
21	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は「状態」を表さないからこの場合には使わない。
22	「疲れる」も「疲れている」も両方正しい。「疲れる」という動詞自体に「状態」の意味があるから「疲れる」も正しい。また「状態」であるため、「疲れている」も正しい。「疲れた」は「過去に疲れて今はもう疲れていないかもしれない」という意味である。
23	「状態」であるため、「疲れている」が正しい。「疲れた」は「過去に疲れて今はもう疲れていないかもしれない」という意味である。

「汚れる」

調査協力者	選択した理由
1	「汚れた」と「汚れている」両方正しいが、「汚れた」は「「汚れる」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使い、「汚れている」は「状態」であることを強調したい時に使う。
2	「状態」であるため「汚れている」が正しい。
3	「汚れる」という出来事が過去に起きたから、「汚れた」が適切である。「汚れていた」も「汚れた」とほとんど変わらないが、「汚れていた」の方が「状態」を強調しているように感じる。
4	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「過去に汚れて今はもうきれいになっている」という意味である。
5	「状態」であるため「汚れている」が正しい。また、「汚れる」という動詞は「状態」を表す動詞だから、「タ形」とは普通使わない。
6	「ずっと前から服の汚れに気付いていた」場合は「汚れた」を使うのが正しいのに対し、「発話時の直前に服の汚れに気付いた」場合は「汚れている」を使うのが正しい。
7	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「状態を表さないからこの場合は不適切」である。
8	「汚れた」と「汚れている」両方正しいが、「汚れた」は「「汚れる」という出来事が過去

	に起きた」と強調したい時に使い、「汚れている」は「状態」であることを強調したい時に使う。
9	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「過去に汚れて今はもうきれいになっている」という意味である。
10	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」の使い方があまり分からない。
11	「汚れる」という出来事が過去に起きたから、「汚れた」が適切である。「汚れている」の使い方が分からない。
12	「汚れた」と「汚れている」両方正しい。「汚れている」も「汚れた」とほとんど変わらないが、「汚れている」の方が「状態」を強調しているように感じる。
13	「汚れた」と「汚れている」両方正しい。「汚れている」も「汚れた」とほとんど変わらない。違いを説明できない。
14	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「「汚れる」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使う。
15	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「過去に汚れて今はもうきれいになっている」という意味である。
16	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「過去に汚れて今はもうきれいになっている」という意味である。
17	「現在の状態」であるため、「汚れている」も「汚れていた」も両方正しい。「汚れた」は「過去に汚れて今はもうきれいになっている」という意味である。
18	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」の使い方があまり分からない。
19	「汚れる」も「汚れている」も「状態」を表すが、「汚れている」は「汚れたばかり」という意味があるから、「汚れる」の方が正しい。「汚れた」の使い方が分からない。
20	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「汚れている瞬間」を目撃した時に使う。
21	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「「汚れる」という出来事が過去に起きた」と強調したい時に使う。
22	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「過去に汚れて今はもうきれいになっている」という意味である。
23	「状態」であるため「汚れている」が正しい。「汚れた」は「汚れている瞬間」を目撃し

	た時に使う。

「濡れる」

調査協力者	選択した理由
1	「状態」だから「濡れている」が正しい。
2	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
3	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れていた」も正しいが、現在を表す「濡れている」の方が正しい。
4	「状態」だから「濡れている」が正しい。
5	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」はあまり使わない気がする。
6	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「水をこぼした人を知っておりその人が水をこぼしているところを目撃した」時に使う。
7	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
8	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」の使い方が分からない。
9	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「濡れて今は乾いている」という意味である。
10	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」の使い方が分からない。
11	「濡れる」という出来事が過去に起きたから、「濡れた」が正しい。「濡れている」の使い方が分からない。
12	「濡れた」も「濡れている」も両方正しい。「濡れた」も「濡れている」とほとんど変わらないが、「濡れている」の方が「状態」を強調している気がする。
13	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」の使い方が分からない。
14	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
15	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「濡れて今は乾いている」という意味である。
16	「さっき」という言葉があったから、過去の状態を表す「濡れていた」を選択した。

17	「状態」であるため、「濡れる」も「濡れている」も両方正しい。「濡れた」は「過去に今は濡れて乾いている」という意味である。
18	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」の使い方が分からない。「濡れた」より「濡れている」の方が「濡れる度合い」が高い気がする。
19	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れている」は「濡れたばかり」という意味も入っている気がする。
20	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「濡れている瞬間」と目撃した時に使う。
21	「濡れた」も「濡れているも両方「状態」を表して正しいが、「濡れている」の方が正しい気がする。
22	「状態」だから「濡れている」が正しい。「濡れた」は「濡れて今は乾いている」という意味である。
23	「濡れた」も「濡れている」も両方正しい。「濡れた」も「濡れている」とほとんど変わらないが、違いが分からない。

「消える」

調査協力者	選択した理由
1	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」が使えないのは、「消える」という出来事を目撃していなかったからである。
2	「消える」も「消えている」も両方正しい。「消える」は「治る」と同じように動詞自体が「状態」を表すから、「消える」も正しい。そして、「消えている」も「状態」を表すため「消えている」も正しい。「消えた」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
3	「状態」だから「消えている」が正しい。
4	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「過去に電気が消えた」と表す時に使う。
5	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」が使えないのは、「消える」という出来事を目撃していなかったからである。
6	「消える」も「消えている」も両方正しい。「消える」の動詞自体が「状態」を表すから、「消える」も正しい。そして、「消えている」も「状態」を表すため「消えている」も正

	しい。
7	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「過去に電気が消えた」と表す時に使う。
8	「消えた」も「消えている」も両方正しい。「消えている」は「現在の状態」を強調するのに対し、「消えた」は「ただ過去に消えた」という出来事を述べる気がする。
9	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「過去に電気が消えた」と表す時に使う。
10	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「電気が消えるところを目撃した」時に使う。
11	「消える」という出来事が過去に起きたから、「消えた」が正しい。「消えている」の使い方が分からない。
12	「消えた」も「消えている」も両方正しい。「消えている」は「現在の状態」を強調するのに対し、「消えた」は「ただ過去に消えた」という出来事を述べる気がする。
13	「消えた」も「消えている」も両方正しい。違いを説明できない。
14	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「過去に電気が消えた」と表す時に使う。
15	「消えた」も「消えている」も両方正しい。「消えている」は「現在の状態」を強調するのに対し、「消えた」は「ただ過去に消えた」という出来事を述べる気がする。
16	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」の使い方が分からない。
17	「なぜ「消える」を選んだか」を覚えていない。「消えていた」は「状態を表す」から正しい。「消えている」は「消えかけている」という意味である。「消えた」は「過去に消えた」という意味である。
18	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「電気が消えるところを目撃した」時に使う。
19	「消える」も「消えている」も両方正しい。「消える」の動詞自体が「状態」を表すから、「消える」も正しい。そして、「消えている」も「状態」を表すため「消えている」も正しい。「消えた」は「過去に電気が消えた」という意味である。
20	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「電気が消えるところを目撃した」時に使う。

21	「消えた」も「消えている」も両方「状態」を表して正しいが、「消えている」の方が正しい気がする。
22	「状態」だから「消えている」が正しい。「消えた」は「過去に電気が消えて今は点いているかもしれない」と表す時に使う。
23	「消えた」も「消えている」も両方正しい。「消えた」は「消えて現在までその状態が続いている」という時に使う。「消えている」は「少しずつ消えている」という意味である。選ぶなら「消えた」の方が正しい気がする。

「混む」

調査協力者	選択した理由
1	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「状態」を表さないためこの場合は使えない。
2	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「状態」を表さないためこの場合は使えない。
3	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は聞いたことがない。
4	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「混んでいるバスが通って見えなくなった」時に使う。
5	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「バスが混んだ瞬間を目撃した」時に使う。
6	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
7	「状態」だから「混んでいる」も「混んでいた」も両方正しいが、「混んでいる」は今の状態を強調しているのに対し、「混んでいた」は「ずっと前から混んでいる」と強調している。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
8	「混んだ」も「混んでいる」も両方正しい。「混んだ」は「ただ過去にバスが混んだ」という出来事を述べるのに対し、「混んでいる」は「状態」を強調する時に使う気がする。
9	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「バスが混んでいたが今はもう混んでいない」時に使う。
10	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」の使い方が分からない。

11	「混む」という出来事が過去に起きたから、「混んだ」が正しい。「混んでいる」の使い方が分からない。
12	「混んだ」も「混んでいる」も両方正しい。「混んだ」は「ただ過去にバスが混んだ」という出来事を述べるのに対し、「混んでいる」は「状態」を強調する時に使う気がする。
13	「混んだ」も「混んでいる」も両方正しい。違いを説明できない。
14	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去の出来事を人に使える」時に使う。
15	「混んだ」も「混んでいる」も両方正しい。「混んでいる」は「状態」を強調する時に使う気がする。
16	「状態」だから「混んでいる」が正しい。また、「混んでいる」をよく聞くから。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
17	「混んだ」も「混んでいる」も両方正しい。「混む」という出来事が過去に起きたから「混んだ」も正しい。「混んでいる」は「状態」を表している。
18	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「目の前の出来事を描写するのに使わない」からこの場合は不適切である。
19	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
20	「状態」だから「混む」と「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
21	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。
22	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去の出来事を人に伝える」時に使う。「なっていた」はなんとなく選んだ。
23	「状態」だから「混んでいる」が正しい。「混んだ」は「過去に混んでいて今はもう混んでいない」という時に使う。

資料６：日本語教材の「結果状態」の「テイル」の練習問題

『みんなの日本語』第 15 課

練習 A

① マリアさんを知っています。

② わたしは結婚しています。

練習 B

例 1：ミラーさんを知っていますか。（はい）→ はい、知っています。

例 2：ミラーさんは車を持っていますか。（いいえ）→ いいえ、持っていません。

① ミラーさんは結婚していますか。（いいえ）→

② ミラーさんは大阪に住んでいますか。（はい）→

③ ミラーさんの住所を知っていますか。（いいえ）→

練習 C

A：山田さんの電話番号を知っていますか。

B：ええ。

A：すみませんが、教えてください。

① 松本さんの住所

② 安い床屋

③ いい歯医者

『みんなの日本語』第 29 課

練習 A

① ８じはんのでんしゃはこんでいます。

② このふくろはやぶれています。

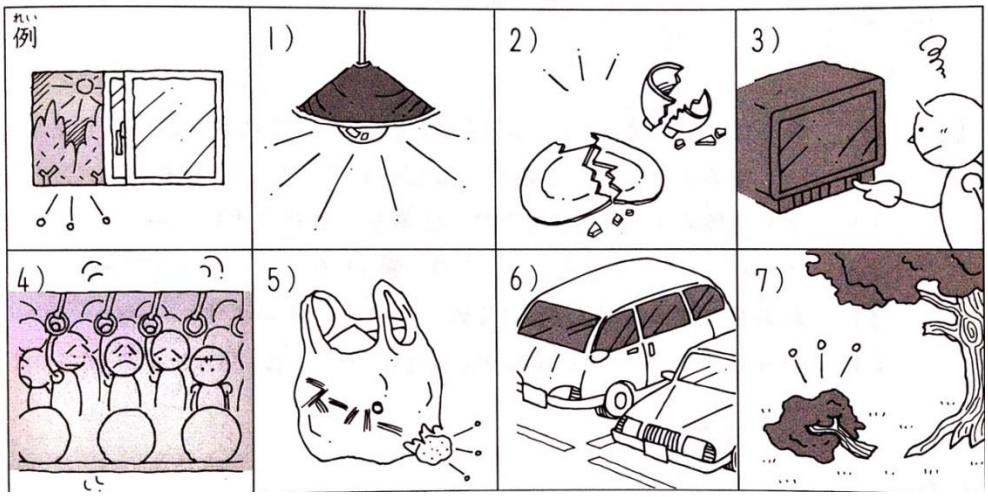
③このエレベーターはこしょうしています。

練習 B

1. 例：→　窓が開いています。

1）→　　2）→　　3）→　　4）→

5）→　　6）→　　7）→



2. 例 1：エアコンが消えます・つけてください。

→　エアコンが消えていますから、つけてください。

例 2：エアコンがつきませんでした・暑かったです。

→　エアコンがついていませんでしたから、暑かったです。

①　かぎが掛かります・会議室に入れません　→

②　電気がつきません・だれもいないと思います　→

③　道がすきました・早く着きました　→

④　スーパーが閉まりました・買い物できませんでした　→

3. 例：このファックスを使ってもいいですか。（故障します）

→　そのファックスは故障していますよ。

①　このコップを借りてもいいですか。（汚れます）→

②　この袋をもらってもいいですか。（破れます）→

③　このテープレコーダーを使ってもいいですか。（壊れます）→

④　このコーヒーを読んでもいいですか。（冷たくなります）→

練習 C

1. A：あのう・・・。

B：はい。

A：かばんが開いていますよ。

B：えっ。あ、どうもすみません。

① ボタンが外れます

② クリーニングの紙が付きます

2. A：すみません。この①パンチ、使ってもいいですか。

B：あ、その①パンチは②壊れていますから、こちらのを使ってください。

A： すみません。

1）① 袋

② 汚れます

2）① 封筒

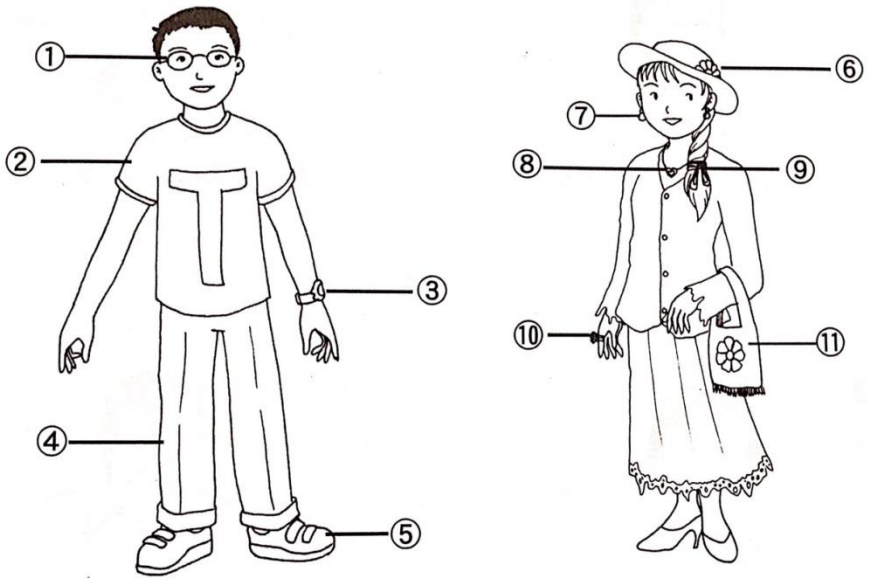
② 破れます

『あきこと友だち』

1.

1.1　二人の服装を説明してください。

れい：①めがねをかけています。

1.2　二人の服装の違いを説明してください。

れい：男の人はめがねをかけていますが、女の人はめがねをかけていません。